

フ故ニ差押債權者ノ要求額ヲ超過スル債權ニ付テハ其額ニ制限シ合額ノ轉付ヲ命スルコトヲ得サルヤ勿論ナリ從テ此場合ニハ債權ノ一部ヲ轉付スルニ至ルコトアル可シ而シテ若シ差押債權ニシテ不可分ノモノナルトキハ其全額ヲ轉付スルコトヲ得サル場合アル可ク又轉付ノ命令ハ券面額即チ其命價ヲ以テ移付ヲ爲スモノナレハ債權ニ命價ナキモノハ之ヲ爲スコトヲ得ス

此轉付ノ命令アル場合ニ於テモ第五百九十八條第二項ノ手續ニ依リ轉付ノ命令ヲ第三債務者及ヒ債務者ニ送達シ其旨ヲ債權者ニ通知スルヲ以テ其效力ヲ生スルモノトス而シテ此命令ノ效果ニ因リ差押債權者ハ直チニ其債權ノ承繼人トナル可キモノタリ故ニ差押債權者ハ第三債務者ニ於テ支拂ヲ爲スノ資力アルト否トヲ問ハス其債權ノ存スル限リハ債務者ヨリ辨濟ヲ受ケタルモノト看做サル、モノトス(第六百一)從テ其債權カ果シテ存在セシモノナリヤ否ヤハ當時ニ於ケル債務者ト第三債務者トノ實體上ノ關係ニ依リ事實ニ付キ決ス可キ問題ニシテ果シテ其債權存在セハ未タ辨濟ノ時期到來セサルモノト雖モ

特別ナル換價處分

其儘差押債權者ニ之ヲ移付シ以テ債務者ヨリ辨濟ヲ終リタルモノトナスニ在リ

前陳ノ如ク轉付ノ命令アリタルトキハ其債權ハ差押債權者ノ有ニ歸スルモノトナスカ故ニ此轉付ノ命令アリタル場合ニハ他ノ債權者ハ其債權ニ對シ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ス(第六百二)

(三) 特別ナル換價處分 金錢債權ノ強制執行ハ前陳ノ如ク一般ニハ債權移付ノ手續ヲ以テ辨濟ヲ爲サシメ換價ノ手續ヲ爲サルヲ常トスレトモ差押債權ノ性質ニ依リテハ取立又ハ轉付ノ命令ヲ受クルモ其債權ヲ取立ツルニ困難ヲ生スル場合アル可シ斯ル場合ニハ差押債權者ハ差押命令ヲ發シタル執行裁判所ニ向ヒ取立又ハ轉付ノ命令ヲ求メスシテ他ノ換價方法ヲ申請スルコトヲ得ヘシ若シ既ニ取立ノ命令ヲ受ケタルモノナルトキハ之ヲ拋棄シテ之ニ代ヘ他ノ換價方法ヲ申請スルヲ妨ケス然レトモ既ニ轉付ノ命令ヲ受ケタルモノナルトキハ其命令ニ因リ債務者ヨリ債權ノ辨濟アリタルモノト看做ス可キモノナレハ更ニ他ノ換價方法ヲ申請スルヲ得ス

而シテ取立ノ困難トハ未必ノ條件ニ係ル債權期限ノ到來セサル債權
又ハ反對給付ヲ爲ス可キ債權ノ如キ是ナリ又買戻權ナル債權ノ如キ
モ之ニ類ス此種ノ債權ニ付キ特別ノ換價處分ヲ爲スニハ如何ナル手
段ヲ採ル可キヤハ固ヨリ執行裁判所ノ意見ニ依リ決ス可キモノニシ
テ或ハ競賣ノ方法ヲ用キ又ハ適當ノ市價ニ依リ賣却ヲ命スルコトア
ル可シ而シテ此決定ヲ爲スニハ豫メ相手方ヲ審訊シテ之ヲ爲ス可キ
ナリ然レトモ其相手方カ外國ニ在リ又ハ内國ニ在ルモ住居不明ナル
トキハ此限ニ在ラス(第六百三十三條)

手形其他裏書
以テ移轉ス
ル債權ニ對ス
執行ニ對スル

(第三) 手形其他裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ因ル債權ニ對スル
強制執行

金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權中手形債權ハ證券ノ裏書ニ依リ流通シ得
ヘキモノナレハ其執行方法ヲ異ニシ又金錢債權ニ非ラサルモ手形ト同
様裏書ニ依リ流通シ得ヘキ證券例ヘハ船荷證券倉庫證券等ニ依ル債權
ニ付テモ手形ト同シク一種特別ノ執行方法ヲ採レリ
一般ノ債權ニ對スル執行ノ差押ハ差押命令ヲ以テ爲ス可キモノナリト

金錢以外ノ有
體物若クハ有
價證券ノ引渡
若クハ給付ヲ
目的トスル執
行ニ對スル債

雖モ右等ノ流通證書ニ依ル債權ノ差押ハ執達吏ヲシテ其證券ヲ占有セ
シメ以テ之カ差押ヲ爲ス可キモノトス是レ其證券ニ基ク債權ハ第三債
務者カ其證券所持者ニ對シテ辨濟スルヲ常トスヘキモノナルカ故ニ單
ニ第三債務者ニ支拂フコトヲ禁シ債務者ニ其處分ヲ禁スルノミニテハ
未タ以テ完全ニ其差押ノ效ヲ得セシムルコト能ハサルヲ以テ斯ク規定
シタルモノナリ

此種ノ債權ノ差押手續ハ斯ノ如ク特別ナル方法ヲ用ユレトモ其後ノ手
續即チ差押債權取立ノ爲メ又ハ轉付ノ爲メノ移付ノ手續又ハ有體物ヲ
目的トスル債權ニシテ斯ル證券ニ依ルモノハ爾後其物品ヲ執達吏ニ引
渡サシム可キ命令ヲ求ムル手續ノ如キハ總テ普通ノ金錢ノ支拂ヲ目的
トスル債權ニ對スル強制執行及ヒ有體物給付ノ債權ニ對スル強制執行
ノ手續ニ從フ可キモノトス(第六百三十三條)

(第四) 金錢以外ノ有體物若クハ有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスル
債權ニ對スル強制執行

金錢以外ノ有體物(有價證券ノ引渡若クハ給付ヲ目的トスル債權ニ對スル)
民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 一九一

ル強制執行ハ其請求權カ民法上ノ債權ニ基クト物權ニ關スルトヲ問ハ
 ス又動産ナルト不動産ナルトヲ論セス法律ニ特別ナル規定ナキ限りハ
 前陳ノ金錢債權ニ付テノ一般ノ執行方法ヲ準用ス可キモノトス(第六百
 十四條)
 故ニ唯其特別ナル規定ノミニ付テ説明スヘシ

(二) 有體動産(有價證券)ノ請求ニ付テノ強制執行 此種ノ債權ニ對スル
 強制執行ハ其差押命令ニ於テ債權ノ處分ヲ禁スルノ外ニ第三債務者
 ニ對シ其動産ヲ委任セラレタル執達吏ニ引渡ス可キコトヲ命ス可ク
 此命令ハ普通ノ差押命令中ノ第三債務者ニ對スル支拂禁止ノ命令ニ
 代ハル可キモノニシテ之ニ依リテ差押ヲ實施スルモノトス故ニ此命
 令ハ第五百九十八條ノ規定ヲ準用シ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送
 達セサル可カラス

而シテ債權者ヨリ委任ヲ受ケタル執達吏ハ右ノ命令ニ依リ第三債務
 者ニ對シ引渡ノ催告ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ若シ第三債務者カ其
 命令ニ從ハサルトキハ其意ニ反シテ強制的ニ其物品ヲ取上ケルコト
 ヲ得ス故ニ此場合ニ於テハ差押債權者ハ取立命令ヲ受ケ第三債務者

ヨリ取立ノ手續ヲ盡サル可カラス若シ之ヲ拒ムトキハ之ニ對シテ
 強制執行ノ途ナキヲ以テ前述シタル第六百十條ノ規定ニ從ヒ第三債
 務者ニ對シ訴ヲ提起シ判決ヲ受ケタル後ニ非ラサレハ之カ強制執行
 ヲ爲スコトヲ得サルナリ

又裏書ヲ以テ移轉スルコトヲ得ル證券ニ依ル動産ノ請求ハ前ニ述ヘ
 タル如ク執達吏カ其證券ヲ占有シ差押ヲ爲シタル後ニ此命令ヲ求ム
 可キモノトス

右ノ命令ニ基キ第三債務者カ其物品ヲ引渡シタルトキ又ハ差押債權
 者カ取立命令ヲ受ケ之ニ基キ第三債務者ニ對シテ訴ヲ提起シ判決ヲ
 受ケ其執行上該物品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ爾後換價ノ方法ハ有體
 動産ニ對スル執行ノ方法ニ依リ第五百十二條以下ノ規定ニ從ヒ換價
 ス可キモノナリ(第六百
 十五條)

此有體物引渡ノ債權ニ對スル強制執行ハ金錢ノ債權ニ對スル執行ノ
 如ク轉付ノ命令ヲ爲スヲ得ス必ス換價ノ方法ニ依ラサル可カラス(第六
 百十七條)

(二) 不動産ノ請求ニ付テノ強制執行 不動産ヲ請求スル權利ヲ差押フルニ付テハ一般ノ債權ヲ差押フル手續ト全ク其方法ヲ異ニシ差押債權者ハ先ツ以テ其不動産所在地ノ區裁判所ニ向テ其不動産ヲ保管ス可キ保管人ヲ命セラレシコトヲ申請シ其任命アリタル後尙ホ執行裁判所ニ向テ右區裁判所ノ命シタル保管人ニ其不動産ノ引渡ヲ命セラレシコトヲ申立テ其引渡命令ニ依リテ差押ヲ爲ス可キモノトス(第六條六)

要スルニ不動産ノ請求權ヲ差押フルニハ保管人ノ任命ハ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲シ其保管人ニ不動産ヲ引渡ス命令ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス

而シテ第三債務者カ引渡命令ニ對シ任意ノ履行ヲ爲サ、ル場合ニ於テハ動産引渡ノ命令ニ對シ其履行ヲ拒ム場合ト等シク直チニ強制執行ヲ爲シ得サルハ勿論ニシテ動産引渡ノ場合ト同様ノ手續ヲ盡サ、ル可カラス

又第三債務者ヨリ其不動産ノ引渡ヲ受クタルトキハ爾後ノ換價手續

不動産ノ目的
不動産ノ執行
不動産ノ執行
不動産ノ執行

ハ不動産ニ對スル強制執行ノ規定ニ從ヒ第六百四十條以下ノ手續ニ依リ強制競賣ニ付ス可キモノトス

以上一號及ヒ二號ノ場合ハ共ニ其換價方法ニ付キ特別ノ規定アルカ故ニ必ス其方法ニ從フ可キモノニシテ支拂ニ代ヘ券面額ニテ轉付ノ移付ノ命令ヲ發スルコトヲ得ス(第六百五十七條)蓋シ其理由ハ有體物ニハ券面額即チ一定ノ命價ナルモノ之ヲキテ以テ性質上轉付ノ命令ヲ爲スニ適セサルヲ以テナリ

(第五) 不動産ヲ目的トセス又ハ前述以外ノ財産權ニ付テノ強制執行 差押債務者ノ有スル權利ハ以上述ヘタル金錢ノ債權、動産、不動産ナル有體物引渡若クハ給付ノ權利ノ外尙ホ幾多ノ權利アリ而シテ此等ノ權利ニシテ差押ヲ禁シタルモノニ非ラサル限リハ尙ホ之カ差押ヲ爲スコトヲ得ヘシ

如何ナル權利カ金錢ノ債權及ヒ動産、不動産等ノ請求權ノ外ニ尙ホ財産權トシテ存在ス可キヤハ固ヨリ實體法ニ依リ攻究ス可キモノナルコトハ論ヲ俟タサレトモ夫ノ社團法人ノ社員タル權利又ハ著作權專賣特許

權其他ノ營業權ノ如キハ此種ノ財産權ニ屬スルモノト謂フコトヲ得ヘク又法律上一定ノ名稱ナキモ漁魚權渡船場ノ船賃又ハ橋錢ヲ收入スル權利ノ如キモ此種ノ財産權ニ屬スルモノト謂フコトヲ得ヘシ
 斯ル種類ノ財産權中ニモ性質上強制執行ノ目的トナシ能ハサルモノ之アル可シト雖モ其本質ニ於テ差支ナキトキハ等シク金錢ノ債權ノ辨濟ニ充ツルカ爲メニ之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ而シテ其強制執行ノ方法ハ前項マテニ説明シタル各種ノ債權差押ノ規定ヲ適用シ得ヘキ限リ相當ニ之ヲ適用シテ執行ス可キモノトス若シ其財産權ニシテ第三債務者ナキモノナルトキハ債務者ニ權利ノ處分ヲ禁スル命令ヲ送達スルヲ以テ其差押ヲ爲シタルモノト看做ス可ク且斯ル財産ニ對スル執行ニ付テハ執行裁判所ハ其執行ヲ爲スニ相當ト認ムル處分ヲ爲シ特ニ其權利ヲ管理者ニ管理セシメ又ハ之ヲ讓渡ス可キコトヲ命スルカ如キ處分ヲ爲スコトヲ得(第六百二十五條)

(第六) 數名ノ債權者ノ執行及ヒ配當要求

金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ヲ差押フル場合ナルト他ノ有體物ノ引渡

數名ノ債權者ノ執行及ヒ配當要求

若クハ給付ヲ目的トスル債權ヲ差押フル場合ナルトヲ問ハス數名ノ差押債權者ノ爲メニ同時ニ債權ノ差押ヲ爲シタルトキモ前ニ説明シタル手續ヲ準用シテ差押ヲ爲シ又其移付ノ手續及ヒ換價方法等モ其規定ヲ準用ス可キモノトス(第六百十九條)
 又既ニ差押アリタル後ニ第二以後ノ債權者カ其差押ニ依リ得ヘキ金額ニ付キ支拂ヲ請求スルコトヲ得ヘキハ差押ニ依リテ優先權ヲ與ヘサル本法ノ規定ニ於テハ債權差押ノ場合モ有體物差押ノ場合ト異ナルコトナシ此場合ニハ第二以後ノ債權者ハ配當要求ノ手續ヲ爲ス可キヲ通例トス

(二) 配當要求者ニ二種アルコトハ有體動産ニ對スル執行ノ場合ト同一ナリト雖モ之ヲ要求スル手續ハ同一ナラス(第六百二十六條)

(甲) 執行力アル正本ヲ有スル配當要求債權者 此債權者ノ權利ハ既ニ確定シタルモノナルカ故ニ配當要求書ニ單ニ執行力アル正本ヲ添付シ之ヲ執行裁判所ニ提出シテ其要求ヲ爲ス可キモノトス
 此債權者ハ第一債權者即チ差押債權者ノ差押力取消トナリタルト

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 一九七

キハ要求ノ順序ニ從ヒ差押債權者ノ地位ニ代リ其差押ヲ續行スル
權利ヲ有ス(第六百二條)加之第三債務者カ執行裁判所ノ命令ニ對シ履
行ヲ爲サハルトキハ差押債務者ト共同原告トナリ第三債務者ニ對
シテ訴ヲ提起スルコトヲ得(第六百二十條)又差押債權者カ取立權ノ行
用ヲ怠リタルトキハ之ヲ催告シ若クハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ自
ラ其手續即チ取立ヲ爲スコトヲ得(第六百二條)

(乙) 執行力アル正本ニ依ラサル配當要求債權者即チ民法ノ規定ニ從
フ配當要求者 此配當要求者ノ權利ハ固ヨリ未確定ノモノナルヲ
以テ明カニ其要求ノ原因ヲ開示シ執行裁判所ニ之カ要求ヲ爲ス可
キモノトス此場合ニハ第五百九十一條ノ規定ニ依リ債務者ハ執行
機關ヨリ配當要求ノ通知アリタルヨリ三日内ニ其債權ヲ認諾スル
ヤ否ヤヲ執行機關ニ申出ツ可キモノトス若シ債務者カ之ヲ認諾セ
サルトキハ同條第三項ノ規定ニ從ヒ訴ヲ起シ其請求ヲ確定シタル
上ニ非ラサレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス

以上執行力アル正本ニ依リタルト否トヲ問ハス總テ配當要求アリタ

ルトキハ執行機關ハ其要求書ノ謄本ヲ差押債權者及ヒ第三債務者ニ
送達ス可キモノトス

(二) 配當要求ノ時期 配當要求ノ時期ハ金錢ノ債權ヲ差押ヘタルトキ
ト有體物ヲ引渡ス債權ヲ差押ヘタルトキトニ因リ其規定ヲ異ニス

(甲) 金錢ノ債權ヲ差押ヘタル場合 此場合ニハ差押債權者カ既ニ轉
付ノ命令ヲ受クタル後ハ配當要求ヲ爲スヲ得ス又其債權中差押債
權者ノ債權額タクニ制限シタル取立命令ヲ發セラレタルトキモ亦
之ニ對シテ配當要求ヲ爲スコトヲ得ス而シテ單純ナル取立命令ヲ
發セラレタルトキハ其取立ヲ爲シ第六百八條ノ規定ニ依リ其旨ヲ
執行裁判所ニ届出ツルマテハ之ニ對シテ配當要求ヲ爲スコトヲ得
(乙) 其他ノ有體動産ノ引渡ノ債權ヲ差押ヘタル場合 此場合ニ於テ
ハ第六百三條第六百十五條及ヒ第六百十六條ノ規定ニ依リ其手續
ヲ盡シタル上執達吏カ差押ニ依リ引渡ヲ受クタル物ノ換價ヲ爲シ
其賣得金ヲ領收スルマテハ配當要求ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(三) 配當要求後ニ於クル第三債務者ノ債務額供託及ヒ物件引渡

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 一九九

(甲) 金錢ノ債權ヲ差押ヘタル場合ニ於テ配當要求書ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ハ其債務額ヲ供託スルノ權利ヲ生シ又配當ニ與カル債權者中ヨリ求メアルトキハ之ヲ供託スルノ義務ヲ生ス

而シテ第三債務者カ其債務額ヲ供託シタルトキハ其事情即チ自ラ進ミテ供託ヲ爲シタルヤ又ハ或債權者ノ求メニ因リ供託ヲ爲シタルヤ其供託金ノ數額等ノ事情ノ届書ニ供託證書ヲ添ヘ執行裁判所ニ届出ツ可キモノトス此事情届書ハ第五百九十三條ノ規定ニ於ケル事情届書ト殆ト同一ニシテ此届書アリタル後ハ配當裁判所ハ第六百三十六條以下ノ規定ニ從ヒ配當手續ヲ盡ス可キモノトス(第六百六十一條)殊ニ取立命令ヲ發スル前ニ配當要求アリテ此供託ノ手續ヲ盡シタルモノナルトキハ既ニ取立ノ手續ヲ要セサルモノナレハ其後取立命令ヲ發スルニ及ハス直チニ配當手續ニ移ルコトヲ得ヘシ

(乙) 不動産請求ノ債權ヲ差押ヘタルトキハ第三債務者ハ其不動産所在地ノ區裁判所カ命シタル保管人ニ事情ヲ開示シ且第六百十六條ノ規定ニ依リ送達セラレタル命令ヲ轉付シ其不動産ヲ引渡ス可キ

權利ヲ生シ又差押債權者ノ求メアルトキハ之カ引渡ヲ爲ス可キ義務ヲ生スルモノトス(第六百六十二條)

右ノ如ク債務額ヲ供託シ又ハ物件ノ引渡ヲ爲シタルトキハ自ラ進ミテ之ヲ爲シタルト求メニ因リテ之ヲ爲シタルトテ間ハス第三債務者ハ債務者ニ對シ債務ノ辨濟ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ生スルモノトス

而シテ其債權者ノ申立ニ因リ供託又ハ引渡ヲ爲スノ義務ハ第三債務者カ眞ニ債務アル場合ニ生ス可キモノニシテ本來債務ナキニ此申立アルモ斯ル義務ヲ生ス可キモノニ非ラス又債務アリテ斯ル義務ヲ生ス可キ場合ト雖モ第三債務者カ任意ノ供託又ハ引渡ヲ爲ササルトキハ別ニ訴ヲ起スニ非ラサレハ債務者ハ之ヲ強制スルノ權ナシ然レトモ此義務ヲ盡サ、リシニ因リテ債權者ニ損失ヲ生セシメタルトキハ第三債務者ハ之ヲ負擔セサルヲ得サルニ至ルコトアル可シ

第三款 配當手續

配當手續ハ數名ノ債權者ノ爲メニ強制執行ヲ爲シ(第五百九十三條)又ハ配當要求者アル場合ニノミ必要トスル手續ニシテ單ニ債權者一名ナルトキハ配當ノ手續ヲ要スルコトナクシテ單純ニ其執行ヲ終了スルコトヲ得ヘシ詳説スレハ有體動産差押ノ場合ニ差押債權者一人ナルトキハ執達吏カ金錢ノ取立ヲ爲シ又ハ差押物ヲ賣却シテ賣得金ヲ領收シタルトキヲ以テ債務者ハ差押債權者ニ對シ自ラ辨濟シタルト同一ニ看做シ(第五百七條)執達吏ハ第五百三十五條ノ規定ニ依リ執行力アル正本ヲ債務者ニ交付シ又ハ之ニ幾分ノ辨濟アリタル旨ヲ記載シテ其手續ヲ終ル可キモノトス又債權ノ差押ノ場合ニ於テモ債權者一人ナルトキハ轉付ノ命令アレハ之ニ依リテ債務者カ辨濟ヲ爲シタルモノト看做シ(第六百條)取立命令アリタルトキハ債權者カ第三債務者ヨリ金錢ノ取立ヲ爲シタルトキヲ以テ同一ニ辨濟アリタルモノト看做ス尤モ此場合ニ於テ其取立ヲ届出ツルマテハ配當要求アルヲ以テ届出マテニ配當要求ナキコトヲ條件トシテ差押債權者ニ對スル辨濟アリタルモノトナス可キモノナリ又特別ノ換價方法ヲ命シタルトキハ(第六百二十五條)其賣却代金ヲ供託シ執行裁判所ニ届出テ執行

裁判所カ之ヲ債權者ニ交付シ以テ辨濟トナスニ在リ斯ノ如ク債權者一人ナルトキハ以上ノ手續ニ依リ辨濟ヲ了ヘ執行裁判所ハ別ニ法文ナキモ第六百三十九條第二項第三項及ヒ第五百三十五條ト同一ノ趣旨ニ依リ執行力アル正本ヲ提出セシメ債務者ニ交付シ又ハ幾分ノ辨濟アリタル旨ヲ該正本ニ記入シテ債權者ニ交付ス可キモノナリ
 前述ノ如ク配當ノ手續ハ全ク數名ノ債權者アルトキニ限り之ヲ適用ス可キモノナリ而シテ本款ハ動産ニ對スル執行ノ節ニ屬スルモノナルカ故ニ不動産ニ對スル執行ノ配當ニハ之ヲ適用ス可キモノニ非ラス其配當ニ付テハ次節ニ特別ノ配當手續ノ規定アルカ故ニ其規定ニ從フ可キモノナリ而シテ本款ノ規定ハ有體動産ニ對スルト債權ニ對スルトヲ問ハス之ヲ適用ス可キモノナレトモ第六百二十六條ノ規定ニ判然セサル所アルヲ以テ有體動産ノ差押ニ付キ債權者間ニ協議調ハサルトキノミ(第五百九條)適用ス可キモノ、如キ誤解アルコトヲ免カレスト雖モ本款ハ敢テ有體動産ニ對スル執行中ノ一ニ非ラス總テノ動産ニ對スル強制執行中ノ一欸ナレハ債權ニ對スル強制執行ニ付テモ之ニ依ル可キモノナルコトハ疑ナシ蓋シ債

權ニ對スル執行ハ執行裁判所ノ執行行為ニ屬スルモノナレハ之ニ付キ配當ヲ要ス可キ場合ニハ執行裁判所ノ配當手續ニ依ル可キハ勿論ナリ
 斯ノ如ク此配當手續ハ數名ノ債權者アル場合ニ於テ適用ス可キモノナリト雖モ其差押ニ依リテ得タル金錢(實得金ヲ包含ス)カ數名ノ債權者ノ債權ヲ満足セシムルニ足ル可キトキ又ハ其配當ニ付キ協議調ヒタルトキハ之ニ依リテ金錢ヲ授受シ唯前陳ノ如ク執行力アル正本返還等ノ處分ヲ爲セハ足ル可キモノニシテ此配當手續ヲ要セス故ニ此配當手續ハ次ニ説明スル事由ノ存スルトキニ限り之ヲ行フ可キモノトス

配當手續ヲ爲ス可キ場合

(第一) 配當手續ヲ爲ス可キ場合

配當手續ハ左ノ事項ノ存スルトキニ限り之ヲ行フ

(一) 數名ノ債權者アルトキ 數名ノ債權者トハ配當上ニ關係アル債權者數名ナルトキヲ謂フ即チ差押債權者カ數名ナルトキ又ハ配當要求者アルトキ是ナリ其差押債權者中ニハ假差押債權者ヲモ包含ス抑モ本法ニ於テハ假差押ニ係ル物件ト雖モ尙ホ之ヲ差押フルコトヲ得ヘキモ(第五百八條)此場合ニハ本差押債權者及ヒ假差押債權者ノ數名ノ爲

メニ差押ヲ爲ス可キモノニシテ假差押債權者モ條件附ノ配當ニ加入スル權利アルモノトス又配當要求者ハ執行力アル正本ニ依ル債權者モ其正本ヲ有セサル債權者モ配當上ニ於テハ總テ關係債權者ナリトス

(二) 執行ニ依リテ得タル金錢ヲ以テ各債權者ヲ満足セシムルニ足ラサルトキ 各債權者ノ債權ニ對シ皆濟シ得ヘキ金額ヲ得レハ之ヲ各債權者ニ交付シ以テ執行ヲ終了スルコトヲ得ヘシ

(三) 配當ニ付キ總債權者間ニ協議調ハサルトキ 債權者ノ一致ノ合意ヲ以テ配當ノ協議調ヒタルトキハ其協議ニ基キ差押ニ依リテ得タル金錢ヲ授受スルヲ以テ足ル故ニ有體動産ノ差押ニ付テハ競賣期日又ハ金錢差押ノ日ヨリ十四日ノ期間内ニ協議調ハサルトキハ執達吏ハ金錢ヲ供託シテ事情ヲ届出テ此配當手續ニ移ル可キモノトス(第九百三條第六百二十六條)

假差押ニ係ルモノヲ更ニ本差押トナシタルトキハ未確定ノ債權ナレハ債權者間ニ任意ノ協議ヲ爲スコト能ハス故ニ必ス配當手續ニ依ラ

サル可カラス

二〇六

(四) 金銭ヲ供託シテ事情ノ届出アリタルトキ 差押ノ結果ニ依リ得タル金銭ヲ供託シ事情ノ届出ヲ爲ス場合ハ左ノ如シ

(甲) 有體動産ニ對スル強制執行ニ關シ配當ニ付キ協議調ハサルカ爲メ執達吏カ差押金銭又ハ賣得金ヲ供託シタルトキ(第一百五九條)

(乙) 債權ニ對スル強制執行ニ關シテハ左ノ區別ニ從フ

(イ) 配當要求アリタルカ爲メ第三債務者カ債務額ヲ供託シテ其事情ヲ届出テタルトキ(第六百一十條)

(ロ) 取立命令ヲ受ケタル債權者カ其債權ヲ取立テ、届出テタルトキ 此場合モ配當要求アルトキ又ハ假差押アル債權ヲ更ニ差押ヘタルモノニ付キ配當上ノ債權者アルトキハ其金額ヲ供託ス可キモノナリ(第六百八條)

(ハ) 差押ヘタル債權ニ付キ特別ノ換價方法ヲ命シタルトキ(第六百三十五條) 此場合ニモ其換價ニ依リテ得タル金銭ハ取立命令ニ依リテ取立テタル場合ノ規定ニ準シ之ヲ供託シテ執行裁判所ニ

届出ツ可キモノトス

此等ノ事由ナキトキハ配當手續ヲ進行スルコトヲ得ス而シテ此等ノ事項ニ適合スルトキハ執行裁判所ハ其職權ヲ以テ配當ヲ爲ス可キモノナリ又其差押ハ執達吏ノ爲シタル有體動産ニ對スル執行ニ付テモ亦同一ナリ

斯ノ如ク配當手續ヲ執行裁判所ノ執行行爲ニ屬セシメタル所以ハ配當ニ付テハ民法、商法等ノ實體法ニ基キ優先權ノ有無及ヒ其順位等ノ判定ヲ爲サル可カラサル事項アルカ故ニ之ヲ執達吏ニ一任スルコトヲ得サルモノトナスニ在リ而シテ執行裁判所カ此配當手續ヲ實施スルニ至リテハ一名之ヲ配當裁判所ト云フ(第六百三十五條)

配當裁判所ハ先ツ其準備トシテ債權額ヲ申出サシメ配當表ヲ作成シ之ニ對スル異議ノ有無ヲ確メ而シテ後配當ヲ實施ス可キモノナリ

配當ノ準備

(第二) 配當ノ準備

配當ノ準備手續ハ左ノ順序ニ從フ

(一) 計算書提出ノ催告 前ニ説明シタルカ如ク差押ニ依リテ得タル金

民事訴訟法正解 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 二〇七

錢ヲ供託シテ事情ノ届出アリタルトキハ配當裁判所ハ配當手續ヲ爲
 ス可キモノナリヤ否ヤヲ調査シ之ヲ實施ス可キモノト認ムルトキハ
 七日ノ期間内ニ配當ヲ受ク可キ債權ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ催告
 ス可キモノトス而シテ各債權者ハ其主タル債權額及ヒ利息ノミナラ
 ス訴訟費用執行費用等ヲ合算シタル計算書ヲ提出ス可キモノナリ然
 ルトキハ此計算書ニ依リテ配當ヲ求ムル金額ヲ確定スルモノトス(第六
 百二十
 七條)
 而シテ若シ此期間内ニ計算書ヲ差出サ、ル者アルトキハ其債權者ニ
 關シテハ事情届出書配當要求書其他ノ證據書類ニ依リ配當表ヲ作成
 ス可ク其懈怠アリタル債權者ハ後日配當表ノ補充ヲ求ムルコトヲ得
 ス是レ懈怠ノ結果ナリ(第六百二十
 八條第二項)尤モ事情届書及ヒ配當要求書若ク
 ハ證據書類等ニ抵觸シタル計算ヲ掲ケ之ニ依リテ配當表ヲ作りタル
 トキハ之ヲ理由トシテ其配當表ニ對シテ異議ヲ申立ツルハ此限ニ在
 ラス

(二) 配當表ノ作成 配當裁判所ハ各債權者ヨリ計算書ヲ提出シタルト

否トヲ問ハス七日ノ期間經過後直チニ配當表ヲ作成セサル可カラズ
 其配當表作成ニ付テハ配當裁判所ハ計算書其他ノ書類ヲ調査シ計算
 ノ當否及ヒ優先權ノ有無並ニ其順位等ヲ調査シ之カ作成ヲ爲ス可キ
 モノナリ而シテ其作成ニ付キ法律上ノ判斷ハ總テ判事ノ任ナルヲ以
 テ其成表ノ手續ニ付テハ判事カ之ヲ監督スレトモ其記載方ハ裁判所
 書記ヲシテ之ヲ作ラシムルコトヲ得ヘシ何トナレハ元來裁判所ニ於
 ケル成表書類ノ編製及ヒ調書ノ作成等ニ關スル手續ハ書記ノ職務ニ
 屬ス可キモノナルヲ以テナリ而シテ其配當表ハ債權者及ヒ債務者ニ
 閱覽セシムルカ爲メ配當期日ノ三日前ニ裁判所書記課ニ備ヘ置キ異
 議アル者ヲシテ之カ申立ヲ爲スノ機會ヲ得セシム(第六百二十
 九條第二項)
 (三) 配當期日ノ指定及ヒ當事者ノ呼出 配當裁判所ハ配當表ヲ作成シ
 タル後配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ期日ヲ指定シ且債權者及
 ヒ債務者ヲ呼出ス可キモノトス但債務者ノ所在不分明ナルトキ又ハ
 外國ニ在ルトキハ之カ呼出ヲ要セス(第六百二十
 九條第一項)

(第三) 配當期日ニ於ケル異議ノ申立

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 二〇九

配當期日ニ於
 ケル異議ノ申

配當表ニ對シテ異議ヲ申立ル者

配當期日ニ於テハ債權者及ヒ債務者出頭シ配當表ニ關スル陳述(異議ヲ包含ス)ヲ爲ス可キヲ通例トス配當表ニ對シテ異議アル者ハ期日前ニ配當裁判所ニ異議ノ申立書ヲ提出スルコトヲ得ヘシト雖モ配當期日ニハ必ス出頭シテ之ヲ主張セサル可カラス其期日ニ出頭セサル債權者ハ縱令其前ニ異議ノ申立書ヲ提出シタルトキト雖モ法律ハ其配當表ニ同意シタルモノト看做ス(第三百六十條)

債務者ノ異議ハ書面ノミヲ以テモ其效アリ而シテ其配當表ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ如シ

(一) 各債權者 各債權者ハ配當表ニ定メタル要求額ニ付キ實體上債權ノ存否及ヒ其限度優先權ノ有無及ヒ其順位ニ付キ自己ノ債權ヲ認メラレサリシ點ヲ爭ヒ又他ノ債權者ノ要求ノ不當ヲ爭ヒ且形式上自他ノ債權ノ計算上ノ當否ニ付キ異議ヲ申立ツルコトヲ得

(二) 債務者 債務者ハ唯形式上ノ計算ニ付キ異議ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖モ實體上ノ債權ノ存否ニ付テハ差押ヲ爲シタル債權者ニ對シテハ第五百四十五條ノ規定ニ依リ請求ニ關スル異議ノ訴ヲ爲ス可

キモノニシテ配當表ニ對スル異議トシテハ之ヲ主張スルコトヲ得ス又債權者ニ對シテハ優先ノ順序ニ付テモ獨立シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス若シ各債權者間ニ異議アリテ訴ノ提起アルニ至レハ其訴訟ニ參加スルコトヲ得ヘキノミ又配當要求債權者ノ權利ニ對シテモ配當要求ノアリタル際ニ之ヲ否認スレハ債權者ヨリ訴ヲ起ス可キモノナレハ配當ノ際ニ至リ異議ヲ主張スルノ必要ナシ(第五百九十一條)

配當期日ニ於テ異議ノ申立アリタルトキハ他ノ債權者ハ之ニ對シ意見ヲ陳述ス可キモノナリ而シテ總テノ關係人即チ各債權者及ヒ債務者カ其異議ヲ理由アリト認メタルトキハ其理由ノ當否ニ拘ハラズ之ニ從ヒ又ハ其他ノ方法ニ依リ合意アリタルトキハ其方法ニ從ヒ若シ其異議ノ部分ヲ拋棄シタルトキハ之ニ依リ配當表ヲ更正シ配當ヲ爲ス可キモノナリ

期日ニ出頭セサル債權者ハ配當表ニ全然同意シタルモノト看做ス可キモノナルカ故ニ他ノ債權者カ異議ノ申立ヲ爲シタルトキハ其異議ヲ正當ト認メサルモノト看做ス可ク從テ配當期日ニ債權者ノ一人カ闕席シ

出席者ヨリ異議ノ申立アリタルトキハ其異議ヲ受クタル債權者ハ異議アル債權ヲ拋棄セサル限りハ合意又ハ其他ノ方法ヲ以テ異議ヲ完結スルヲ得サルニ至ル可シ(第六百三十一條)

配當ニ付テノ異議ノ訴

(第四) 配當ニ付テノ異議ノ訴

配當期日ニ於テ異議ノ完結セサル部分ニ付テハ之ヲ申立テタル債權者ハ別ニ訴ヲ提起シ其異議ノ當否ヲ確定セサル可カラス此場合ニ於テ其異議ヲ理由アリトスル債權者即チ異議ニ同意シタル債權者ハ共同訴訟人トシテ其訴ニ加ハルコトヲ得ヘク又理由ナシトスル債權者數人アルトキハ之ヲ共同被告トナス可キハ勿論ナリ

然レトモ債務者ヲ共同被告トナサ、ルヲ通例トス何トナレハ債務者ハ異議ノ申立アルモ必スシモ意見ヲ陳述スルヲ要セサルモノナレハナリ(第六百三十一條)又異議ノ訴ハ債權者ノ提起ス可キモノニシテ債務者ハ通例配當ニ對スル異議ノ訴ヲ提起ス可キモノニ非ラス若シ其債權中執行力アル正本ニ依ル差押債權者ノ債權ニ對シ異議アレハ強制執行ニ付キ請求ニ關スル異議ヲ提起ス可ク(第五百四十五條)其他ノ配當要求債權者ノ債權ニ對

シ異議アリ配當要求ノ通知アリタルトキ其債權ヲ否認スレハ配當要求者ニ於テ債務者ニ對シ訴ヲ提起ス可キモノナレハ配當期日ニ於テ債務者ヨリ配當異議ヲ主張スル必要ナシ是レ前ニ説明セシ所ヲ参照セラレ可シ(第五百九十一條)

(二) 異議ノ訴提起ノ期日 異議ヲ申立テタル債權者ハ配當期日ヨリ七日ノ期間内ニ異議ノ訴ヲ提起シタルコトヲ配當裁判所ニ證明スルコトヲ要ス故ニ此訴ハ必ス其期間内ニ提起セサル可カラサルコト勿論ナリ若シ之ヲ懈怠シタルトキハ配當裁判所ハ前ノ配當表ニ基キ配當ヲ實施スルニ至ル可シ然レトモ其懈怠者ハ此懈怠ノ爲メニ絶對的ニ實體上訴權ヲ行使スル權利ヲ喪失ス可キモノニ非ラス唯其配當ニ於テハ配當表通りノ分配ヲ受ケサルヲ得サルノミ然レトモ其配當表ニ基キ配當ヲ受クタル債權者ニ對シテ訴ヲ提起シ民法上ノ優先權ヲ主張シ其配當金ニ付キ尙ホ分配ヲ受クルノ權利ヲ主張スルヲ妨ケス(第三百三十條)

(二) 管轄裁判所 配當異議ノ訴ハ配當裁判所ノ管轄ニ屬スルヲ一般ト

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 二二三

ス然レトモ其訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ配當裁判所所在地ノ地方裁判所之ヲ管轄ス可ク又數個ノ異議申立人ノ訴アリテ其内ノ一カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルトキモ亦總テノ訴カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス尤モ各債權者カ總テノ異議ニ付キ配當裁判所ノ裁判ヲ受ク可キコトヲ合意シタルトキハ地方裁判所ノ管轄ニ屬ス可キ場合ト雖モ配當裁判所之ヲ管轄ス是レ執行上ノ裁判管轄ハ專屬管轄タルヲ通則トスレトモ其例外ニシテ而カモ其合意ヲ許スハ配當裁判所ノ裁判ヲ受クル合意ノミニ限ル故ニ他ノ裁判所ノ裁判ヲ受クル合意ハ之ヲ許容スルノ限ニ在ラサルナリ(第六百三十五條)

(三) 配當異議ノ訴ニ付テノ辯論及ヒ裁判 管轄裁判所ニ於テ異議ノ訴ヲ受理シタルトキハ其當否ニ付キ辯論ヲ爲シ理由アリト認ムルトキハ判決ヲ以テ正確ニ配當表ヲ更正シ配當額ノ係爭部分ニ付キ如何ナル額ヲ以テ其債權者ニ支拂ハシム可キカヲ定ム可キモノトス然レトモ其管轄裁判所カ地方裁判所ニシテ自ラ配當表ヲ更正スルヲ適當トセサルトキハ其判決ノ趣旨ニ從ヒ配當裁判所ヲシテ新ニ配當表ヲ作

(第五) 配當實施

成セシメ配當ヲ實施ス可キコトヲ命スルヲ得ヘシ(第六百三十三條)
異議ヲ申立テタル債權者カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ第二百四十六條、第二百四十七條ニ依リ異議ヲ取下ケタルモノト看做ス可キ闕席判決ヲ爲ス可キモノトス尤モ被告ノ出頭セサル場合ニ於テハ第二百四十八條ノ規定ニ依ル可ク又闕席判決ニ對シテハ第二百五十五條ノ規定ニ依リ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘキハ勿論ナリ(第六百三十七條)
右ノ訴ニ付テノ判決確定シタルトキハ其判決ヲ受ケタル者ハ第四百九十九條ノ規定ニ則リ確定ノ證明書ヲ得テ配當裁判所ニ向テ配當實施ヲ求ム可ク又配當裁判所ハ其確定判決ニ基キテ配當手續ヲ實施ス可キモノナリ(第六百三十一條)

配當實施ノ期日ニ於テ異議ノ申立ナキトキ又ハ其申立アルモ異議完結シ若シハ異議アルモ異議ナキ部分ニ付キ配當ヲ爲シ得ヘキモノナルトキハ配當表ニ從テ配當ヲ實施ス可キモノナリ(第六百三十一條第一項、第六百三十三條第二項)又

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 動産ニ對スル強制執行 二一五

配當異議ノ訴アリタルトキハ其判決確定後當事者其證明ヲ爲シテ配當實施ヲ求メタル後配當期日ヲ定メ其判決ノ趣旨ニ從ヒ配當ヲ實施ス可キモノトス而シテ判決確定ノ證明書ニ付テハ第四百九十九條ニ依ル證明書ヲ以テナス可キモノトス

- (一) 配當實施ニ因リ債權全部ノ配當ヲ受ク可キトキ 此場合ニハ配當金支拂證ヲ交付シ之ト同時ニ其所持スル債務名義ノ證書即チ執行力アル正本ヲ有スル債權ニ付テハ其正本及ヒ債權ノ證書ヲ所持スレハ之ヲ共ニ差出サシメ又民法ノ規定ニ依ル配當要求者ニ付テハ其債權ノ證書ヲ差出サシメ此等ノ證書ハ總テ債務者ニ交付ス可キモノナリ
- (二) 一部ノ配當ヲ爲ス可キトキ 此場合ニハ執行力アル正本又ハ債權ノ證書ニ其一部ノ配當金額ヲ記入シ債權者ニ之ヲ返還シ債權者ヨリ其金額ノ受取證ヲ提出セシメテ之ヲ債務者ニ交付ス可キモノトス
- (三) 左ノ配當額ハ直チニ配當ノ手續ヲ爲サ、ルモノトス
- (甲) 期日ニ出頭セサル債權者ノ配當額ハ尙ホ供託ノマ、保存ス可キモノトス

- (乙) 停止條件附ノ債權ニシテ未タ其條件到來セサルモノハ其債權額ニ相當スル配當額ヲ供託シ後日ニ至リ民法ノ規定ニ從ヒ其債權成立シタル限度ニ於テ供託金ヲ債權者ニ支拂フ可ク若シ殘額アレハ前ニ配當ヲ受ケタル各債權者ニ對シ更ニ配當ヲ爲ス可キモノトス
- (丙) 民法ノ規定ニ從フ配當要求者ノ債權ニシテ債務者カ之ヲ認諾セサル場合ニ於テハ配當要求者ハ債務者ニ對シテ訴ヲ以テ其債權ヲ確定スルマテハ該債權ニ相當スル配當額ヲ供託ス可キモノトス
- (丁) 假差押債權者ノ債權ニシテ未タ確定セサルモノナルトキハ前ト同シク其訴ノ完結スルマテ供託セサル可カラス
- (戊) 其他異議ノ訴アリテ其訴ノ完結セサル債權ニ付テセ亦前ニ同シ右等ノ手續ニ依リ配當ヲ實施スルモ配當裁判所ハ敢テ正金ヲ取扱フ可キモノニ非ラス兼テ供託シタル金錢ハ供託ノマ、唯配當金支拂ノ證ヲ各債權者ニ交付シ各債權者ハ之ヲ以テ供託金ヲ受取ル可キモノトス(明治三十二年法律第十五號供託法同年大藏省令第六號供託物取扱規定參看)而シテ配當裁判所カ配當ヲ實施シタルトキハ其調書ヲ作り殊ニ其調書ニハ右等ノ手續ヲ爲シタルコトヲ

第三節 不動産ニ對スル強制執行

本節ノ不動産ニ對スル強制執行モ金錢ノ債權ニ付テノ執行中ノ一ニシテ前節ニ説明シタル動産ニ對スル強制執行ト相對スルモノナリ
 不動産トハ如何ナル財産ヲ指スヘキヤハ一般民法ノ規定ニ從フ可キモノトス民法ノ規定ニ依レハ本然ノ不動産ハ土地ニシテ其定著物タル地上ノ植物又ハ土地ニ建設セラレタル建物其他ノ營造物ノ如キ土地ニ附著シ之ト分離スレハ其本質ヲ失フ可キモノヲモ包含ス然レトモ一時ノ用ニ供スル爲メニ設ケタル小屋其他ノ營造物又ハ一時栽植スル植木ノ如キハ定著物ニ屬セサルカ故ニ不動産トシテ取扱フコトヲ得ス之ヲ要スルニ本法ノ規定ニ於ケル動産ニ付テハ民法ノ規定ニ從フコトヲ得サルモノアリト雖モ不動産ハ總テ民法ノ規定ニ從フ可キモノトス(民法第八十條參看)
 又建物等ニ附隨スルモノニシテ其建物ト共ニ處分セラル、動産例ヘハ疊建具若クハ窓掛ノ如キハ之ヲ如何ニ處分ス可キヤ此等ノモノニシテ主物

ノ所有者カ其常用ニ供スルカ爲メ主物ニ附隨セシメタルモノナルトキハ之ヲ從物トシ從物ハ主物ノ處分ニ從フ可キモノナレハ(民法第八十條參看)主タル不動産ヲ差押フルトキハ其從物モ亦共ニ差押フルコトヲ得ヘシ

第一款 通則

不動産ニ對スル強制執行ノ手續ハ夫ノ有體動産ニ對スル場合ト異ナリ其差押ヨリ換價及ヒ配當ノ手續ニ至ルマテ總テ執行裁判所ノ執行行爲ニ屬ス而シテ其管轄執行裁判所ハ普通ノ執行裁判所ヲ以テセス(第五百四條)其不動産所在地ノ區裁判所之ヲ管轄シ若シ數個ノ不動産ニ對シ同時ニ執行スル場合ニ於テ其不動産カ數個ノ區裁判所ノ管轄區域内ニ在ルトキハ債權者ハ直近上級裁判所ノ指定ヲ申請シ其上級裁判所ノ指定ヲ受ケタル區裁判所カ之ヲ管轄ス可キモノトス(第六百四十一條第二十六條第)而シテ強制執行ハ債權者ノ申立ニ因リ之ヲ爲ス可キモノナレハ不動産ニ對スル強制執行モ亦債權者ノ申立ニ因リ右ノ管轄裁判所ニ於テ之ヲ爲ス可キモノトス又其執行モ一般ノ總則ニ依リ執行シ得ヘキ債務名義ニ基キ執行着手ノ要件トシテ債權者及ヒ債務者ノ氏名ヲ其正本ニ表示シ且其執行ノ基本タ

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二一九

ル債務名義ハ執行前又ハ其着手ト同時ニ債務者ニ送達シタルコトヲ要スルモノトス(第五百二十八條)

右ノ要件ヲ具備シテ不動産ニ對シ執行ヲ爲スニ付テハ左ノ二種ノ方法アリ

(一) 強制競賣 此種ノ強制執行ハ不動産其物ヲ直チニ競賣シ其賣得金ヲ得ルヲ目的トス此執行方法ハ夫ノ船舶ニ對スル強制執行ニモ準用ス可キモノトス(第六百四十七條)然レトモ假差押ノ場合ニハ其性質上此強制競賣ノ方法ヲ適用スルコトヲ得ス(第七百五十一條)

(二) 強制管理 此種ノ強制執行ハ不動産其物ヲ賣却スルヲ目的トスルモノニ非ラス其不動産ノ収益ヲ得其収益カ金錢ニ非ラサルトキハ之ヲ換價シテ其賣得金ヲ得ルヲ目的トスルニ在リ例ヘハ強制管理ニ因リ家賃地代ノ如キ金錢ノ収益ヲ差押ヘ又ハ小作米ノ如キ収益ヲ差押ヘテ之ヲ賣却シ其賣得金ヲ得ルノ類是ナリ而シテ此執行方法ハ假差押ノ場合ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得(第六百四十二條)蓋シ不動産ニ對スル強制執行ハ多クハ船舶ニ對スル執行ニモ準用ス可キモノナレトモ此強制管理ノ方

法ハ船舶タル性質上船舶ニハ之ヲ適用セサルモノトス(第七百十九條)之ヲ要スルニ前示一號ニ説明セシ強制競賣ハ不動産其物ニ對スル強制執行ニシテ二號ニ説明セシ強制管理ハ不動産ノ収益ノミニ對スル執行ナリ而シテ差押債權者ハ此二個ノ方法中其一ヲ選擇シテ之カ申立ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス此二個ノ方法ヲ併セテ申立ツルコトヲモ得ヘシ債權者カ此二個ノ方法ヲ併セテ執行セシニハ先ツ強制管理ノ方法ニ依リ其不動産ノ収益ヲモ差押ヘ併セテ其不動産ヲ賣却スル強制競賣ヲモ求ムルトキハ賣却ニ至ルマテノ収益ト其物件ノ賣得金ト二者共ニ債權ノ辨濟ニ充ツルノ利益アリ然レトモ強制競賣ノミヲ求メタルトキハ其収益ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス唯不動産其物ノ賣得金ノミヲ得ルニ在ルナリ(第六百四十四條)

第二款 強制競賣

不動産ニ對スル強制執行ハ前陳ノ如ク強制競賣ト強制管理トノ二個ノ方法アレトモ其主要ナルモノハ強制競賣ニシテ實際ニ於テモ強制管理ノ如キハ特別ノ事情アルトキニノミ行ハル、ニ過キス故ニ不動産ニ對スル強

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二二二

制執行ハ此強制競賣ヲ以テ原則トシ強制管理ハ變體ノ方法ト謂フ可キモ
ノナリ

強制競賣ノ申立

(第一) 強制競賣ノ申立

強制競賣ハ前陳ノ通則ニ從ヒ債權者ノ申立ニ因リ之ヲ爲ス可ク其申立
テ爲スニハ執行ノ總則ニ從ヒ執行着手ノ要件ヲ具備セサル可カラス而
シテ其申立ハ債權者ヨリ書面ヲ以テ執行裁判所ニ申請スルモノナリ

(一) 強制競賣開始ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ掲クルコトヲ要ス(第六百四
十三條)

(イ) 債權者、債務者及ヒ裁判所ノ表示 茲ニ所謂債權者及ヒ債務者ハ

執行文ニ附記シタル者即チ執行ヲ求ムル者及ヒ之ヲ受クル者ナラ
サル可カラス(第五百二十七條、第
五百二十八條)

(ロ) 不動産ノ表示 如何ナル不動産ナルヤヲ知り得ヘキ程度ニ掲ク
可キ意義ナリ

(ハ) 競賣ノ原因タル一定ノ債權及ヒ其執行シ得ヘキ一定ノ債務名義
茲ニ所謂一定ノ債權トハ債權者ノ請求スル金額ヲ謂フモノニシ

テ又一定ノ債務名義トハ確定ノ終局判決ナリヤ將タ假執行ノ宣言

ヲ附シタル終局判決ナリヤ若クハ他ノ債務名義例ヘハ執行命令ナ
リヤ若クハ公正證書ナリヤヲ指示スルノ謂ナリ

以上三要件ノ外債權者カ不動産ノ公課及ヒ賃貸借ノ有無等ノ取調ヲ
執達吏ニ命セラレシコトヲ求ムルトキハ其申請ヲモ併セテ爲スヲ相
當トス

(二) 強制競賣開始ノ申請ニ添付ス可キ書面(第六百四
十三條)

(イ) 執行力アル正本 強制執行ハ執行力アル正本ニ基キ之ヲ爲ス可
キモノナレハ其申立ニハ必ス執行力アル正本ヲ添付セサル可カラ
ス(第五百
十六條)

(ロ) 債務者ノ所有ニ係ル不動産タルコトヲ證スル證書

(甲) 登記シタル不動産ニ付テハ債務者ノ所有タルコトヲ證スル登
記判事ノ認證書即チ登記ノ謄本

(乙) 登記セサル不動産ニ付テハ登記簿以外ノ所有者タルコトヲ證
スル證書ヲ以テス可ク此證書ハ土地臺帳ノ謄本ヲ得テ一應其證
明書トナスコトヲ得

民事訴訟法正解 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二二三
制執行

(ハ) 不動産ノ性質、狀況及ヒ公課等ヲ證スル證書

(甲) 土地ニ付テハ國、郡、市、町、村、字、番地、地目、反別若クハ坪數、土地臺帳ニ登錄シタル地價及ヒ其土地ニ付キ納ム可キ一个年ノ租稅其他ノ公課ヲ證ス可キ證書

(乙) 建物ニ付テハ國、郡、市、町、村、字、番地、構造ノ種類、建坪及ヒ一个年ノ公課ヲ證ス可キ證書

(三) 若シ賃貸借アルトキハ其期限及ヒ借賃ヲ證ス可キ證書
此等ノ書面ヲ添付セシムル理由ハ債務者ノ所有タルコトヲ確メ其不動産ノ性質、狀況ヲ明ガニシ最低價格ヲ定ムルニ付テノ評價ノ資料ニ供スルニ在リ

右ノ證書ノ内登記ノ謄本ハ登記法ニ依リ之ヲ申請スルコトヲ得ヘク又其他ノ所有者ノ證明、不動産ノ性質、狀況及ヒ公課等ノ證明書ハ其主管ノ官廳ニ向テ證明書ヲ求ムルコトヲ得ヘシ若シ建物ノ構造、建坪又ハ土地、建物ノ賃貸借ノ關係ニ付キ證明ヲ爲シ能ハサルトキハ競賣申立ノ際執行裁判所ニ申請シ執達吏ヲシテ其取調ヲ爲サシメノコトヲ

求ムルコトヲ得ヘシ既ニ同一ノ不動産ニ付キ強制管理ヲ爲シ其執行記録中ニ右等ノ要件ヲ具備スルトキハ後ニ強制競賣ヲ申立ツルモ別ニ此等ノ證明書ヲ添付スルヲ要セス
右等ノ證明書ノ外執行着手ニハ債務名義ヲ相手方ニ送達シアルコトヲ要スルカ故ニ其送達ヲ爲シタルコトヲ證スル爲メ送達證書ヲモ添付スルヲ相當トス

強制競賣開始決定

(第二) 強制競賣開始決定

執行裁判所ハ債權者ヨリ強制競賣ノ申立アレハ口頭辯論ヲ經スシテ其申立ノ適法ナリヤ否ヤヲ調査シ即チ前ニ説明セシ要件ヲ具備スルヤ否ヤヲ取調ヘ若シ不適法ナルトキハ之ヲ却下シ適法ノ申立ト認ムルトキハ其申立ノ趣旨ニ基キ直チニ競賣開始ノ決定ヲ爲スヲ通例トス而シテ其申立却下ノ裁判又ハ開始決定ニ對シテハ當事者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得(第五百五十三條)

(二) 強制競賣開始決定ニ掲ク可キ事項 此決定ニハ當事者及ヒ不動産ヲ表示シ如何ナル債權ノ爲メニ競賣手續ヲ開示スルヤヲ明カニシ且

其債權者ノ爲メニ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可キモノトス

(二) 競賣開始決定ノ際執行裁判所ノ爲ス可キ行爲 此決定ハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スコトヲ得ル決定ナレハ職權ヲ以テ之ヲ送達セサル可カラス(第四百四十條第三項)而シテ尙ホ其際左ノ手續ヲ爲ス可キモノトス

(イ) 職權ヲ以テ登記判事ニ對シ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ囑託ヲ爲サ、ル可カラス(第六百五十一條)登記判事カ此囑託ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ登記簿ニ記入ス可キモノニシテ(不動産登記法第二十五條參)其登記ノ後登記簿ノ謄本ヲ執行裁判所ニ送付セサル可カラス若シ不動産上ノ債權者ヨリ差出シタル證書アルトキ例ヘハ抵當權、不動産質權等ノ設定アリテ其契約書等ノ存スルカ又ハ公賣處分アリテ之カ落札證書及ヒ代金完納ノ證書等ノ存スルトキハ此等ノ證書ノ抄本ヲモ共ニ執行裁判所ニ送付セサル可カラス(第六百五十二條)此等ノ證書ヲ必要トスル理由ハ差押債權者ノ債權ニ先立ツ債權アリテ競賣ヲ實施スルモ代金ノ剩餘ヲ得ル見込ナキヤ否ヤヲ調査シ又ハ不動産ノ狀況ニ依リテ競賣手續ヲ實行シ得サルヤ否ヤヲ知得

シ又ハ最低競賣價額ヲ評價セシムル等ノ場合ニ此必要ヲ見ル可キヲ以テナリ

(ロ) 租税其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ對シ競賣開始決定ヲ爲シタルコトヲ通知シ且一定ノ期間ヲ定メ此差押不動産ニ對スル租税其他ノ公課等ノ滞納アレハ之カ申立ヲ爲ス可キ旨ヲ催告ス可キモノナリ(第六百五十四條)

茲ニ所謂主管官廳トハ府縣廳、稅務署、郡役所ヲ始メ市町村役場等ヲ包含ス而シテ其滞納金アル旨ノ申立アリタルトキハ不動産ノ賣却金ヲ以テ之カ支拂ヲ爲ス可キモノニシテ其申立ハ配當要求ニ非ラスト雖モ公法上其不動産ノ賣却金ニ付キ優先ノ支拂ヲ受ク可キモノトス(明治三十二年法律第二十一號參看)

(ハ) 債權者ヨリ建物ノ構造、坪數又ハ土地建物ノ貸貸借關係ニ付キ執達吏ニ其取調ヲ命セラレシコトヲ申立テタルトキハ同時ニ其取調ヲ執達吏ニ命ス可キモノトス

(三) 差押ノ效力 差押ハ競賣開始ノ決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リ直

差押ノ效力

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二二七

チニ其効力ヲ生ス而シテ其効力タルヤ主トシテ不動産ニ對スルノミ
ナラス之ニ附隨スル所ノ從物ニモ其効力ヲ及ホス可キモノトス例ヘ
ハ土地ヲ差押ヘタルトキハ之ニ生立チタル植物其他ノ附著物並ニ其
常用物ニモ其効力ヲ及ホシ又建物ヲ差押ヘタルトキハ之カ常用ニ供
シタル疊建具ノ如キ從物ニモ其効力ヲ及ホス可キモノトス然レトモ
其物件ハ果シテ常用ニ供ス可キ從物ト認ム可キヤ否ヤハ民法ノ規定
ニ從ヒ事實上ノ認定ニ屬ス可キモノナリ(民法第八十
七條參看)而シテ其差押ノ
結果ハ當事者及ヒ第三者ニ對シテ左ノ關係ヲ生ス

(イ) 債務者ニ對スル差押ノ効力 債務者ハ差押ヘラレタル財産ヲ現
狀ノマ、尙ホ自ラ之ヲ占有シ其利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ得其管
理ノ範圍内ニ於テ適宜ニ收益ヲ獲得スルコトヲ得ヘシ(第四百四十
四條第二項)
又差押ノ効力ハ所有者ノ處分權ヲ絶對ニ制限スルモノニ非ラサレ
ハ之ヲ賣却スルモ妨クナシ唯其轉得者ハ其差押ノ効力ニ對抗シ之
ヲ妨クルコトヲ得サルノミ(第六百
五十五條)是レ債務者ハ破産宣告ノ場合ノ
如ク全ク財産ノ管理及ヒ處分ヲ絶對的ニ禁セラル、限ニ非ラサル

ヲ以テナリ(舊商法第九百
八十五條參看)而シテ動産ノ差押ニ在リテハ其差押ノ効
力ハ果實ニモ及ホス可キモノトスレトモ(第五百六
十九條)不動産ノ差押ニ
付テハ全ク其効力ヲ異ニシ債權者カ強制管理ヲ併セテ求メサル限
リハ其不動産ノ利用及ヒ管理ハ債務者カ之ヲ爲シ且其收益ヲ收得
スルコトヲ得

(ロ) 各債權者ニ對スル差押ノ効力 差押ハ差押債權者ノ爲メ第一着
ニ其効力ヲ生シ其差押物ニ對シ更ニ債權者ノ爲メニ差押ヲ爲ス可
キモノニ非ラス尤モ假差押ニ係ル場合ハ此限ニ在ラス故ニ第二以
後ノ債權者ヨリ強制競賣ノ申立アルモ執行裁判所ハ更ニ競賣開始
ノ決定ヲ爲サス其申立書ヲ執行記録ニ添付シ之ヲ以テ配當要求ノ
効力ヲ有セシムルニ在リ若シ其競賣カ取消トナリ其不動産ノ賣却
金ヲ以テ差押債權者ヨリ優先ノ債權ヲ辨濟シテ剩餘ヲキ場合ニ非
ラサレハ第二ノ債權者カ競賣開始決定ヲ受ケタルト同一ノ効力ヲ
生ス(第六百四
十五條)
又執行力アル正本ヲ有セス單ニ民法ノ規定ニ依リ配當要求ヲ爲サ

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二二九

ノトスル各債權者ハ差押ノ效力ヲ生シタル後其差押物ヲ競賣シテ其競落期日ノ終リニ至ルマテ配當ノ要求ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(ハ) 第三者ニ對スル差押ノ效力ニ差押タル不動産ノ權利ヲ取得シタル第三者例ヘハ差押不動産ヲ買受ケ若クハ讓受ケ又ハ抵當權ヲ得タル第三者ハ其取得ノ際既ニ差押ヘ又ハ競賣ノ申立アリタルコトヲ知リツ、其權利ヲ取得シタルモノナルトキハ其第三者ハ差押ノ效力ニ對シ善意ナリシコトヲ主張スルヲ得ス故ニ此不動産ハ第三者ノ所有トナルモ又ハ他人カ之ニ對シ優先權ヲ有スルモ尙ホ其強制執行ハ續行ス可キモノニシテ第三者ハ之ヲ妨クルコトヲ得ス唯賣得金ヲ以テ各債權者ヲ満足セシメタル後剩餘アレハ利害關係人トシテ債務者ニ之ヲ請求スルノ權利アルノミ故ニ第三者ニ所有權ハ移轉スルモ新所有者ニ對シテ別ニ執行文ヲ要セスシテ其強制執行ヲ依然トシテ續行ス可キモノトス

不動産カ差押ノ原因タル債權ノ爲メ義務ヲ負擔スルトキ例ヘハ不動産ヲ擔保ニ供セシメタル債權ノ爲メニ其擔保物タル不動産ヲ差

押ヘタル場合ニハ其差押後第三者カ該不動産ノ所有者トナルモ此新所有者タル第三者ハ取得ノ際差押又ハ競賣ノ申立アリシコトヲ知リタルト否トニ拘ハラス其差押ノ效力ニ對抗スルコトヲ得ス此場合ニハ差押ヘラレタル不動産其物ニ附著スル負擔ニシテ其事實ハ轉得者タル第三者モ既ニ知了ス可キ事實ナレハ差押ノ事實ハ之ヲ知ラサルモ其債權ノ爲メニ競賣セラレ可キコトハ豫期シテ取得シタルモノト看做ス可キモノナレハ差押後不動産ノ所有者ニ變更アルモ其執行ヲ續行スルヲ妨クサルモノトス然レトモ是レ其差押後所有權ノ移轉シタル場合ニノミ適用ス可キモノニシテ若シ差押前ニ移轉シタル不動産タルトキハ前所有者ニ對スル執行力アル正本ヲ以テ新所有者ニ對シ強制執行ヲ爲シ得サルヤ勿論ナリ唯此場合ニハ其抵當權又ハ不動産質權ヲ有スル者ハ第三者ニ對シ民法ノ規定ニ從ヒ其權利ヲ行使スルヲ得ヘキノミ

(四) 差押ノ消滅 不動産ノ強制競賣モ亦強制執行ノ一ナレハ其總則タル第五百五十條ニ列記セラレタル原因ニ因リ終局ニ執行ヲ停止ス可

民事訴訟法正解 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二二二

キ場合ニハ其執行ヲ終了シ差押ノ消滅ス可キハ勿論ナリト雖モ尙ホ
特種ノ差押消滅ノ場合アリ

元來不動産ハ各種ノ負擔ヲ負フヲ常トスルカ故ニ執行裁判所ハ租税
其他ノ公課ヲ主管スル官廳ノ申出又ハ登記判事ノ通知ニ因リ此等ノ
事由ヲ調査シ次ノ如キ場合ニ於テハ競賣手續ヲ取消シ其差押ハ消滅
ス可キモノトス

(イ) 登記判事ノ通知ニ因リ豫メ知ルニ於テハ手續ノ開始ヲ妨ク可キ
事實ノ現ハル、トキハ執行裁判所ハ直チニ其手續ヲ取消シ又ハ相
當ノ期間ヲ定メ債權者ヲシテ其故障ノ消滅シタルコトヲ證明セシ
メ期間満了後尙ホ其證明ヲ爲サ、ルトキハ其手續ヲ取消ス可キモ
ノトス(第六百五十三條)其手續ヲ妨ク可キ事實トハ其物件カ他人ノ所有
名義ニ歸シ居ルカ又ハ世襲財産ニシテ差押ヲ爲スコトヲ得サルモ
ノニ係ルカ如キ場合はナリ

(ロ) 登記判事又ハ租税其他ノ公課ヲ主管スル官廳ノ通知後鑑定人ヲ
シテ評價ヲ爲サシメ最低競賣價額ヲ定メ其價額ヲ以テ差押債權者

ニ先立ツ不動産上ノ負擔及ヒ執行費用ヲ完済スルニ足ラサル事實
ノ顯著ナル場合ニ於テハ其旨ヲ差押債權者ニ通知シ差押債權者カ
其通知ヨリ七日内ニ不動産ノ負擔及ヒ執行費用ヲ完済シ剩餘アル
可キ價額ヲ定メ其價額ニ應スル競買人ナキトキハ差押債權者自ラ
其價ヲ以テ買受ク可キコトヲ申出テ充分ナル保證ヲ立ツルニ非ラ
サレハ其手續ヲ取消ス可キモノトス(第六百五十六條)

(ハ) 右ノ外差押債權者ハ其競賣ノ申立ヲ取下クルコトヲ得此場合ニ
於テモ其差押ハ消滅スルモノトス(第六百五十七條第三項)然レトモ執行力ア
ル正本ニ依リ第二以後ニ申立ヲ爲シ其申立書ヲ執行記録ニ添付シ
アル債權者ハ差押ノ效力ヲ承繼ス可キモノナレハ此場合ニハ差押
ハ消滅ス可キモノニ非ラス(第六百四十五條)

以上ノ如ク執行裁判所カ競賣手續ヲ取消シ若クハ差押債權者カ其申
立ヲ取下ケサル限リハ競賣手續ヲ進行シ競落ヲ爲シ競落決定確定シ
テ其代金ノ支拂ヲ終了スルマテ其差押ノ效力ハ依然トシテ繼續スル
モノトス

民事訴訟法正解 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二二三

(第三) 競賣手續ニ於ケル利害關係人

不動産ノ強制競賣手續ニ關シテハ普通ノ債權者債務者ノ外尙ホ其不動
產上ニ關係ヲ有シ手續上利害關係ヲ有スル者尠ナラス此等ノ者ハ時
ニ競賣手續ニ付テ其利益ヲ保護スルカ爲メ意見ヲ述フルノ機會ヲ與ヘ
サル可カラサル場合アリ是ヲ以テ法律ハ之ヲ總括シテ利害關係人ト稱
スル者ヲ定ム所謂利害關係人タル者ハ左ノ如シ(第六百四)

- (一) 差押債權者及ヒ執行力アル正本ニ依リ配當ヲ要求スル債權者 差
押債權者ハ其手續ヲ開始シ之ヲ續行シ以テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ク
ルノ目的ヲ達セントスル者ナレハ利害ノ關係ヲ有スルコト固ヨリ言
ヲ俟タス又執行力アル正本ニ依ル配當要求者ハ配當要求ヲ爲シタル
後其手續ヲ正當ニ續行セシメ適當ノ配當ヲ受ケントスル者ナレハ是
レ亦利害關係ヲ有スル者タリ而シテ茲ニ民法ノ規定ニ依ル配當要求
債權者ヲ加ヘサル所以ハ其債權ハ未確定ノモノナレハ執行上ノ行爲
ニ付キ容喙ヲ許スハ正當ナラスト認メタルカ爲メナリ
- (二) 債務者 債務者ハ自己ノ財産ヲ競賣セラル、モノナレハ其正當ノ

手續ヲ續行セラル、ト否トニ依リ利害關係ヲ有スルカ故ニ之ニ加フ
可キコト勿論ナリ

- (三) 登記簿ニ記入アル不動産上ノ權利者 茲ニ所謂權利者ハ抵當權者
不動産質權者トシテ登記ヲ受ケタル者ノ意義ナリ斯ル權利者ハ競賣
ノ爲メ其權利及ヒ優先ノ順位ヲ傷ケラレサルカ爲メニ之ヲ保護ス可
キ利害關係ヲ有スル者ト云フ可シ

- (四) 不動産上ノ權利者トシテ其債權ヲ證明シ執行記録ニ備フ可キ届出
ヲ爲セル者 是レ登記簿ニ登記セサル不動産上ノ權利者ノ謂ニシテ
此權利ハ執行裁判所ニ届出テタルモノナルコトヲ要ス夫ノ不動産ニ
課シタル租稅其他ノ公課ニ付キ滯納處分ヲ施サ、ル以前ニ於テ執行
裁判所カ其不動産ヲ差押ヘ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳カ未納ノ
租稅其他ノ公課ノ申出ヲ爲シタル場合ノ如キ是ナリ(明治十三年三月
條例同年四月布告第十六號地方稅規則明治三十年法律第七號地租
稅徵收法明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法同年法律第三十
二號國稅滯納處分法同年法律第三十號)
以上ノ者ヲ總稱シテ競賣手續上ノ利害關係人ト云フ此利害關係人ハ不

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對ヘル強 二三五

動産上ニ對スル強制執行上各種ノ場合ニ干與スルコトヲ得ルモノトス
(第六百四十七條、第六百六十二條、第六百六十四條、第六百六十七條、第六百七十一條、第六百七十四條、第六百八十四條、第六百九十三條、第六百九十五條、第六百九十六條、第七百二條)

競賣ノ準備手

(第四) 競賣ノ準備手續

執行裁判所ハ前ニ述ヘタル登記判事ヨリ書類ノ送達ヲ受ケ且租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ヨリ應答若クハ債權ノ申立ヲ領シ之ニ依リ競賣手續ヲ取消ス可キ事情ノ現ハレサルトキハ左ノ手續ヲ爲ス可キモノトス

(一) 最低競賣價額ヲ定ムルコト 裁判所ハ鑑定人ヲシテ不動産ヲ評價セシメ其評價額ヲ以テ最低競賣價額ヲ定メサル可カラス是レ其不動産ヲシテ普通ノ價額ヨリ低價ニ賣却スルコトヲ避ケ其賣却ニ付テノ標準トナスモノナリ(第六百五十五條)

(二) 競賣期日及ヒ競落期日ノ指定並ニ公告 執行裁判所ハ右債權及ヒ費用ヲ辨濟シテ剩餘ヲ得ルノ見込アルトキ又ハ其見込ナシト認ムルモ債權者カ充分ナル保證ヲ立テ、價額ノ申出ヲ爲シ手續ノ進行ヲ申

立ツルトキハ職權ヲ以テ競賣期日、競落期日、競賣ヲ爲ス場所ヲ定メ且之ヲ爲ス可キ執達吏ヲ指定シ方式ニ從ヒ諸件ヲ具備シタル競賣期日ノ公告ヲ爲シ以テ競賣ノ準備ヲ爲サル可カラス(第六百五十五條、第六百五十六條)
(甲) 競賣期日ハ其公告ヨリ十四日後ニ指定ス可ク競落期日ハ競賣期日ヨリ七日内ニ指定ス可キモノナリ競賣期日ハ裁判所内又ハ其他ノ場所ヲ明示シ執達吏ヲシテ之ヲ開カシム可キモノタリ若シ此期間ヲ存セサルトキハ形式上不適式ニシテ競落ヲ許スコトヲ得ス(第六百七十二條、第六百七十四條)

(乙) 競賣期日ノ公告ハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ爲ス(第六百六十一條)

(イ) 裁判所ノ揭示板ニ揭示スルコト

(ロ) 不動産所在地ノ市町村ノ揭示場ニ揭示スルコト

右ノ外執行裁判所ノ意見ニ依リ貴重ナル不動産ヲ賣却スル場合ニハ新聞紙ニモ公告スルコトヲ得

(丙) 競賣期日ノ公告ニハ左ノ諸件ヲ具備セサル可カラス(第六百五十八條)

(イ) 不動産ノ表示

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二三七

- (ロ) 租税其他ノ公課
- (ハ) 賃貸借アル場合ニ於テハ其期限並ニ借貸
- (ニ) 強制執行ニ因リ競賣ヲ爲ス旨
- (ホ) 競賣期日ノ場所日時及ヒ競賣ヲ爲ス可キ執達吏ノ氏名並ニ住所

- (ヘ) 最低競賣價額
- (ト) 競落期日ノ場所及ヒ日時
- (チ) 執行記録ヲ閲覧シ得ヘキ場所
- (リ) 登記簿ニ記入ヲ要セサル不動産上ノ權利ヲ有スル者其債權ヲ申立ツ可キ旨

(ヌ) 利害關係人競賣期日ニ出頭ス可キ旨
 右ノ方法ハ必ス之ヲ遵守セサル可カラス若シ此方法ニ反シ右ノ事項ヲ具備セサル公告ヲ爲ストキハ競落許可ニ對スル異議ノ原因トナリ競落ヲ許スコトヲ得サルニ至ル可シ(第六百七十二條、第六百七十四條)

法律上ノ賣却條件

(第五) 強制競賣ニ於ケル法律上ノ賣却條件

- 元來賣却條件ナルモノハ普通ノ賣買ヲ爲ス場合ニ於テモ存スル所ナリト雖モ一私人間ノ賣買ニ付テハ其賣却條件ハ合意ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ヘシ然レトモ公法上ノ強制競賣ニ於ケル賣却條件ハ法律上一定シ民法上ノ賣却條件ノ如ク一私人間ノ意思ノミヲ以テ定マル可キモノニ非ラス今其法律上ノ賣却條件ヲ摘示スレハ左ノ如シ
- (一) 最低競賣價額ノ設定(第六百七十五條第一項)
 - (二) 賣却代金ヲ以テ不動産上ノ總テノ負擔ヲ辨濟シ剩餘ヲ得ル見込アルニ非ラサレハ競賣ヲ許サ、ル制限(第六百五)
 - (三) 競買人ノ保證ヲ立ツ可キ義務及ヒ其方法(第六百六十四條、第六百五十四條)
 - (四) 競買人ハ其申立テタル競買價額ニ付キ羈束セラル、責任及ヒ其免除(第六百六十五條、第六百六十六條)
 - (五) 競買人カ事變ニ因リテ生スル競買取消ノ權利(第六百七)
 - (六) 不動産上ノ負擔ノ免除及ヒ其引受(第六百四十九條第二項、第三百)
 - (七) 競落人ノ所有權取得ノ時期(第六百八)
 - (八) 不動産ノ引渡ハ代金支拂ノ後ニ非ラサレハ之ヲ許サ、ル制限(第六百八)

民事訴訟法正解 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二二二九

特別ノ賣却條
件

(九) 賣却代金徵收ノ時期(第六百九十九項)以上ノ賣却條件中一號乃至五號ノ事項ハ競賣ニ關スル條件ニシテ六號乃至九號ノ事項ハ競落ニ關スル條件ナリ而シテ一號ヲ除キ二號以下ノ條件ハ利害關係人ノ一致ノ合意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得之ヲ變更シタルトキハ本法ニ於テハ之ヲ特別ノ賣却條件ト稱ス而シテ此特別ノ賣却條件ヲ設ケタルトキハ競賣期日ヲ開キタル際各人ニ之ヲ告知セサル可カラス故ニ賣却條件ヲ變更スル合意ノ申立ハ競賣期日ヲ開カサル以前ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス(第六百六十二條)

一號ニ示シタル最低競賣價額ニ限り利害關係人ノ一致ノ合意ヲ以テモ之ヲ變更ヲ許サ、ル理由ハ之ヲ隨意ニ變更スルコトヲ得セシムルトキハ如何ナル低價ニ賣却スルヤ測リ難クシテ公益上法律カ最低競賣價額ヲ定メタル趣旨ニ反スルヲ以テナリ

競賣實施

(第六) 競賣實施

不動産ニ對スル強制競賣ハ總テ執行裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ實施ス可

キハ當然ナレトモ本法ニ於テハ便宜上其競賣ノ實施ハ執行裁判所カ責任ヲ以テ執達吏ニ命シテ實行セシムルモノトセリ故ニ執達吏ノ行為ハ此競賣ニ付テハ獨立ニ非ラス總テ執行裁判所ノ指揮ヲ受ケ之ヲ爲サ、ル可カラス其競賣期日ハ豫メ公告ヲ以テ指定シタル場所即チ裁判所内又ハ其他ノ指定セラレタル場所ニ於テ其日時到來スレハ執達吏自ラ之ヲ開ク可キモノトス(第六百五十九條)而シテ其競賣ヲ實施スル順序ハ左ノ如シ

(一) 執達吏カ競賣期日ヲ開ク可キ旨ヲ競買ノ爲メニ來集シタル各人ニ告知シ期日ヲ開示シタルトキハ其競賣前以テ執行記録ヲ其各人ノ閱覽ニ供ス可ク殊ニ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタル事項アルトキ即チ特別ノ賣却條件ノ設ケアルトキハ尙ホ之ヲ各人ニ告知セサル可カラ(第六百六十三條)

右ノ閱覽及ヒ告知ヲ爲スハ競賣ニ付スル不動産ノ負擔異議ヲ申立ツル理由ノ存否等ヲ始メトシテ凡テ競賣ニ關スル必要ナル事項ハ競買ヲ爲ス者ニ於テ豫メ知ラサルヲ得サルモノナレハナリ然レトモ前ニ摘示シタル法律上ノ賣却條件ハ法律ニ規定スル所ニ係ルヲ以テ各人

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二四一

ハ之ヲ熟知シテ競買ヲ爲スモノト看做スカ故ニ之ヲ告知スルノ必要ナキナリ

(二) 執達吏ハ右ノ手續ヲ盡シタル上ハ競買價額ノ申出ヲ各人ニ催告シ以テ競賣ヲ實施ス可キモノトス此催告ノ後競買ヲ爲サントスル者ハ其價額ヲ申出ツ可キモノナリ而シテ其申出アリタルトキハ執達吏ハ其競買ヲ許可ス可キモノナリヤ否ヤヲ調査セサル可カラス蓋シ競買人タル者ハ賣買契約ヲ爲シ不動産ヲ取得スル能力ヲ有スルコトヲ必要トスルカ故ニ其能力ヲ有スルヤ否ヤヲ調査シ又最低價額ニ下ラサル價額ノ申出アリタルヤ否ヤ又先ニ申出テタル價額ニ超過スル價額ノ申出アリヤ否ヤヲ其申出毎ニ調査スルノ必要アレハナリ

(甲) 競買ニ付テノ擔保 競買ノ申出アル場合ニハ利害關係人ハ何人タルヲ問ハス信用ヲ置キ難キ者ヨリ競買ノ申出アルトキハ其競買義務履行ノ爲メ其競買人ニ擔保ヲ供セシメノコトヲ申立ツル權利アリ此擔保ヲ供セシムル所以ノモノハ若シ競買人カ代金支拂期日ニ其義務ヲ履行セサルトキハ其不履行ニ因リテ生スル所ノ損害ヲ

擔保セシムルモノニシテ其損害中ニハ再競賣ノ費用不履行ニ因リテ生スル利息最初ノ競賣ト再競賣トノ間ニ於テ不動産ノ價額カ減少シタル場合ノ損害ヲモ包含スルモノトス

利害關係人カ此申立ヲ爲サンニハ競買人カ競買ノ申出ヲ爲シタル後直チニ之ヲ爲サル可カラズ此申立アリタルトキハ競買人ハ其申立テタル價額ノ十分ノ一ニ相當スル金額ノ現金又ハ有價證券ヲ擔保トシテ直チニ執達吏ニ預クルニ非ラサレハ其競買ヲ許サス而シテ一度此申立アリタルトキハ其競買人ハ競上ヲ爲ス毎ニ其價額ニ應スル金額又ハ有價證券ヲ預クルニ非ラサレハ其價額ノ申出ヲ爲スモ無効ニ歸スルモノトス(第六百六十四條)

此提出シタル擔保ハ最高價競買人トナリタルトキハ執達吏ハ之ヲ裁判所書記課ニ納メ不動産賣却代金ノ一部ニ編入シ(第六百六十八條)之ヨリ高價ノ申出アリタルトキハ其擔保ノ必要ナキニ至リ競賣終了ノ際執達吏ハ之ヲ返還ス可キモノニシテ即チ其競買人ハ其擔保物ヲ受クルノ權利ヲ生ス

(乙) 各競買人ノ申出タル價額ニ付テノ拘束及ヒ其免除 競買ヲ許サレタル競買人ハ更ニ之ヨリ高價ナル競買ノ申出ヲ爲ス者アルマテ其價額ニ付キ拘束ヲ受ク可キモノトス故ニ其申出價額ニテ之ヲ買取ル可キ責任ヲ生ス而シテ若シ之ヨリ更ニ高價ノ競買申出アリ之ヲ適法トシテ許サレタルトキハ其新競買人ハ申出タル價額ニ付キ更ニ拘束ヲ受ク前競買人ハ直チニ拘束ヲ免除セサル可キモノトス而シテ此拘束ハ競落ヲ許サル決定アルトキハ之ヲ免カル、モノトス(第六百八十四條)又競買期日ト競落期日トノ間ニ於テ不可抗力ニ因リテ其不動産カ著シキ毀損ヲ生シタルトキハ又其競買申出ノ拘束ヲ免カレ即チ之ヲ取消スコトヲ得ルナリ(第六百七十八條)

(三) 競賣ヲ終了スルニハ競賣申出ヲ催告シタル後其申出ニ付キ充分ノ競上ヲ爲シ既ニ高價ノ申出ナキトキハ終了ス可キモノニシテ其終了ハ競賣催告ノ後一時間ヲ經過スルニ非ラサレハ之ヲ終結スルコトヲ得ス是レ輕忽ナル賣却ヲ爲スノ弊ヲ避クルニ在リ若シ其期日ニ於テ競買申出ノ催告後一時間ヲ過クルモ許ス可キ競買ノ申出ヲ爲ス者ナ

キトキハ其旨ヲ調書ニ記載シ之ヲ明確ニシテ手續ヲ終了ス可キモノトス(第六百六十五條)而シテ一時間ヲ經過セスシテ競賣ヲ終了スルトキハ競落許可ノ異議ノ原因トナリ競落ヲ許サル結果ヲ生ス(第六百七十二條)若シ許ス可キ競買申出アリタルトキハ充分競上ノ後一時間ヲ過キ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ク各人ニ告知シタル後競賣ヲ終了ス可キモノトス此終了ヲ告知シタル後縱令如何ナル高價ノ申出アルモ之ヲ許スコトヲ得ス此競賣終了ノトキハ最高價競買人ニ非ラサル總テノ競買人ハ之ニ因リテ其競買上ノ責任ヲ免カレ其申出價額ニ依ル拘束ヲ免除セラル若シ擔保ヲ供シタル者ハ直チニ之ヲ返還ヲ受ク可キ權利ヲ生ス故ニ執達吏ハ其告知ヲ爲ス際擔保ヲ供シタル者アルトキハ之ヲ返還シ其受取證ヲ徴シテ記録ニ添付スルヲ通例トス(第六百六十六條、第六百六十七條)

(四) 執達吏ハ此競賣實施ニ付テハ調書ヲ作成シ之ヲ明確ニセサル可カラズ即チ其記載事項ハ本法第五百四十條ニ依ル一般ノ執行行爲ノ調書ニ準據スルノ外尙ホ第六百六十七條ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ記載

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二四五

セサル可カラス

(イ) 不動産ノ表示

(ロ) 差押債權者ノ表示

(ハ) 執行記録ヲ各人ノ閲覽ニ供シタルコト又特別賣却條件アルトキハ之ヲ告知シタルコト

(三) 競賣價額ノ申立ヲ催告シタル日時

(ホ) 凡テノ競買價額並ニ其中出人ノ氏名住所又ハ許ス可キ競買ノ申出ナキコト

(ヘ) 競賣ノ終局ヲ告知シタル日時

(ト) 申立ニ因リ競買ノ爲メノ保證ヲ立テタルコト又ハ申立アルモ保證ヲ立テサル爲メ其競買ヲ許サ、ルコト

(チ) 最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケタルコト

此調書ハ最高價競買人及ヒ出頭シタル利害關係人ニ示シ署名捺印セシメ若シ此等ノ者カ既ニ退席シタルトキハ其旨ヲモ附記シ之ヲ明確ニス可キモノトス

此調書ハ凡テ關係人ヨリ異議ノ申立アルトキハ其當否ヲ判斷スル材料トス可キモノナレハ執達吏ハ特ニ注意シテ誠實明確ニセサル可カラス而シテ最高價競買人カ執行裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサルカ爲メ假住所選定ヲ申出テタルトキハ執達吏ハ其調書ニ之ヲ明確ニス可ク又保證ノ爲メ預カリタル金錢又ハ有價證券ヲ返還シ其受取證ヲ取りタルトキハ其調書ニ添付ス可キモノトス(第六百六十九條)

(五) 執達吏ハ右ノ手續ヲ爲シ競賣ヲ終局シタルトキハ遅クトモ三日内ニ其競賣調書ヲ執行ニ關スル書類及ヒ保證ノ爲メ預カリタル金錢若クハ有價證券ニシテ返還セサルモノアレハ之ヲ供託シ其書面ト共ニ執行裁判所書記課ニ提出シ其任務ノ卸任ヲ受ク可キモノトス(第六百八十八條)蓋シ執達吏カ不動産執行ニ付キ競賣實施ヲ爲ス所以ノモノハ執行裁判所ノ命ニ從ヒ其手續ヲ行フニ過キスシテ最高價競買人カ呼上テ爲スモ未タ以テ其競賣ハ全然終了シ競落人タル者ヲ確定ス可キモノニ非ラス故ニ爾後ノ手續ハ執行裁判所ノ行爲ニ移サ、ル可カラス

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強制執行

競賣期日ハ競買ノ申立ナキトキモ執達吏ハ其旨ノ調書ヲ作り執行裁判所ニ届出テサル可カラス

(六) 新競賣ハ最初ノ競賣期日ニ許ス可キ競買ノ申出ナキトキハ執行裁判所ハ最低競賣價額ヲ相當ニ低減シ新競賣期日ヲ定メ前同一ノ手續ヲ以テ執達吏ヲシテ競賣ヲ爲サシム可キモノナリ然レトモ其價額カ到底差押債權者ノ債權ヲ完済シ其剩餘ヲ得ヘキモノニ非ラサルトキハ其競賣開始決定ヲ取消シ執行ヲ終了ス可キモノニシテ新競賣ヲ爲スコトヲ得ス(第六百七十七條)

入札

(第七) 入札

金錢ノ債權ニ付テハ強制執行ハ動産ニ對スルト不動産ニ對スルトヲ問ハス總テ其差押物ヲ競賣シ之ヲ換價スルヲ通例トス然レトモ我國ニ於テハ不動産ヲ公賣ニ付スルニハ古來一般ニ入札ノ方法ヲ採リ來リシ習慣アリ故ニ公私トモ其習慣ニ馴レ競賣ノ方法ニ依ランヨリハ寧ロ入札ノ方法ニ依ルヲ便宜且利益ナリトスルノ傾ナキニ非ラヌ是ヲ以テ法律ハ敢テ競賣ノミニ限ラス利害關係人ノ合意若クハ執行裁判所ノ意見ヲ

以テ入札ヲ可トヘルトキハ競賣ニ代ヘテ入札拂ヲ命スルコトヲ得ヘキモノトナセリ而シテ利害關係人カ此入札ノ方法ヲ採ラントスルトキハ競賣期日ノ公告ヲ爲ス前ニ其申出ヲ爲サ、ル可カラス又執行裁判所カ職權ヲ以テ此方法ニ依ラントスルトキモ亦其期日ノ公告前ニ之ヲ決シ公告ニハ入札期日トシテ入札ノ方法ヲ採ル可キコトヲ明示セサル可カラス

入札ノ手續ニ付テハ性質上適用シ得ヘキ限リハ競賣ニ關スル規定ヲ準用シ其入札期日ヲ公告シテ裁判所内又ハ其他ノ場所ニ於テ執達吏ヲシテ入札期日ヲ開カシム可キモノナリ而シテ執達吏ハ其期日ヲ開始シタル後登記簿ヲ各人ノ閱覽ニ供シ又特別ノ賣却條件即チ合意上ノ賣却條件アルトキハ之ヲ告知シ競買申出ノ催告ニ準シテ入札ヲ催告スル等總テ競賣ノ手續ヲ準用ス可キモノトス

然レトモ入札ニ付テハ特ニ左ノ規定ニ從ハサル可カラス
(一) 各入札人ハ執達吏ニ向テ入札ヲ爲スコク其入札ニハ左ノ諸件ヲ具備セサル可カラス

入札ニ付テノ特別ノ規定

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二四九

(イ) 入札人ノ氏名、住所
(ロ) 不動産ノ表示

(ハ) 入札價額 入札價額ハ一定ノ金額ヲ記載セサル可カラズ他ノ人ノ入札額ニ對スル比例ヲ以テ價額ヲ表示スルヲ得ス
以上ノ要件ヲ具備シタル入札ハ之ヲ密封シテ執達吏ニ提出ス可キモノナリ(第七百三條)

(ニ) 執達吏カ此入札期日ヲ開ク可キ旨ヲ告知シタルトキハ其告知ヨリ一時間ヲ經過シ殊ニ其期日ニ出頭シタル各入札人カ總テ入札ヲ爲シ終リタリト認ムルトキハ各入札人ノ面前ニ於テ總テノ入札ヲ開封シ之ヲ朗讀シテ各人ニ知ラシメサル可カラズ而シテ許ス可キ入札即チ適法ノ入札ニシテ最高價ナルモノニ付キ第六百六十六條ノ規定ヲ照準シ最高價入札人トシテ其氏名及ヒ價額ヲ呼上ケ以テ入札ノ終局ヲ告ク可キモノトス
入札ハ競賣ト異ナリ其性質ニ於テ二人以上同一價額ノ申出ヲ爲ス者ナキニ非ラス故ニ斯ル同價額ノ入札アリタルトキハ執達吏ハ其同價

額ノ入札ヲ爲シタルノミヲシテ尙ホ追加價額ノ入札ヲ爲サシメ以テ其最高價入札人ヲ定メサル可カラズ(第七百六十四條)

(三) 最高價入札人タル呼上アリタル場合ニ於テ其呼上ヲ受ケタル入札人ニ對シテ利害關係人カ信用ヲ置カサルトキハ之ニ對シテ第六百六十四條ノ規定ニ從ヒ保證ヲ立ツ可キコトヲ求ムルヲ得而シテ利害關係人カ此申立ヲ爲シタルトキハ同條項ノ規定ニ基キ入札人ハ保證ヲ立ツ可キ義務ヲ生シ若シ其保證ヲ立テサルトキハ執達吏ハ最初ノ呼上ヲ取消シ其次位ニ立ツ價額ノ入札人ヲ以テ最高價入札人トナシ更ニ呼上ヲ爲ス可キモノトス此場合ニ於テハ最初呼上ケラレタル入札人ハ己レノ入札價額ト次位ノ入札價額トノ差金ヲ負擔ス可キ責務アルモノトス(第七百五條)

右ノ外執達吏ハ入札ノ手續ニ付テモ第六百六十七條ノ規定ニ則リ入札調書ヲ作成ス可キハ勿論其入札期日後三日内ニ入札ニ關スル書類ヲ一切執行裁判所ノ書記ニ提出シ以テ其任務ノ卸任ヲ受ク可キコトハ競賣ノ場合ト同一ナリ

競落期日ノ開始

(第八) 競落期日ノ開始

前ニ説明セシ所ノ競賣手續及ヒ入札手續ハ執達吏ヲシテ之ヲ實施セシムト雖モ不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ動産ニ對スル執行ノ如ク執達吏カ最高價ノ呼上ヲ爲シタルノミヲ以テ競落ト看做サス其競落ハ執行裁判所ノ決ス可キモノタリ故ニ競賣ノ方法ニ依リタルト入札ノ方法ヲ採リタルトヲ問ハス總テ競賣若クハ入札ヲ終局シタルヨリ三日内ニ執達吏カ調書ヲ始メ執行記録ヲ裁判所書記ニ差出シタルトキハ執行裁判所ハ先ニ指定シテ公告シタル日時ニ競落期日ヲ開カサル可カラス(第六百六十六條)

此期日ハ競賣又ハ入札期日ヨリ七日以内ニ執行裁判所ニ於テ開ク可キモノニシテ特別ノ公告ヲ以テ之ヲ變更セサル限りハ競買人ヲ始メ總テノ關係人等ハ之ヲ熟知スルモノト看做スカ故ニ此等ノ者ニ對シ別ニ呼出狀ヲ發スルヲ要セス從テ各關係人ハ呼出ヲ待タスシテ其期日ニ出頭ス可キモノナリ又各債權者ニ在リテハ此期日マテニ各債權ノ元利費用其他附帶ノ債權ノ計算書ヲ執行裁判所ニ差出サ、ル可カラス然ラサル

トキハ不利益ノ結果ヲ見ルコトアル可シ(第六百九十二條)

執行裁判所カ競落期日ヲ開キタルトキハ出頭シタル利害關係人ヲ審訊シ最高價競買人若クハ入札人タル呼上ヲ受クタル者ニ對シテ競落ヲ許ス可キヤ否ヤノ陳述ヲ爲サシム可キモノトス此陳述中ニハ異議ノ申立又ハ承認スルノ意思ノ表示ヲモ包含スルモノナレハ此場合ニ其陳述ヲ爲サシムルハ利害關係人ノ權利ノ害セラレサルコトヲ期スルニ在リ而シテ其競落許可ニ對スル異議ノ申立及ヒ之ニ對スル同意若クハ反對ノ抗辯ハ總テ競落期日ノ終リニ至ルマテニ之ヲ爲サ、ル可カラス(第六百七十一條)

出頭シタル利害關係人カ此期日ノ終リヲ告グルマテニ右等ノ陳述ヲ爲サ、ルトキハ法律ハ異議ナキモノト看做スノ精神ナルヲ以テ後日ニ至リ之ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
出頭シタル總テノ利害關係人カ競落ヲ許可スルコトニ同意シ執行裁判所カ其職權ヲ以テモ競落ヲ拒ム理由ノ存セサルトキハ其一致ニ任セサルヲ得ス而シテ利害關係人カ競落ヲ許ス可キコトヲ承諾スルモ之ヲ以

民事訴訟法上解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二五三

テ契約ノ申込ニ對スル承諾ナリト見ル可キモノニ非ラス唯異議ナシト
ノ效果ヲ生スルニ過キス

最高價競買人又ハ入札人ハ利害關係人ニ於テ異議ナク又裁判所ノ職權
ヲ以テ競落ヲ拒ムノ理由ナシトスル場合ニハ競落ヲ求ムルノ權利ヲ得
ヘキモ此權利タルヤ訴訟手續上ヨリ生スル權利ニ過キスシテ利害關係
人ニ對シ契約ノ履行ヲ請求シ得ヘキモノニ非ラス要スルニ競落ハ一ノ
契約ニ非ラス從テ競落決定ハ賣買契約ヲ認定スル裁判ニ非ラス唯此裁
判ニ依リ新ナル一種ノ法律關係ヲ生セシムルノミ

競落期日ニハ裁判所書記ハ利害關係人カ出頭シタルト否トニ論ナク又
右ノ申立如何ニ拘ハラズ其調書ヲ作り殊ニ出頭シタル者ノ氏名及ヒ此
等ノ者ノ陳述ヲ記載シテ之ヲ明確ニセサル可カラズ此調書ヲ競落調書
ト稱ス(第六百七
十七條)

(第九) 競落許可ニ付テノ異議

利害關係人ハ競落期日ニ出頭シ競落ノ許可ニ付キ異議ヲ申立ツルコト
ヲ得ヘシ其異議ハ競落期日ノ終リニ至ルマテニ之ヲ申立テサル可カラ

競落許可ニ付
テノ異議

ス其競落許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ基クコトヲ要ス(第六百七
十二條)

(一) 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ス可カラサルコト
其上段ニ所謂強制執行ヲ許ス可カラサルトハ法律上差押フ可カラ
サル不動産ヲ差押ヘタルトキ又ハ裁判所カ管轄權ヲ有セサルトキ又
ハ執行ノ要件ヲ缺キタル場合ノ如キ是ナリ又其後段ニ執行ヲ續行ス
可カラサルコト、ハ強制執行ノ全部又ハ一部ノ停止アリタルトキ又
ハ差押ヘタル不動産ノ賣却代金ヲ以テ不動産上ノ負擔及ヒ執行費用
ヲ完済シ其剩餘ナキカ爲メ其差押ヲ取消サ、ルヲ得サル場合ノ如キ
是ナリ(第五百五十四條、第五百五十六
十條、第六百四十九條)

(二) 最高價競買人カ賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スルノ能
力ナキコト

(三) 法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競賣ヲ爲シタルコト又ハ總テノ利害
關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ變更シタルコト 上段
ニ所謂法律上ノ賣却條件ノ如何ナルモノナリヤハ前ニ説明シタル所
ニシテ又後段ニ於ケル總テノ利害關係人ノ合意アルニ非ラサレハ法

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二五五

律上ノ賣却條件ヲ變更スルヲ得サルコトハ第六百六十二條ノ規定スル所ナリ

(四) 競賣期日ノ公告ニ第六百五十八條ニ掲ケタル要件ヲ記載セサルコト

(五) 競賣期日ノ公告ヲ法律ニ規定シタル方法ニ依リテ之ヲ爲サ、リシコト 即チ第六百五十八條乃至第六百六十一條ノ規定ニ反シタル場合合是ナリ

(六) 第六百五十九條ニ規定セル期間ヲ存セザリシコト 即チ競賣期日ハ其公告ヨリ少ナクモ十四日ノ期間ヲ置ク可キニ之ヨリ早ク競賣期日ヲ開キタル場合

(七) 第六百六十五條第二項及ヒ第六百六十六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト 即チ競賣ノ終了ニ付キ競買申出催告ヨリ一時間前ニ終了シ又ハ最高價競買人ノ氏名及ヒ其價額ヲ呼上ケスシテ終了ヲ告ケタル場合

(八) 第六百六十四條ノ規定ニ違背シテ最高價競買人ナリト呼上ケタル

コト 即チ競買申出ニ對シ利害關係人ヨリ保證ヲ立テシメシコトノ申立アリタルニモ拘ハラズ之ヲ立テシメスシテ最高價競買人ナリト呼上ケタル場合

以上ノ事項中其一ノ存スルトキハ利害關係人ハ競落許可ニ付キ異議ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモ自己ノ利害ニ關係ナクシテ絶對ニ異議ヲ主張シ得ヘキ限ニ在ラス唯法律ハ自己ニ利害ノ關係アル場合ニ限り之ヲ許シ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基テハ之ヲ主張スルコトヲ許サス(第六百七十三條)

執行裁判所ハ利害關係人ヨリ適法ナル時間即チ競落期日ノ終リマテニ以上説明セシ理由ニ基キ異議ノ申立アリ之ヲ正當ト認ムルトキハ競落ヲ許サ、ルモノトス又其異議ノ申立ナキモ異議ノ事項中一ノ存スルモノト認ムルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サ、ルモノトス然レトモ競落異議ノ原因アルトキハ總テノ事項ニ付キ裁判所ハ職權ヲ以テ競落ヲ許サ、ルモノトス可キ限ニ在ラス其原因中ニハ常ニ職權ヲ以テ競落ヲ許ス可カラサルモノト或條件ノ隨伴スルトキニノミ職權ヲ以テ競落ヲ

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二五七 制執行

許サ、ルモノトアリ(第六百七十四條)

(甲) 職權ヲ以テモ常ニ競落ヲ許サ、ルモノトナス可キ事項ハ前示四號乃至八號ノ原因ノ存スルトキ是ナリ

(乙) 職權ヲ以テ常ニ競落ヲ許サストナスニ非ラスシテ或條件ノ存スルトキニ限り競落ヲ許サ、ルモノハ左ノ如シ

(イ) 前示一號ノ場合ニ於テ競賣ニ附シタル不動産カ性質上讓渡スルコトヲ得サルモノナリシトキ又ハ其執行力停止ヲ受ケタルモノナルトキハ職權ヲ以テモ競落ヲ許サ、ルモノトナスニ在リ

(ロ) 二號ノ競買人カ賣買ヲ爲シ又ハ不動産ヲ取得スル能力若クハ資格ニ欠缺アリシトキト雖モ競落期日ニ至ルマテ尙ホ其欠缺ノ繼續スルトキニ非ラサレハ職權ヲ以テ競落ヲ許サ、ルモノトナスヲ得ス

(ハ) 三號ノ原因アルモ利害關係人全體カ其變更アル賣却條件ニ依リ手續ノ續行ヲ承認シタルトキハ職權ヲ以テ競落ヲ許サ、ルモノトナスヲ得ス是レ其賣却條件ハ最低競賣價額ノ外ハ總テノ利害關係

人ノ合意ニ依リ變更スルヲ得ヘキモノナレハ競賣實施後ト雖モ異議ナシトハ強テ其不當ヲ咎ムルニ及ハサルヲ以テナリ

又競落許可ニ付テノ異議ノ原因中ニハ終局的ニ競落ヲ許サ、ルモノト其競賣ニ依ル競落ヲ許サ、ルニ過キササルモノトアリ

(甲) 終局的ニ競落ヲ許サ、ルモノトハ前示一號中ノ執行停止ノ一時ノモノ、外皆之ニ屬ス此原因ニ因リ競落ヲ許サ、ルトキハ強制競賣手續ハ茲ニ終局ヲ告ケ即チ其執行ハ完結ス可キモノトス

(乙) 其他ノ原因ハ唯其競賣ニ基ク競落ヲ許サ、ルニ過キス即チ形式上ノ原因ニ因リ競落ヲ許サ、ルモノナレハ其後更ニ競賣ヲ爲ス爲メ執行裁判所ハ職權ヲ以テ新競賣期日ヲ定ム可キモノナリ(第六百七十六條)以上ノ異議ニ關スル手續ハ入札ヲ以テ不動産ヲ賣却シタル場合ニモ之ヲ準用ス可キモノトス

第十 競落拒否ノ決定

執行裁判所ハ競賣方法ニ依リタルト入札ノ方法ヲ採リタルト問ハス競落期日ニ於テハ利害關係人ノ陳述ヲ聽キ競落許可ノ決定ヲ爲シ又ハ

競落拒否ノ決定

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二五九

競落ヲ許サ、ル決定ヲ爲ス可キモノトス此等決定ハ口頭辯論ヲ經テ爲
ス可キモノナレハ其言渡ヲ爲スヲ本則トス(第六百七十七條)而シテ競落ヲ許サ
サル決定ハ異議ノ原因アルトキ又ハ其他ノ特別ナル規定ニ依リ競落ヲ
許ス可カラサル原因アルトキ之ヲ爲シ其他ノ場合ニハ競落許可ノ決定
ヲ爲サ、ル可カラス

(二) 競落許可ノ決定 競落許可ノ決定ハ實體上ノ權利ヲ認定スルモノ
ナレハ他ノ實體上ノ裁判ノ如ク既ニ存在スル權利ニ付キ爭アル法律
關係ヲ判斷スルモノニ非ラス競賣ノ手續上法律ノ規定ヲ遵守シテ成
立シ之ニ因リテ所有權ヲ取得セシム可キモノナリヤ否ヤヲ調査シ許
ス可キモノナルトキハ其判定ヲ爲シ以テ新ナル法律關係ヲ發生セシ
ムルニ在リ而シテ之ニ依ル競落人ハ其不動産ノ所有權ヲ取得スルモ
ノトス(第六百八十六條)此決定ニハ常ニ競買シタル不動産ノ表示競落人ノ氏
名及ヒ競落ヲ許シタル競買價額ヲ掲ケサル可カラス(第六百七十九條)
此他第六百六十二條第六百六十三條ノ規定ニ從ヒ特別ノ賣却條件ヲ
以テ競賣ヲ爲シタルモノナルトキハ其特別ノ賣却條件ヲモ掲ク可キ

モノトス而シテ右ノ決定ハ言渡ヲ爲ス外尙ホ裁判所ノ揭示板ニ揭示
シ之ヲ公告セサル可カラス

(三) 競落不許ノ決定 此決定ハ競落許可ニ付テノ異議ノ原因又ハ其他
ノ事由ニ因リ競落ヲ爲サシメサル裁判ニシテ此決定ニ因リ最高價競
買人ハ其申出テタル價額ニ付テノ拘束ヲ免カレ其法律關係ヲ解除セ
ラル、モノトス(第六百八十四條)而シテ此競落ヲ許サ、ル決定ハ左ノ場合ニ
於テ之ヲ言渡ス可キモノナリ

(甲) 競落ニ付テノ異議ノ原因ニ付キ申立アリ又ハ職權ヲ以テモ其原
因存在スルモノト認メタルトキ(第六百七十四條)

(乙) 數個ノ不動産ヲ競賣ニ付シタル場合ニ於テ其數個中或幾部ノ賣
却代金ヲ以テ總テノ債權者ノ債權及ヒ強制執行ノ費用ヲ辨濟スル
ニ足ル可キトキハ其餘ノ不動産ニ付テハ競落不許ノ決定ヲ爲サ、
ル可カラス而シテ此場合ニ於テハ債務者ハ其競落拒否ノ決定前ニ
何レノ不動産ヲ賣却シ何レノ不動産ヲ保存ス可キヤヲ選擇シテ之
ヲ申立ツルコトヲ得(第六百七十五條)

(丙) 競賣期日ト競落期日トノ間ニ於テ天災其他ノ事變ニ因リテ不動
 産カ著シク毀損シタルトキハ最高價競買人ハ其競買ヲ取消ス權利
 アリ故ニ此取消ノ申出アリタルトキハ裁判所ハ其事情ヲ斟酌シ著
 シキ毀損ナリヤ否ヤヲ判斷シ果シテ毀損アリ且價額ニモ影響アル
 モノト認ムルトキハ競買ヲ取消ス決定ヲ爲スキモノトス(第六百
 七十八
 條) 卽シテ此場合ニ於テハ更ニ最低競賣價額ヲ減少シテ再競賣ヲ爲
 サシム可キヤ否ヤハ第六百五十五條乃至第六百五十七條ノ規定ニ
 從フ可キモノトス(第六百八
 十五條)

競落許否ノ決
 定ニ對スル抗
 告

(第十一) 競落拒否ノ決定ニ對スル抗告

競落拒否 決定ニ對シテ左ニ列擧スル者ヨリ次ニ示ス所ノ原因ニ因リ
 即時抗告ヲ爲スコトヲ得此即時抗告ノ期間ハ決定言渡ノ日ヨリ起算シ
 テ七日トス(第四百六
 十六條)

(一) 抗告ヲ爲シ得ヘキ者

(イ) 利害關係人 利害關係人ハ競落ヲ許ス決定ナルト之ヲ許サ、ル
 決定ナルトヲ問ハス其決定ニ因リ損害ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ

之ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其抗告ノ理由ハ自己ノ權利ニ
 損害ヲ來ストキニ限ルモノニシテ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル
 理由ニ基テ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルハ競落ニ關スル異議ノ場
 合ト同一ナリ(第六百八十二條第三
 項、第六百七十三條)

(ロ) 競落人 競落人ハ競落許可ノ決定ニ對シ競落ヲ許スキ理由ナ
 キコト例ヘハ自己ハ最高價競買人トシテ呼上ケラレタルモノニ非
 ラサルコトヲ主張シ又ハ競落決定ニ掲ケラレタル以外ノ賣却條件
 ヲ以テ競落ヲ許スキモノタルコトヲ主張シ競落許可決定ニ對シ
 テ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

(ハ) 競買人 競買人ハ全ク競落ヲ許サ、ル決定ナルト他人ニ競落ヲ
 許シタル決定ナルトヲ問ハス自己ニ競落ヲ許スキモノナルコト
 ヲ主張セントスルトキハ又競落拒否ノ決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲
 スコトヲ得而シテ此理由ヲ以テ競落人タラントシテ即時抗告ヲ爲
 ス競買人ハ其抗告中ニ掲ケタル競買價額ニ付キ拘束ヲ受クルモノ
 トス

民事訴訟法正解 強制執行 金銭ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二六三
 制執行

(二) 抗告ノ原因 競落拒否ノ決定ニ對シテハ以上ノ者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ其理由ニ制限アリ即チ法律上左ノ理由ノ存スルコトヲ要ス而シテ其理由ハ競落許可ノ決定ニ對スル場合ナルト競落不許可ノ決定ニ對スル場合ナルトニ因リ差異アリ(第六百八十一條)

(イ) 競落不許可ノ決定ニ對スル場合 此場合ニハ法律ノ規定ニ依リ競落不許可ノ原因一モ存セザリシコトヲ理由トスルトキニ限ル即チ第六百七十二條第一號乃至第八號ニ掲ケタル競落ニ對スル異議ノ原因一モ存セス又ハ其執行上ノ形式ニ付テモ欠缺ナキコトヲ主張スルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

(ロ) 競落許可ノ決定ニ對スル場合 此場合ニハ法律ニ定メタル競落許可ニ對スル異議ノ原因即チ第六百七十二條ニ掲ケラレタル原因中ノ一カ存スルカ又ハ競落決定力競落期日ノ調書ノ趣旨ニ牴觸スルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

以上ノ外尙ホ再審ノ訴ニ於ケル取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件ト同一ナル理由ノ存スルトキハ右(イ)(ロ)ニ説明セシ制限ニ拘ハラズ即

時抗告ヲ爲スコトヲ得

(三) 抗告ノ結果 抗告ノ結果トシテ一般ニハ裁判ノ執行ヲ停止セサルヲ本則トスレトモ(第六百四十四條)此競落許可ノ決定ニ對スル抗告アルトキハ法律上特ニ執行停止ノ效力ヲ生スルモノトセリ(第六百八十三條)

(四) 抗告裁判所ニ於ケル審理ノ手續 此手續ハ一般抗告ノ規定ニ從フ可キモノナレトモ競落拒否ノ決定ニ對スル抗告審ノ手續ハ特ニ左ノ手續ニ從フ可キモノトス(第六百八十二條)

(イ) 抗告裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ反對陳述ヲ爲サシムル爲メ相手方ヲ定ム可キモノトス

(ロ) 一ノ決定ニ對スル抗告數個アルトキハ之ヲ併合ス可キモノナリ是レ蓋シ一ノ不動産ノ競落拒否ノ裁判ニシテ二者相牴觸スルコトヲ避ケンカ爲メナリ

(ハ) 抗告裁判所ハ抗告ノ形式上適法ト認メタルトキハ競落拒否ノ當ヲ得タルヤ否ヤノ判定ヲ爲スニ當リテハ第六百七十四條ノ規定ヲ準用シ職權ヲ以テ競落許可ニ對スル異議ノ原因ノ有無ヲ調査シ其

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二六五

原因アルトキハ競落ヲ許サ、ル決定ヲ爲サ、ル可カラス
(三) 抗告裁判所ニ於テ執行裁判所ノ競落拒否ノ決定ヲ變更シ又ハ之
ニ廢棄シタルトキハ口頭辯論ヲ經タル場合ニ於テハ之ヲ言渡シ然
ラサル場合ニ於テハ其決定ヲ送達スルノ外尙ホ執行裁判所ハ更ニ
其裁判ヲ其裁判所ノ揭示板ニ揭示シテ公告ヲ爲サ、ル可カラス

競落拒否決定ノ效果

(第十二) 競落拒否決定ノ效果

執行裁判所ノ決定ナルト抗告裁判所ノ決定ナルトヲ問ハス競落拒否ノ
決定ハ左ノ效果ヲ生ス

(一) 競落ヲ許サ、ル決定確定シタルトキ

(甲) 競落人又ハ競買人ハ始メ競落許可ノ決定ヲ受ケ抗告ノ爲メ競落
ヲ許サ、ル決定ヲ受クルニ至ラザリシ競落人ナルト始メヨリ競落
ヲ許サ、ル競買人ナルトヲ問ハス競落ヲ許サ、ル決定確定シタル
トキハ總テ其中出テタル競買ノ責ヲ免カル、モノトス(第六百八十四條)

(乙) 執行ノ進行ニ關シテハ競落ヲ許サ、ルノ理由カ前ニ競落許可ニ
對スル異議ニ付テ述ヘタル所ノ終局的ニ競落ヲ許ス可カラサルモ

ノナリシトキハ此決定ニ因リ其執行ヲ終了ス可キモノナリ若シ單
ニ其競買ニ因ル競落ヲ許サ、ルニ過キサルトキハ更ニ新競賣ヲ爲
サ、ル可カラス

(二) 競落ヲ許ス決定アリタルトキ 執行裁判所若クハ抗告裁判所ニ於
テ競落ヲ許ス決定ノ言渡若クハ送達アリタルトキハ未タ其確定ニ至
ラス且代金ヲ支拂ハサルモ競落人ハ之ニ因リテ不動産ノ所有權ヲ取
得スルノ效ヲ生ス(第六百八十五條)

然レトモ若シ代金支拂期日ニ之ヲ支拂ハサルトキハ再競賣ニ付セラ
ル可キモノナレハ解除條件附ノ所有權ヲ得タルモノト謂フヘシ此強
制競賣上ノ所有權移轉ハ當事者間ノ合意ニ出ツルモノニ非ラス裁判
官ノ命令即チ裁判ニ因ルモノナレハ所有者ノ意思如何ニ拘ハラス競
落決定ノミニ因リ未タ登記簿ニ登記セサルモ當然其不動産ハ競落人
ノ所有ニ移ル可キモノナリ而シテ此決定ヲ廢棄セシムルニハ利害關
係人ヨリ抗告ヲ爲スノ途アレトモ其決定後債務者若クハ第三者ヨリ
執行ニ關スル異議ノ訴ヲ提起シ其賣得金ニ付キ執行停止ヲ爲シ得ル

民事訴訟法正解 強制執行 金銀ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二六七

ニ止マリ不動産ノ所有權ヲ回復スルコトヲ得ス故ニ執行ニ關スル異議ノ訴ニ因リ其所有權ノ移轉ヲ止メント欲セハ競落許可決定前異議ノ訴ヲ提起シ其執行停止ヲ申請セサル可カラス

競落人カ所有權ヲ取得シタル後ハ其不動産ニ關スル負擔例ヘハ租稅其他ノ公課ハ競落人ニ於テ之ヲ負擔セサル可カラサルノミナラス其危險即チ天災其他ノ事變ニ因リ損害ヲ生スルコトアルモ總テ競落人ノ負擔ニ屬シ從テ其利益ハ競落人ノ有ニ歸ス可キモノトス

斯ノ如ク其所有權ハ競落許可決定ニ因リ移轉スト雖モ其不動産ノ引渡ハ代金ヲ支拂ヒタル後ニ非ラサレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス是レ普通ノ賣買ノ場合ニ於テモ特別ノ合意アラサル限りハ物ノ引渡ト代金支拂ト同時ニ爲スヲ原則トスレハナリ(民法第五百七十三條參看)然レトモ其引渡アルマテ之ヲ債務者ノ占有ニ任スルハ極メテ危險ナリ故ニ關係人ノ申立アレハ裁判所ハ別ニ管理人ヲ選定シ其不動産ヲ管理セシム可キコトヲ命スルコトヲ得若シ債務者カ此命令アルニ拘ハラズ引渡ヲ拒ムトキハ競落人若クハ債權者ノ申立ニ因リ裁判所ハ執達吏ヲシテ

債務者ノ占有ヲ解キ其不動産ヲ管理人ニ引渡サシムルコトアル可シ(第六百八十七條)

以上述ヘタル效力ハ競落許可決定アレハ其確定以前ニ於テ其效力生スト雖モ若シ其決定ニ對シテ抗告アルトキハ執行停止ノ效力生スルヲ以テ以上ノ效力モ亦總テ停止セラル、モノト謂ハサル可カラス

第十三 新競賣及ヒ再競賣

前ニ説明セシ事項ハ普通ノ順序ニ從ヒテ不動産ノ競落マテ進行スル手續ナレトモ強制競賣ハ一回ノ競賣實施ヲ以テ賣却ノ手續ヲ終了スルコト能ハサル場合アリ即チ更ニ競賣ヲ爲サ、ルヲ得サル場合アリ又一度競落許可ノ決定アルモ再度ノ競賣ヲ要スル場合アリ其競賣實施ヲ結了セシテ更ニ競賣ヲ爲スヲ新競賣ト謂ヒ一度競落許可決定アリタル後ニ尙ホ再度ノ競賣ヲ爲スヲ再競賣ト云フ

(一) 新競賣 新競賣ハ左ノ場合ニ之ヲ行フ

(甲) 競賣期日ニ許ス可キ競買價額ノ申出ナクシテ其期日ヲ終了シタルトキ 即チ其期日ニ全ク競買ヲ爲サントスル者出頭セサルカ又

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二六九

新競賣及ヒ再競賣

兩者ノ區別

縦令出頭スルモ最低競賣價額以上ノ競買ヲ申出ツル者アラサルト
キハ裁判所ハ不動産上ノ負擔及ヒ費用ヲ辨濟シテ尙ホ剩餘ヲ得ヘ
キ見込アル限りハ最低競賣價額ヲ低減シ新競賣期日ヲ定メテ更ニ
競賣ヲ實施セシム可キモノトス(第七十六條)

(乙) 競落許可ニ對スル異議ノ原因アルカ爲メ既ニ競賣ヲ實施シタル
モ其競落ヲ許サハルトキ 即チ終局的ニ競落ヲ許ス可カラサルニ
非ラサルモ當度ノ競落ハ許スコト能ハサルトキハ執行裁判所ハ職
權ヲ以テ更ニ新競賣期日ヲ定メ尙ホ競賣ヲ實施セサル可カラス此
場合ニ於ケル新競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後ニ其期日ヲ開ク
可キモノトス(第六十七條)

(丙) 競賣期日ト競落期日トノ間ニ於テ天災其他ノ事變アリテ不動産
カ著シク毀損シタルカ爲メ最高價競買人カ其競買ヲ取消シタルカ
爲メ其競落ヲ許スニ至ラサリシトキ 此場合ニ於テモ亦執行裁判
所ハ職權ヲ以テ更ニ新競賣期日ヲ定メ前同様競賣ヲ實施セサル可
カラス(第六十七條)

(二) 再競賣、一度競落許可ノ決定アリ其決定確定シ代金支拂期日ヲ定
メタル後競落人カ其代金支拂ノ期日ニ於テ之ヲ支拂ハサルトキハ執
行裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可キモノトス

再競賣ニ於テハ最初ノ競賣手續ノ爲メ定メタル最低競賣價額ヲ始メ
其他ノ賣却條件ハ總テ此場合ニモ之ヲ適用ス可キモノナリ而シテ其
再競賣期日ハ少ナクトモ十四日ノ後タラサル可カラス

此場合ニ於テモ競落人タル者カ再競賣期日ノ三日前マテニ其買入代
金及ヒ手續ノ費用ヲ支拂ヒタルトキハ再競賣ノ手續ヲ取消ス可キモ
ノトス

此再競賣ハ新競賣ト異ナリ一度競落許可ノ決定ヲ受ケタルニモ拘ハ
ラス競落人カ其義務ヲ履行セサルカ爲メ更ニ競賣ヲ爲スノ止ムヲ得
サルニ至ラシメタルモノナレハ之カ制裁トシテ前競落人タリシ者ハ
再競買ニ加ハルコトヲ許サレズ且再度ノ競落代金カ最初ノ競落代金
ヨリ低價ナリシトキハ其不足額及ヒ手續ノ費用ヲ負擔セシムルモノ
トス又若シ其再度ノ競落代金カ高價ナルトキト雖モ其剩餘額ヲ請求

スルコトヲ許サス(第六百八十八條)

斯ノ如ク義務不履行ノ前競落人ニ對シ不足額ヲ負擔セシムト雖モ若シ其者カ任意ニ其支拂ヲ爲サ、ルトキハ其執行手續ニ於テ之ヲ強制シテ取立ツルノ途ナシ故ニ其負擔ハ債權者又ハ債務者ヨリ前競落人ニ對シテ更ニ訴ヲ以テ之カ支拂ノ請求ヲ爲サ、ル可カラス

以上新競賣ノ場合ナルト再競賣ノ場合ナルトヲ問ハス競賣ノ準備ヲ爲シ執達吏カ其競賣ヲ實施スル手續ニ至リテハ一般競賣ノ場合ト異ナルコトナシ

配當要求

(第十四) 配當要求

數人ノ債權者ノ爲メ同時ニ不動産ノ強制競賣手續ヲ爲ス場合ニ於テハ前ニ説明セシ普通ノ規定ニ從フ可キモノナレトモ(第七百一一條)一度強制競賣開始ノ決定アリタル後ハ執行力アル正本ニ基キ強制競賣ノ申立アルモ更ニ競賣開始ノ決定ヲ爲スコトヲ得ス其後ニ至リテハ唯配當要求ノ途アルノミ

(一) 執行力アル正本ヲ有スル債權者カ一旦強制競賣手續開始ノ決定ア

リタル後更ニ其不動産ニ對シテ競賣ノ申立ヲ爲シタルトキハ其申立書ヲ執行記録ニ添付シ以テ配當要求ノ效力ヲ有セシムルモノトス而シテ若シ其前ノ競賣ノ申立カ取消トナリ其不動産ノ賣得金ヲ以テ其債權者ノ債權ヨリモ優先ナル債權ヲ辨濟シテ剩餘ナキニ非ラサルトキハ第二ノ債權者カ開始決定ヲ受ケタルト同一ノ效力ヲ生ス即チ開始決定ヲ受ケタル債權者ノ地位ニ代ハルモノトス(第六百四十五條)

(二) 右ノ手續ニ依ラスシテ配當要求ヲ爲サントスル債權者ハ競落期日ノ終リニ至ルマテ其請求ノ原因ヲ開示シテ執行裁判所ニ之カ要求ヲ爲ス可キモノナリ(第六百四十六條)

以上説明セシ二個ノ配當要求者アリタルトキハ執行裁判所ハ其配當要求アリタルコトヲ各債權者及ヒ債務者ニ通知セサル可カラス而シテ執行力アル正本ニ依ラスシテ配當ヲ要求スル債權者アルトキハ債務者ハ右執行裁判所ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三日ノ期間内ニ其債權ヲ認諾スルヤ否ヤヲ執行裁判所ニ申出テサル可カラス若シ債務者カ之ヲ認諾セサル旨ヲ申立テタルトキハ執行裁判所ハ之ヲ債權者ニ通知ス可ク然ル

民事訴訟法正解

強制執行

金銭ノ債權ニ付テノ強制執行

不動産ニ對スル強

代金支拂及ヒ配當

トキハ債權者ハ其通知ヲ受ケタル日ヨリ三日ノ期間内ニ債務者ニ對シテ訴ヲ提起シ其債權ヲ確定ス可キモノナリ(第六百四十七條)是レ彼ノ動産ニ對スル強制執行ノ配當要求ノ場合ト同一ナリ(第五百九十一條)

(第十五) 代金支拂及ヒ配當

執行裁判所ハ自ラ言渡シタル決定ナルト抗告裁判所ノ決定ナルトヲ問ハス競落許可ノ決定確定シタルトキハ職權ヲ以テ代金支拂ト配當ノ爲メノ期日ヲ指定ス可キモノトス此期日ハ代金支拂ト配當實施トノ二者ヲ相兼スルモノナルカ故ニ競落人ハ勿論利害關係人及ヒ配當要求者ヲモ呼出サ、ル可カラ(第六百九十三條)而シテ此期日ニ於テハ代金ノ支拂ト配當實施ノ手續ヲ併行ス可キモノナリ

(二) 代金支拂ノ手續 執行裁判所ハ此期日ニ於テハ第一着ニ競落人カ支拂フ可キ金額即チ各債權者ノ配當ヲ受ク可キ金額ノ幾何ナルヤヲ確定セサル可カラス而シテ其賣却代金中ニハ左ノ金額ヲ包含ス(第六百九十四條)

(甲) 代金 是レ競落決定中ニ掲ケタル不動産ノ代金ノ謂ナリ

(乙) 利息 此利息ハ常ニ之ヲ生ス可キモノニ非ラス其不動産カ果實其他金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ生スル場合ニ於テ競落許可決定言渡ヨリ代金支拂マテノ間ノ利息ハ競落人ヨリ支拂フ可キ賣却代金中ニ包含セシムルモノナリ

以上ノ賣却代金ハ競落人カ其期日ニ完納セサル可カラス尤モ競落人カ擔保ノ爲メニ供託シタル金額アルトキハ之ヲ代金ニ算入シ差引クコトヲ得ヘシ而シテ競落人カ此期日ニ義務ヲ完全ニ履行セサルトキハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ不動産ノ再競賣ヲ命ス可キコトハ前ニ説明セシ所ナリ

賣却代金ノ支拂ハ現金ヲ以テ之ヲ爲スヲ本則トス然レトモ現金ノ支拂ニ換ヘ民法ニ規定スル所ニ準據シテ債務ノ更改又ハ相殺ヲ以テ之カ履行ヲ爲シ得ヘキ場合アリ(第六百九十九條)
(甲) 競落人ハ賣却條件ニ依リ不動産ノ負擔ヲ引受クルノ外代金支拂及ヒ配當期日ニ於テ關係債權者ノ承諾ヲ得タルトキハ買入代金ニ

民事訴訟法正解 強制執行 代金ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二七五

充ツルヲ限度トシテ其支拂ニ代ヘ債務者カ其債權者ニ對スル債務ヲ引受ケ其債務者ノ更改ニ依リ其履行ヲ爲スコトヲ得

(乙) 競落人カ債權者中ノ一人ナルトキハ自己ノ債權額ヲ買入代金ニ充ツルヲ限度トシテ之カ差引計算ヲ爲スニ因リテ完済スルコトヲ得即チ相殺ニ因リテ之ヲ消滅セシムルコトヲ得ルナリ

以上ノ如ク競落人ハ義務ノ更改又ハ混同ヲ爲シ得ヘシト雖モ若シ競落人カ引受ケントスル債務者ノ債務ニ對シ又ハ其計算セントスル債權ニ對シ異議ヲ主張スル者アルトキハ之ニ相當スル金額ヲ現金ニテ支拂ヒ又ハ其異議ノ完結スルニ至ルマテ相當ノ擔保ヲ供セサル可カラス

(二) 配當手續 強制競賣ニ付キ配當要求ヲ爲ス者(第六百四十五條)又ハ其他ノ不動産上ノ權利ヲ有スル者(第六百四十八條)チキトキハ賣却代金ヲ以テ差押債權者ノ辨濟ニ充テ尙ホ殘金アレハ之ヲ債務者ニ返還シ執行ヲ終局ス可キモノニシテ別ニ配當手續ヲ要セス然レトモ債權者若クハ不動産上ノ權利者二人以上アリテ且賣却代金ヲ以テ各債權

者等ヲ満足セシムルニ足ラサルトキハ配當ノ手續ヲ盡サ、ル可カラス(第六百九十一條)

此配當ハ代金支拂ト同一期日ニ於テ賣却代金ヲ確定シ競落人ヨリ其代金支拂アリタル後執行裁判所ニ於テ其配當ヲ爲スコキモノトス其手續ハ動産ニ對スル執行ノ配當手續ノ如ク配當ノ準備トシテ計算書ノ提出ヲ催告シ(第六百二十二條)豫メ配當表ヲ作成シ之ヲ供ヘ置クカ如キ手續ヲ爲サ、ルカ故ニ其催告ヲ俟タスシテ各債權者ハ競落期日マテニ債權ノ計算書ヲ提出セサル可カラス(第六百九十二條)

(甲) 配當表ノ確定 債權者ヨリ計算書ヲ提出シタルト否トニ拘ハラズ執行裁判所ハ其期日ニ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ依ラスシテ配當要求ヲ爲シタル債權者ヲ訊問シ配當表ヲ確定ス可キモノトス(第六百九十五條)

若シ出頭シタル利害關係人及ヒ執行力アル正本ニ依ラスシテ配當要求ヲ爲シタル債權者全體カ一致シタルトキハ證據書類若クハ法律ノ規定ヲ顧ミス之ニ基キ配當表ヲ確定スルコトヲ得

(乙) 配當表ニ記載ス可キ事項 配當表ニハ左ノ事項ヲ記載セサル可
カラス(第六百九
十六條)

(イ) 賣却代金

(ロ) 各債權者ノ債權ノ元利及ヒ費用

(ハ) 配當ノ順位

(ニ) 配當ノ割合

(丙) 配當ニ對スル異議及ヒ配當實施ノ手續ニ付テハ動産ニ對スル執
行ノ配當手續ヲ準用シ唯次號ノ特別ナル手續ヲ適用スルノミ(第六
百九
十七條)

(丁) 期日ニ出頭シタル債務者ハ執行力アル正本ニ依ル債權者ナルト
之ニ依ラサル債權者ナルトヲ問ハス其債權及ヒ配當ノ順位ニ對シ
配當ニ付テノ異議ヲ主張スルコトヲ得然レトモ執行力アル正本ニ
依ル債權者ニ對スル異議ハ執行ニ關スル請求ニ對スル異議ノ規定
ニ依リ(第五百四
十五條、第五百
四十八條)之ヲ完結ス可キモノタリ
出頭シタル各債權者モ亦自己ノ利害ニ關シテハ他ノ債權者ニ對シ

競賣終了ニ付
テノ登記囑託

債權及ヒ其順位ニ付キ配當ニ對スル異議ヲ主張スルコトヲ得(第六
百九
十八條)

(第十六) 強制競賣終了ニ付テノ登記囑託
強制競賣ヲ終結シタルトキハ執行裁判所ハ登記判事ニ左ノ登記囑託ヲ
爲サ、ル可カラス

(一) 配當實施ニ因リ強制競賣カ終結シタルトキハ執行裁判所ハ配當調
書及ヒ競落決定ヲ登記判事ニ送附シ左ノ諸件ノ登記ヲ囑託ス可キモ
ノトス(第七
百條)

(イ) 競落人ノ所有權取得ノ登記

(ロ) 競落人ノ引受クサル不動産上ノ負擔ノ抹消

(ハ) 強制競賣開始決定ノ登記ノ抹消

右等ノ登記ノ費用ハ總テ競落人之ヲ負擔セサル可カラス

(二) 配當實施ニ至ルマテニ進マスシテ配落期日ニ於テ競落ヲ許サ、ル
決定ヲ爲シ爾後新競賣ヲ爲ス可キ場合ニ非ラサルカ爲メ其執行ヲ完
結シタルトキハ執行裁判所ハ強制競賣開始決定ノ登記抹消ノミヲ登

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二七九

記判事ニ囑託ス可キモノトス(第九十六條)

第三款 強制管理

強制管理

強制管理ハ、不動産ニ對スル強制執行ノ一ノ方法ニシテ、強制競賣ト異ナル所ハ、強制競賣ハ、不動産其モノ、賣却代金ヲ得ルヲ目的トスルニ在リテ、其不動産ヨリ生スル收益ヲ目的トスルニ非ラス、強制管理ハ之ニ反シテ、不動産ヨリ生スル收益ノミヲ得ルヲ目的トスルニ在リテ、不動産ノ賣却代金ヲ得ルヲ目的トスルニ非ラス、故ニ賣却ヲ爲セハ充分ノ價值アル不動産ト雖モ現時收益ヲ生セサルモノ、如キハ強制管理ノ目的トナスコトヲ得ス蓋シ、強制管理ナル執行方法ハ、不動産カ世襲財産ニ係リ其收益ノ外ハ差押アルコトヲ得サル場合又ハ、不動産ニ付キ債務者ト第三者トノ間ニ於テ買戻ノ約定アリ若クハ其他ノ理由ニ因リ競賣實施ノ困難ナルモノニ付テハ此強制管理ノ必要ヲ見ル可シ而シテ強制管理ニ關スル手續ハ、不動産ニ對スル強制執行ノ通則ニ從ヒ強制競賣ニ關スル手續ヲ準用ス可キモノナリ

強制管理ノ申立

(第一) 強制管理ノ申立

強制管理ノ申立ヲ爲スニ付テハ其申請書ニ記載ス可キ事項及ヒ之ニ添

強制管理開始決定

(第二) 強制管理開始決定

附ス可キ書面等ハ強制競賣ニ關スル規定即チ第六百四十二條第六百四十三條ノ規定ヲ準用ス可キモノナリ
若シ強制管理ヲ爲サントスル不動産カ差押債權者ノ債權ニ付キ不動産上ノ義務ヲ負フ場合例ヘハ其債權ノ爲メニ既ニ該不動産ヲ抵當ニ爲シタル場合ノ如キハ強制競賣ノ規定ニ於ケル第六百四十三條第一項第二號ニ掲ケタル所ノ債務者ノ所有タルコトヲ證スル證書ヲ添附スルヲ要セス之ニ換ヘテ唯其不動産ヲ債務者カ占有スルコトヲ疏明スル證書ヲ添附スルヲ以テ足レリトス(第七百六條)

執行裁判所カ強制管理ノ開始決定ヲ爲スニハ強制競賣開始決定ニ關スル第六百四十四條ノ規定ヲ準用シ債權者ノ爲メニ其不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可キモノナレトモ其他尙ホ特別ニ記載ヲ要ス可キ事項アリ即チ其決定ニハ左ノ諸件ヲ宣言ス可キモノトス
(一) 債權者ノ爲メニ強制管理トシテ不動産ヲ差押フルコト(第六百四十四條)
(二) 債務者カ管理人ノ事務ニ干渉スルヲ禁スルコト

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二八一

(三) 債務者カ不動産ノ收益ニ付キ處分スルヲ禁スルコト

(四) 不動産ノ收益ヲ給付ス可キ第三者アルトキハ其第三者ニ對シ其後ノ給付ヲ管理人ニ爲ス可キ旨ヲ命スルコト 蓋シ強制管理ヲ爲サントスル不動産ハ之ヲ他人ニ利用セシメ其對價ヲ收得シ利益ヲ收ムルモノ尠ナシトセス斯ノ如ク收益ヲ給付ス可キ第三者アルトキハ之ニ對シ其給付ヲ管理人ニ爲サシムルニ在リ

強制管理開始決定ニ掲ク可キ事項ハ右ノ如シ而シテ此決定ハ職權ヲ以テ當事者ニ送達ス可キモノナリ其決定ヲ債務者ニ送達シタルトキハ差押ノ效力ヲ生スルコトハ強制競賣開始決定ノ場合ト同一ナリ若シ收益ヲ給付ス可キ第三者アルトキハ尙ホ職權ヲ以テ其第三者ニモ之ヲ送達セサル可カラス而シテ第三者ニ對シテハ此送達ニ因リテ差押ノ效力ヲ生ス

執行裁判所カ此決定ヲ爲シタル際登記判事ニ囑託ヲ爲シ公課申出ノ催告ヲ爲スカ如キハ總テ強制競賣開始決定ノ規定ヲ準用ス(第七百六條)右強制管理開始決定ノ效力ニ至リテモ亦強制競賣ノ規定ヲ準用ス可キ

モノナレトモ其性質上全ク效果ヲ異ニスルモノアリ

(一) 強制管理開始決定ノ效果ハ其不動産ノ管理人ニ移サシムルノ效ヲ生ス故ニ強制競賣開始決定アルモ債務者ハ其不動産ノ利用及ヒ管理ヲ爲スコトヲ妨クサルモノト相異ナリ債務者自ラ其不動産ヲ占有シ之カ管理ヲ爲シ居ルトキハ其管理ハ總テ管理人ニ移サシム可ク自ラ之ヲ利用及ヒ管理スルコトヲ得ス若シ債務者カ其利用及ヒ管理ヲ管理人ニ移スコトヲ拒ムトキハ強制的ニ其占有ヲ解カシムルコトヲ得ヘシ

(二) 強制管理開始決定アリタル後ニ於テ強制競賣開始決定ヲ爲スヲ妨クスト雖モ更ニ同一種類ノ強制管理開始決定ヲ爲スヲ得ス(第七百八條)右ノ外差押ノ效力ニ關シテハ總テ強制競賣ノ規定ヲ準用セサル可カラス

(第三) 強制管理ニ關スル執行裁判所ノ監督權

不動産ニ對スル執行ハ執行裁判所ノ職權ニ屬スルモノナレハ其強制管理モ亦執行裁判所ノ實施ス可キモノ、如クナレトモ裁判所ハ直接ニ其

執行裁判所ノ監督權

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二八三

不動産ヲ管理スルコトヲ得サルカ故ニ其監督ノ下ニ管理人ヲ任命シ之
 カ管理ヲ爲サシム可キモノトセリ此管理人ハ敢テ債權者若クハ債務者
 ノ代理人タルモノニ非ラス彼ノ破産管財人ト等シク一ノ執行機關ニ屬
 ス而シテ其任命ハ執行裁判所カ開始決定ヲ爲スニ際シ其決定中ニ之ヲ
 掲ケ又ハ特別ノ命令ヲ以テ之ヲ選任スルモ自由ナリ其管理人ハ裁判所
 ノ意見ヲ以テ適當ト認ムル者ヲ選任ス可キハ勿論ナレトモ債權者ハ適
 當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得（第七十一條第一項）
 其管理人ノ任命及ヒ之カ監督ニ付キ執行裁判所ノ爲ス可キ行爲ハ左ノ
 如シ（第七百十一條）

- (一) 管理人ノ任命ニハ債務者ニ代リ第三者ヨリ給付ス可キ收益ヲ取立
 ツルノ權利ヲ授與ス可キモノトス
 右ノ外裁判所ハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シ必要ナリト認ムルトキハ
 次ノ行爲ヲ爲スヘキモノトス
- (二) 管理人ニ對シ管理ニ關スル必要ナル指揮ヲ爲スコト 不動産ヲ完
 全ニ保護シ且相當ナル收益ヲ得ル方法ヲ定ムルカ如キハ茲ニ所謂必

要ナル行爲ニ屬ス若シ未タ賃貸借ノ設定ナキカ又ハ其契約アルモ既
 ニ満期ニ至リシ場合ニ於テハ債權者及ヒ債務者ヲ審訊シタル後ニ適
 當トスルトキハ鑑定人ノ意見ヲ聽キタル後相當ノ賃料ヲ以テ賃貸ヲ
 爲スカ如キ必要ナル指揮ヲ爲サル可カラス

(三) 管理人ニ與フ可キ一定ノ報酬ヲ定ムルコト 是レ亦債權者債務者
 ノ意見ヲ聽キ適當トスルトキハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ其額ヲ定ム可キ
 モノトス

(四) 管理人ノ業務執行ヲ監督スルコト 其業務施行ノ監督ハ一々其行
 爲ヲ指揮スルモノニ非ラス適當ニ管理權ヲ行使スルヤ否ヤヲ監視シ
 且管理行爲ニ付キ疑ヲ生シ又ハ異議アルトキハ之ニ對シテ判斷ヲ與
 フルニ在リ

(五) 監督上必要ト認ムルトキハ管理人ヲシテ保證ヲ立テシムルコトヲ
 得

(六) 管理人ニ不當ノ行爲アルトキハ其職ヲ免シ若クハ二十圓以下ノ過
 料ヲ言渡スコトヲ得

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二八五
 制執行

(第四) 管理人ノ義務

管理人カ其任命ヲ受クテ職務ニ就クトキハ其不動産ヲ占有シ之カ管理即チ不動産ニ付キ從來行ハル、管理方法又ハ執行裁判所ノ指揮ニ因ル方法ニ從ヒテ之カ管理ヲ爲サル可ラス而シテ此場合ニハ管理人ハ左ノ職權ヲ有ス(第四百七十一條、第四百七十五條)

- (一) 管理人ハ不動産ノ占有ヲ爲ス可キモノトス
- (二) 不動産ノ占有ヲ爲スニ付キ債務者又ハ第三者ヨリ抵抗ヲ受クルトキハ執達吏ヲシテ之ニ立會ハシメ強制シテ債務者ノ占有ヲ解キ自己ノ占有ニ移サシムルコトヲ得此場合ニ於テハ其立會ヲ求メラレタル執達吏ハ威力ヲ用キ且警察上ノ救助ヲ求ムルコトヲ得ヘシ
- (三) 第三者ノ給付ス可キ收益アルトキハ之ヲ取立ツ可キモノトス若シ第三者カ其給付ヲ拒ムトキハ管理人ハ訴ヲ提起シテ之ヲ請求スルコトヲ得

(四) 管理人ハ不動産ノ收益ヲ領收シタル日ヨリ該不動産ノ負擔ニ係カル租稅其他ノ公課及ヒ管理上ノ費用ヲ辨濟シ其殘額ヲ以テ債權者ニ

對スル辨濟ニ供ス可キモノトス其管理ノ費用中ニハ管理人カ自ラ受ク可キ報酬ヲモ包含ス而シテ此等ノ手續ハ收入ノ時期毎ニ爲ス可キヤ年末ニ之ヲ爲ス可キヤハ裁判所ノ豫メ指揮セラレタル方法ニ從ハサル可ラス

債權者カ數名アリテ其配當ニ付キ協議調ハサルトキハ管理人ハ其旨ヲ執行裁判所ニ届出テ其配當手續ニ移サ、ル可ラス

(五) 管理人ハ管理ノ處分力數今年ニ亘ルトキハ毎年度ノ終リニ收益ノ多寡及ヒ管理ノ費用及ヒ債權者ニ辨濟シタル金額ノ計算書ヲ作成シ各債權者、債務者及ヒ裁判所ニ宛テ各一通ヲ差出サ、ル可ラス各債權者ハ其計算書ノ送達ヨリ七日ノ期間内ニ執行裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得此期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ其計算書承認シタルモノト看做サル可シ

此計算書ハ業務執行濟即チ強制管理取消ノ決定アリテ其任務終了ノ場合ニモ亦之ヲ爲ス可ク而シテ其計算書ニ對シ異議ノ申立ナキトキハ獨リ計算ヲ承認シタルモノト看做スニ止マラス管理人ノ卸任ヲモ

民事訴訟法正解

強制執行

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二八七

承認シタルモノト看做ス可キモノナリ

(第五) 收益金配當ノ手續

強制管理カ差押債権者一人ノ爲メノミナラス他ニ債権者アリ即チ數人ノ債権者アリテ管理上ノ收益金ヲ以テ各債権者ヲ満足セシムルニ足ラサルトキハ配當手續ヲ實施セサル可カラス斯ノ如ク配當手續ヲ要ス可キ場合ニ在リテハ動産ニ對スル強制執行及ヒ不動産ニ對スル強制競賣ノ場合ニ於ケル配當手續ト同一ナル方法ヲ採ル可キモノナリ故ニ執行裁判所ハ一度強制管理開始ノ決定アリタル不動産ニ對シテハ更ニ他ノ債権者ヨリ強制管理ノ申立アルモ再ヒ其開始決定ヲ爲ス可キモノニ非ラスシテ其申立書ヲ執行記録ニ添付スルヲ以テ配當要求アリタルモノト看做ス可キモノナリ(第六百四十五條)然レトモ強制管理開始ノ決定アリタル不動産ニ對シ強制競賣ノ申立アルトキハ其競賣開始ノ決定ヲ爲ス可キハ勿論ナリ(第六百四十三條)然ラハ各不動産ニ對シ強制競賣開始ノ決定ヲ爲ストキハ強制管理ハ如何ナル效果ヲ生ス可キヤト謂フニ不動産其物ヲ賣却スレハ登記簿ニ記入ヲ要スル總テノ不動産上ノ負擔ヲ免カル、モノ

トナスカ故ニ其強制競賣開始決定ニ因リ強制管理ハ自ラ消滅ニ歸ス可キモノナリ是ヲ以テ強制管理ヲ申立テタル債権者ハ其不動産ノ賣却代金ノ配當ヲ受ケント欲セハ第六百四十六條ノ規定ニ依リ配當要求ヲ爲サ、ル可カラス而シテ強制管理ニ因ル執行ニ對シテハ執行力アル正本ニ依ル債権者ニ限り配當要求ヲ爲スコトヲ得即チ執行力アル正本ラサル配當要求ハ之ヲ許サルモノトス斯ク規定セシ所以ノモノハ民法ノ規定ニ依ル配當要求ハ債務者ノ財產カ總テノ債務ヲ辨濟スルニ足ラサルトキ又ハ債務者ノ財產ノ多分カ他ノ債権者ノ爲メニ差押ヲ受ケタルコトヲ要件トセシカ故ナリ(舊民法債權擔保編第一條)然ルニ強制管理ノ場合ニ在リテハ單ニ不動産ノ收益ノミヲ執行ノ目的トナスニ止マリ主タル不動産其物ハ未タ執行ノ目的物タルニ非ラス即チ未タ差押ヲ受ケタルモノト云フヲ得サレハ民法ノ規定ニ於ケル債務者ノ財產ノ多分カ差押ヲ受ケタル場合ニ該當セス即チ總テノ債務ヲ辨濟スルニ足ラサルモノト謂フヲ得サルカ故ニ斯ク制限シタルモノナリ

然レトモ現行民法ニ於テハ斯ル規定ノ設ナキカ故ニ強制管理ノ場合ニ
民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 不動産ニ對スル強 二八九

於ケル配當要求ノ手續ハ幾分カ改正ヲ要ス可キモノナリト信ス
 執行裁判所ハ配當要求ヲ爲ス者アレハ債權者債務者及ヒ管理人ニ其旨
 ヲ通知セサル可カラス是レ配當ノ協議ヲ爲サシムルニ付テ之ヲ知ラシ
 ムルコトヲ必要トスルカ故ナリ而シテ各債權者間ニ於テ配當ノ協議調
 ハス管理人ヨリ計算書ヲ添ヘテ其旨ヲ執行裁判所ニ届出ツルトキハ執
 行裁判所ハ強制競賣ノ場合ニ於ケル配當手續ト同一ノ方法ヲ以テ配當
 ヲ實施ス可キモノナリ此場合ニ於テ各債權者又ハ債務者カ管理人ノ計
 算書ノ送達アリタル日ヨリ七日ノ期間内ニ異議ノ申立ヲ爲サハルトキ
 ハ管理人ノ職務ヲ卸任セシメ又異議ノ申立アレハ之カ裁判ヲ爲シ其完
 結後管理人ノ卸任ヲ命ス可キモノトス(第七百八條乃至第七
 百十條、第七百十四條)

(第六) 強制管理ノ完結
 強制管理ノ方法ニ依ル執行ハ他ノ方法ニ依ル執行ト異ナリ差押物其物
 ヲ賣却シ其代金ヲ以テ債權者ノ債權ノ辨濟ニ充ツ可キモノニ非ラサル
 カ故ニ強制管理ヲ取消サハル限リハ幾年月ヲ經過スルモ之ヲ續行執行
 ス可キモノト謂ハサルヲ得ス是ヲ以テ強制管理ナルモノハ其取消ヲ爲

スニ因リテ完結ス可キモノニシテ其取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲
 ス可キモノナリ而シテ其取消ハ申立ニ因リ又ハ執行裁判所ノ職權ヲ以
 テ之ヲ爲シ或ハ受訴裁判所カ取消ヲ命スルニ因リ取消ノ決定ヲ爲ス可
 キ場合アリ其執行裁判所カ自ラ強制管理ノ取消ヲ決定スル場合ハ左ノ
 如シ

- (一) 配當ニ與カル總テノ債權者カ不動産ノ收入ヲ以テ各辨濟ヲ受ケ滿
 足スルニ至リタルトキ
 - (二) 強制管理ヲ續行スルカ爲メニ要スル特別ノ費用額ヲ債權者カ豫納
 セサルトキ
 - (三) 強制管理ノ目的タル不動産カ強制競賣ニ因リ競落許可決定アリタ
 ルトキ
 - (四) 強制管理ノ申立ヲ取下クタルトキ
 - (五) 強制管理ノ目的タル不動産カ天災其他ノ事變ニ因リ滅盡シタルト
 キ
- 以上各個ノ場合ニ於テハ執行裁判所ハ強制管理取消ノ決定ヲ爲ス可キ

モノタリ又受訴裁判所ノ命令ニ依リ取消ノ決定ヲ爲ス可キ場合ハ債務者又ハ第三者カ第五百四十七條乃至第五百四十九條ノ規定ニ從ヒ受訴裁判所ノ判決又ハ一時ノ處分ニ因リ執行處分ヲ取消ス可キ裁判ヲ受ケタル場合はナリ(第七百十三條)

第四節 船舶ニ對スル強制執行

金錢ノ債權ニ付テノ強制執行中ノ一トシテ船舶ニ對シテモ執行ヲ爲スコトヲ得抑モ船舶ハ動産ニ屬スト雖モ其性質上一種ノ器械的ノ組織アルモノニシテ今日ニ在テハ其構造ノ壯嚴ナル縱令機關力ニ依リ隨意ニ運轉ヲ爲シ得ヘキモ水上ニ於ケル家屋即チ不動産ト等シキ狀態ヲ存シ各國共ニ之ヲ普通ノ動産ト其取扱ヲ異ニセリ我法律ニ於テモ亦船舶ハ普通ノ動産ト同視セス一種特別ノ規定ニ依リ之ヲ準不動産視シテ定繫港ヲ定メ之ヲ船籍地トナシ且船舶登記簿ノ規定ヲ設ケ不動産ト同一ニ登記ヲ經テ抵當トナシ得ヘキコトヲ認メ從テ船舶債權者ノ權利ハ常ニ船舶ニ追及スルヲ得ヘキコトヲ認メ其所有權ノ移轉ニ於ケルモ不動産ト等シク登記ヲ爲ス

可キ方法ヲ定メ其他船舶國籍證書ヲ受有スルトキハ日本ノ國旗ヲ掲グル權利ヲモ有ス可キモノトセリ

夫レ斯ノ如ク船舶ハ準不動産視シテ且之ヲ貴重視スルヲ以テ之ニ對スル強制執行ニ至リテモ亦普通ノ動産ニ對スル執行ノ規定ニ從フコトヲ得ス是ヲ以テ法律ハ不動産ニ對スル強制執行ニ準據シ特別ニ船舶ニ對スル強制執行ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ
前陳ノ理由ニ依リ特別ノ規定ヲ設ケラレタリト雖モ水上ニ浮フ船艇ニ對スル強制執行ハ悉ク本節ノ規定ニ依ル可キ限ニ在ラス今此規定ニ依ル可キ船舶ノ定義ヲ下セハ商船其他ノ海船ニ限ル例ヘハ商業上運送ノ用ニ供スル商船其他漁業測量等ノ用ニ供スル海船等是ナリ但商船其他ノ海船ニ屬スト雖モ端舟其他枋權等ヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ枋權ノミヲ以テ運轉スル船ニハ此規定ヲ適用セス例ヘハ帆ヲ用キサルニ非ラスト雖モ權棹ヲ用ユルモノ、如キ小舟ニハ適用スルノ限ニ在ラス之ヲ要スルニ本節ノ規定ハ苟モ各人ノ資産ヲ組織シ且重要ナル手續ヲ要スル所ノ船舶ニシテ商法海商編即チ第五編第一章ニ規定スル船舶ニ限リ之ヲ適用スルモノト

ナスニ在リ

以上ノ定義ニ依ル船舶ハ準不動産ト看做シ之ニ對スル強制執行ハ事物ノ性質上差異ノ現ハレサル限リハ不動産ニ對スル強制執行中強制競賣ニ關スル規定ニ從ヒ以下ニ説明スル所ノ別段ノ補則ニ依リ執行ヲ爲ス可キモノトス(第七百十七條)

管轄執行裁判所

(第一) 管轄執行裁判所

不動産ニ對スル強制執行ニ付テハ其不動産所在地即チ其地籍ノ有ル地ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トスレトモ船舶ハ水上ニ在リテ航行ス可キ性質ノモノナルカ故ニ不動産ノ如ク定繫港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行所ト定メ若クハ豫メ一定ノ管轄裁判所ヲ定ムルトキハ差押ノ手續上頗ル困難ヲ感ス可キカ故ニ此船舶ニ付テハ其船籍ノアルト否トニ拘ハラス差押ノ當時船舶カ碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ其管轄執行裁判所トス然レトモ船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ定繫港ノ區裁判所ヲ以テ管轄執行裁判所トセリ(第七百二十六條)

既ニ船舶ニ對スル強制執行ハ其碇泊スル港ノ區裁判所ヲ以テ專屬ノ管

強制競賣ノ申立方法

管轄裁判所トナスカ故ニ若シ強制競賣開始決定ノ後其船舶カ差押ノ當時其裁判所ノ管轄内ノ港ニ碇泊セサリシコトノ現ハル、トキハ其競賣手續ヲ取消サ、ル可カラス(第七百二十八條、第七百二十九條、第七百三十條)

(第二) 強制競賣ノ申立方法

船舶ノ強制競賣ノ申立ニ付テハ不動産ノ強制競賣ノ申立ニ付テノ第六百四十二條ノ規定ヲ適用シ其要件ヲ掲ク可キハ勿論ナレトモ同條項中不動産ノ表示ニ代ヘ船舶ノ表示ヲ掲ケサル可カラス是レ即チ性質上差異ノ現ハル、一ナリ而シテ其申立ニハ第六百四十三條ノ規定ニ換ヘ左ノ證書ヲ添附ス可キモノトス

(一) 債務者カ船舶所有者ナル場合ニ於テハ其所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又ハ債務者カ船長ナル場合ニ於テハ船長トシテ船舶ヲ指揮スルコトヲ説明スルニ足ル可キ證書 抑モ船舶ニ對スル強制執行ハ債務者カ船舶ノ所有者タル場合ノミニ限ラス債務者カ船長ナル場合ニ於テモ亦之ヲ爲スコトヲ得蓋シ商法ノ規定ニ依レハ船長ナルモノハ航海中必要ナル場合ニ在リテハ相當ノ手續ヲ經テ船舶ヲ抵當トナ

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 船舶ニ對スル強制執行 二九五

シ又ハ積荷ノ全部若クハ一部ヲ質入シテ金錢ヲ借受ケ又ハ積荷ヲ賣却スルコト在ルヘシ斯ル場合ニ於テ其債務者タル船長カ物ノ代價ノ賠償ヲ爲サス又ハ抵當若クハ質入ノ債務ヲ償却セサルトキハ債權者ハ船長ニ對シテ訴追シ判決ヲ受ケタル上船舶其物ニ對シ有效ニ強制執行ヲ爲スノ權利アリ(第七百二十二條商法第五百六十條參看)而シテ債務者カ所有者トシテ船舶ヲ占有スルコト又ハ船長トシテ之ヲ指揮スルコトヲ疏明スルニ足ル可キ證書ヲ得ルニハ債權者ハ船籍港ノ船舶ヲ主管スル官廳又ハ船舶登記簿ヲ主管スル官廳ニ就キ之カ證明書ヲ受クルコトヲ得ヘシ然レトモ此等ノ證明書ハ必スシモ官廳ノ證明書タルヲ要セス一私人ノ證明書ニテモ疏明スルニ足ル可キ證書ナレハ可ナリ

(二) 船舶カ船舶登記簿ニ登記アル場合ニ於テハ其船舶ニ關スル有效ナル各登記事項ヲ包含シタル登記簿ノ抄本 船舶ハ如何ナル船ニテモ常ニ船舶登記簿ニ登記シアル時期シ難シ構造ヲ終リタルマテニテ未タ登記ヲ受クルニ至ラサル船舶又ハ外國ヨリ買入レ未タ登記ヲ受ケ

サル船舶又ハ外國ノ船舶ニシテ登記セサル船舶ノ類アリ故ニ斯ク登記簿ニ登記アル場合云々ノ規定ヲ設ケシ所以ナリ而シテ差押債權者ハ其登記アル船舶ニ對スル場合ニ於テ其登記簿ノ抄本ヲ求メントスルニ當リ其主管スル官廳カ遠隔ノ地ニアルカ如キ場合ニ於テハ第六百四十三條ノ規定ノ場合ニ於ケルト等シク執行裁判所ニ之ヲ申請スルコトヲ得(第七百二十條)要スルニ是レ不動産ニ對スル強制競賣ノ規定ニ於ケル第六百四十三條ノ補則ナリ

(第三) 船舶差押ノ方法

執行裁判所ハ船舶ニ對スル競賣ニ付テモ不動産ニ對スル競賣手續上ノ規定即チ第六百四十四條ノ規定ニ從ヒ競賣手續開始ノ決定ヲ爲スハ勿論ナレトモ此決定ヲ爲スト同時ニ債權者ノ申立アレハ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ爲サシム可キモノトス而シテ茲ニ所謂監守ノ爲メ必要ナル處分中ニハ船舶ヲ監察シ番人ヲ置クカ如キ處分ヲ包含ス又保存ノ爲メ必要ナル處分中ニハ破損等ヲ生セサルコトニ注意シ且

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ債權ニ付テノ強制執行 船舶ニ對スル強制執行 二九七

損傷ヲ生シタルトキハ其修繕ヲ加フルカ如キ處分ヲモ包含ス而シテ此等ノ處分ニ關シテ費用ヲ生スルトキハ其費用ハ結局船舶ノ負擔ニ歸シ其費用ハ船舶ノ賣却代金ヨリ之ヲ除去スルコトヲ得ヘシト雖モ(第五百四一條第)此處分ヲ爲スニ當リテ之ヲ續行スルニ必要トスル金額ヲ差押債權者カ豫約セサルトキハ執行裁判所ハ既ニ命シタル處分ヲ取消スコトアルヘシ

差押ハ不動産ニ對スル場合ト等シク競賣開始ノ決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リテ其效力ヲ生スルヲ通例トスレトモ若シ前陳ノ處分ヲ爲シタルトキハ其開始決定ノ送達施行濟ニ至ラサル前ト雖モ差押ノ效力ヲ生スルモノトス而シテ差押船舶ハ其執行手續中差押ヲ爲シタル港ニ碇泊セシム可キヲ本則トス元來船舶ハ航行スルヲ常トスル性質ノ物ナレトモ之ヲ其自由ニ任スルトキハ競買人等ヲシテ船舶ヲ熟覽セシムルノ機會ヲ與フルコトヲ得ス又船舶ニ破損等ヲ生スルモ修繕ヲ加フルコトヲ得サルカ故ニ差押ノ港ニ碇泊ス可キ旨ヲ規定シタルナリ然レトモ之カ航行ヲ許ストキハ商業上莫大ナル利益ヲ得ルコトナキニ非ラス故ニ總

テノ利害關係人(第七百二十四條)カ一致シ航行セシメノコトヲ申立ツルトキハ執行裁判所ハ其利益ノ爲メ適當ト認ムル場合ニ於テハ裁判所ノ見込ヲ以テ相當ノ保證ヲ立ツヘキ條件ヲ附シ若クハ無條件ニテ其航行ヲ許スコトヲ得(第七百十九條第七十九條)是レ亦不動産ニ對スル第六百四十四條第六百五十一條及ヒ第七百條ノ規定ノ補則ナリ

(第四) 利害關係人

不動産ニ對スル強制競賣ニ關スル利害關係人ノ規定ハ船舶ニ對スル強制競賣手續ニモ亦之ヲ適用ス可キハ勿論ナレトモ船舶ニ對スル執行ハ上來説明スルカ如ク船舶債權者タル者ハ單ニ船舶所有者タル債務者ニ對スル場合ノミナラス船長タル債務者ニ對スル場合アリ斯ル場合ニ在リテハ船舶所有者ノミナラス船長モ利害關係人タルコトハ論ヲ俟タサル所ナリ故ニ其差押ハ船舶所有者ニ對シテモ效力ヲ生シ其所有者モ亦利害關係人ナリトス斯ク規定スル理由ハ元來船長ハ船舶所有者ノ爲メ一種特別ナル代表者ノ地位ニ在リテ債務ヲ起シタルモノニシテ所有者ノ第三者ニ非ラサルヲ以テ所有者ト同シク利害關係人トナス所以ナリ

既ニ差押ノ效力ヲ生シタル後船舶所有者カ死亡若クハ承繼ニ因リ變更アリ又ハ船長ニ更迭アルモ既ニ開始シタル競賣ノ手續ハ其所有者又ハ新船長ニ對シテ之ヲ續行スルコトヲ妨ケス而シテ差押後船長ニ變更アルトキハ新船長ハ利害關係人トナルヲ以テ前ノ船長ハ其關係人タル責務ヲ免除セラレ可キモノトス(第七百二條)是レ亦不動産ニ對スル強制競賣ニ於ケル第六百四十八條ノ補則ナリ

競賣期日ノ公告

(第五) 競賣期日ノ公告

執行裁判所カ競賣期日ノ公告ヲ爲スニ付キ之ニ掲ク可キ事項ハ第六百五十八條ノ規定ニ從フ可キモノナレトモ同條第一號ニ不動産ノ表示トアルニ換ヘテ船舶ノ表示ヲ掲ケサル可カラス例ヘハ船舶ノ番號西洋形ナルヤ若クハ日本形ナルヤ船名噸數若クハ石數ヲ掲ケ及ヒ其碇泊ノ場所ヲ掲ケルノ類ナリ而シテ若シ定繫港ノ管轄内ニ於テ差押ヲ爲シタルトキハ第六百六十一條ノ規定ニ從ヒ公告ヲ爲スノ外尙ホ其定繫港ノ區裁判所ニモ之ヲ揭示スルコトヲ囑託セサル可カラス是レ不動産ト異ナリ船舶ノアル定繫港内ニ於テ差押ヲ爲スニ限ラサルヲ以テナリ(第七百四十四條)

船舶ノ股分ニ對スル強制執行

第七百五十八條第六百六十一條ノ補則ナリ
第六) 船舶ノ股分ニ對スル強制執行

船舶ノ股分トハ船舶所有者カ二人以上アル場合ニ於ケル其所有者各人ノ船舶ニ對スル理想上ノ持分ノ謂ナリ而シテ船舶ノ股分ニ付テハ航海上ノ利益ノ爲メ既ニ商法ニ於テ其股分所有者トナリ得ヘキ規定ヲ設ケ即チ船舶共有者ヲ認メタリ(舊商法第五百四十五條以下參看)故ニ本法ニ於テモ亦之ニ對スル強制執行ノ規定ヲ特ニ設クルノ必要ヲ生シタルモノナリ而シテ此船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ船舶ヲ一定ノ港ニ碇泊セシムルハ其當ヲ得サルニ因リ從テ船舶ニ對スル一般ノ強制競賣ノ手續ヲ適用セス又不動産ノ共有持分ト類似ノモノナレトモ其性質上幾分カ相異ナルヲ以テ不動産ノ共有持分ニ對スル執行手續ニモ依ルコトヲ得ス(第六百八條)是ヲ以テ船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ無體財產ニ對スル強制執行ノ規定(第六百二條)ヲ準用ス可キモノトナセリ從テ其管轄裁判所ノ如キモ船舶其モノヲ差押フル場合ト同一ニ船舶カ碇泊スル港ノ區裁

判所ヲ以テ管轄裁判所トナスヲ得サルニ因リ船籍所在地ヲ以テ二人以上ノ船舶所有者ノ裁判籍ト看做シ定繫港ノ區裁判所ニ於テ之ヲ管轄ス可キモノトセリ

前陳ノ如ク船舶ノ股分ニ對スル強制執行ハ無體財產ニ對スル強制執行ノ規定ニ從フ可キモノトセシカ故ニ其差押命令ノ申請ハ第五百九十六條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲ス可ク其他尙ホ船舶ノ股分ニ付キ所有權ヲ有スルコトヲ證ス可キ船舶登記簿ノ抄本又ハ一人ノ證明書ニテモ信用ス可キ證明書ヲ其申請ニ添附ス可キモノナリ又商法ノ規定ニ依レハ船舶ノ所有權カ二人以上ノ股分所有者ニ屬スルトキハ航海ニ關スル一切ノ業務ニ付キ代理トシテ船舶管理人ヲ置クコトヲ要スルモノトセシカ故ニ其結果差押命令ハ債務者ニ送達スルノミナラス其船舶管理人ニモ亦之ヲ送達セサル可カラス(商法第五百五條參看)而シテ差押ハ一般差押命令ヲ債務者ニ送達スルヲ以テ其效力ヲ生ス可キモノトスレトモ(第五百九十五條第二項)此場合ニ於テハ差押命令ヲ船舶管理人ニ送達スルニ因リ其效力ヲ生スルモノトス是レ蓋シ便宜上ヨリ出テタルモノナリ

船舶ノ股分賣却ニ付テモ裁判所ハ第六百二十五條ノ規定ニ從ヒ相當ノ處分ヲ以テ之ヲ公賣ニ付ス可キハ勿論ナルモ其公賣ニ關シテハ日本人ニ限リテ買主タルヲ得セシム可ク外國人ハ其買主ニ加ハルコトヲ得ス何トナレハ船舶ニ日本ノ國旗ヲ掲クル權利ヲ有スルニハ船舶カ日本人ニ屬スルコトヲ以テ一ノ條件トスレハナリ若シ外國人カ股分所有者ニ加ハルニ於テハ其船舶ハ國旗ヲ掲クル權利ヲ失ヒ之カ爲メニ他ノ股分所有者ノ既得權ヲ害スルニ至レハナリ(明治三十二年法律第四十六號船舶法第六條第七條參看)

船舶股分ノ賣得金ニ付キ配當ヲ要求スル者アル場合ニ於テハ第六百二十六條以下ノ規定ヲ準用ス可キモノトス是レ亦船舶股分ニ對スル執行ハ既ニ無體財產即チ動産ニ對スル強制執行ノ規定ニ從フ可キモノナレハ其結果斯クアラサル可カラス(第七百二十六條)要スルニ此規定ハ無體財產ニ對スル第六百二十五條ノ補則ニ外ナラス

第三章 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ

付テノ強制執行

民事訴訟法正解 強制執行 金錢ノ支拂ヲ目的トセサル債權ニ付テノ強制執行 三〇三

前章ニ於テ講述セシ所ハ總テ金錢ノ支拂ヲ目的トスル債權ノ執行手續ナリ即チ金錢ヲ辨濟ス可キ旨ヲ掲ケタル債務名義ノ執行ナリシモ本章ニ於テ攻究セントスル執行手續ハ人權ニ關スルト物權ニ係カルトヲ問ハス或物ヲ引渡シ若クハ明渡ス可キ義務若クハ或行爲ヲ爲サシメ若クハ行爲ヲ差止ムルモノ即チ作爲不作爲ノ義務或ハ權利關係ノ成立ヲ認諾シ或ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ義務ヲ掲ケタル債務名義ニ依ル強制執行ノ手續ニ係カル而シテ此手續中ニハ執達吏ノ職務ニ屬スル執行アリ又ハ執行裁判所ノ職務ニ屬スル執行若クハ第一審ノ受訴裁判所ノ管轄ニ屬スル執行又ハ執行機關ノ行爲ヲ要セサルモノアリ左ニ之ヲ區別シテ説明ス可シ

執達吏ノ職務ニ屬スル執行

(第一) 執達吏ノ職務ニ屬スル執行

物ノ引渡若クハ明渡ノ執行ハ其動産ニ關スルト不動産ニ係カルトヲ問ハス第三者ノ手中ニ存スル場合ニ非ラサルトキ即チ債務者ノ占有中ニ在ル限リハ執達吏之ヲ專行ス可キモノトス要スルニ執達吏ノ職務ニ屬スル執行ハ其目的ノ物件カ債務者ノ占有中ニ在ルコトヲ必要トス

(一) 動産不動産引渡ノ執行 判決其他ノ債務名義ノ趣旨ニ於テ債務者

ノ占有スル所ノ動産又ハ債務者ノ占有スル代替物ノ一定ノ數量ヲ債權者ニ引渡ス可キ義務ヲ負ハシメタル場合ノ執行ハ執達吏カ其執行力アル正本ニ照ラシテ其物件ヲ債務者ヨリ取上ケ之ヲ債權者ニ引渡ス可キモノトス茲ニ所謂特定ノ動産トハ例ヘハ動物ノ類又ハ其他ノ物品ニシテ當事者ノ意思ニ於テ特ニ指定シタル物又ハ金錢ニテモ古金ノ類若クハ封金ノ如キハ之ニ屬ス又代替物ノ一定ノ數量トハ當事者ノ意思若クハ法律ニ依リ同種類ノ物ヲ以テ換フルコトヲ得ヘキ物ノ定マリタル數量ノ意義ナリ(民法第八十五條以下參看)

債務名義ニ掲ケタル趣旨ニ於テ債務者カ有スル二個以上ノ特定物中債權者ノ擇一ニ因リ其一ノヲ引渡ス可キ義務ヲ宣言シタルモノナルトキハ執達吏ハ債權者ノ選擇ニ因リ之ヲ定ム即チ債權者ノ委任ノ趣旨ニ基キ其物ヲ取上ケ之ヲ引渡ス可キハ勿論ナリ然レトモ若シ之ニ反シテ其二個以上ノ物件中債務者カ自ら選擇シテ其一ノヲ引渡ス可キコトヲ宣言シタルモノナルトキハ債權者カ其義務ノ履行ヲ遷延シタルノミヲ以テ其擇一ノ權利カ債權者ニ移ル可キモノニ非ラス此場

合ニ於テハ執達吏ハ先ツ以テ相當ノ期間ヲ定メ第五百四十一條ノ規定ニ依リ債務者ニ對シ其數個ノ物件中ノ一個ヲ選擇ス可キ旨ヲ催告シ其期間ヲ經過スルモ尙ホ之ニ應セサルトキハ始メテ債務者カ其擇一ノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做シ債權者ノ選擇ニ委シ其委任ニ因リテ執行ヲ爲ス可キモノナリ（民法第四百一十條參看）至

執達吏カ物ヲ取上ケルニ際シ特定物ノ疑ハシキ場合又ハ代替物ニシテ其數量ノ疑ハシキ場合等ニ在リテハ債權者又ハ執達吏ハ鑑定人ヲ立會ハシメ之ヲ定ムルコトヲ得又此等ノ場合ニ於テハ各當事者ハ第五百四十四條ノ規定ニ從ヒ執行裁判所ノ裁判ヲ受クルコトヲ得ヘシ以上ノ手續ニ從ヒ執達吏カ適法ニ物ヲ取上ケ之ヲ債權者ニ引渡シタルトキハ債務者カ自ラ義務ヲ履行シタルト同一ノ效ヲ生ス（第三百七條）

(二) 不動産又ハ人ノ住居スル船舶ノ引渡若クハ明渡ノ強制執行 債務名義ノ趣旨ニ於テ債務者カ占有スル所ノ不動産又ハ人ノ住居スル船舶ヲ引渡シ若クハ明渡ス可キ義務ヲ負ハシメタル場合ノ執行ハ執達吏カ債務者ノ占有ヲ解キ直チニ債權者ヲシテ其占有ヲ得セシム可キ

モノトス其不動産又ハ船舶ハ元來債務者ノ所有ニ係カルモノナルト唯其占有ノミニ係カルモノナルトヲ問ハス現時債務者カ占有スルノミヲ以テ足ル例ヘハ賣買若クハ讓與ノ場合ノミナラス賃貸借ニ付キ借家人又ハ借地人ヨリ家屋若クハ土地ノ明渡ヲ爲サシムル場合ノ如キモ茲ニ包含ス又人ノ住居スル船舶トハ彼ノ商船其他ノ海船ナルト又ハ内國ノ渡船ニ用キル船舶ナルトヲ問ハス如何ナル船舶ニテモ人ノ住居スル船ハ總テ此手續ニ依ル可キモノトス何トナレハ此場合ニ於テハ法律ニハ唯人ノ住居スル船舶トアルノミニシテ他ニ制限ナク即チ商船其他ノ海船ト謂フカ如キ法律ノ規定ナクハナリ

此場合ニ於ケル執行ノ實施ハ執達吏カ債務者ノ占有ヲ解キ直チニ債權者ニ其占有ヲ得セシムルヲ目的トナスカ故ニ執達吏カ其執行ヲ爲ス際債權者若クハ其代理人ヲ立會ハシメ此等ノ者ヲシテ直チニ其占有ヲ得セシメサル可カラズ若シ其執行期日ニ此等ノ者出頭シテ立會ハサルトキハ執行ヲ實施スルコトヲ得ス又執達吏ハ債務名義中ニ器具等ヲモ包含セシメタル場合ニハ之ヲ併セテ債權者ニ引渡ス可キハ

勿論ナレトモ若シ其債務名義ニ包含セサル動産即チ債務者ニ屬スル動産アルトキハ之ヲ取除キ債務者若クハ其代理人又ハ成長シタル家族雇人ニ引渡サ、ル可カラス此場合ニ此等ノ者ニ引渡スコト能ハサルトキハ債務者ノ費用ヲ以テ其動産ヲ保管ニ付シ後日右等ノ者ニ引渡スコキモノナリ若シ又債務者カ其動産ヲ受取ルコトヲ怠リ又ハ債務者ノ所在不分明ナルトキハ執達吏ハ執行裁判所ノ許可ヲ得テ差押物ノ競賣ニ關スル第五百七十二條以下ノ規定中性質ニ於テ準用シ得ル限リハ之ヲ準用シテ其動産ヲ賣却シ保管ノ費用及ヒ競賣ノ費用ヲ控除シ其殘金ハ之ヲ供託ス可キモノトス(第七百三十一條)

執行裁判所ノ職務ニ屬スル

(第二) 執行裁判所ノ職務ニ屬スル執行

債權者カ第三者ノ手中ニ在ル動産若クハ不動産又ハ船舶ノ引渡ヲ受ク可キ權利ヲ有スル場合ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ係ル場合ナルト其他總テ債務名義ニ依ル場合ナルトヲ問ハス第三者カ其物ノ引渡ヲ拒マサルトキハ別ニ執行手續ヲ要セサルモ若シ之ヲ拒ムトキハ債權者ハ執行ノ申請ヲ爲サ、ル可カラス而シテ此申請アルトキハ執行裁判所ハ其

性質上適用シ得ヘキ限リハ金錢ノ債權差押ニ關スル規定即チ第五百九十四條乃至第六百條及ヒ第六百六條乃至第六百十四條ノ規定ヲ相當ニ適用シ其目的物ヲ債權者ニ轉付ス可キ命令ヲ發ス可キモノトス然レトモ此場合ニ於テハ支拂ニ換ヘテ轉付ス可キ命令ヲ發スルノ限ニ在ラス何トナレハ右等ノ目的物ニハ券面額ナルモノナキノミナラス元來金錢ノ債權ニ對スル執行ニ非ラサル限リハ支拂ニ換ヘテ轉付シ得ヘキモノニ非ラサレハナリ而シテ茲ニ所謂第三者ノ手中ニ存スルトキトハ敢テ真正ナル占有ニ關スル場合ノミナラス唯一時握持スル場合ヲモ包含ス例ヘハ債權者カ所有物取戻ノ訴ヲ提起シテ債務者ヨリ其物ヲ引渡ス可キ判決ヲ受クタルモ其目的物ハ管理人カ一時保持スル如キ場合ニ於テ債權者カ其判決ノ執行ヲ爲サントスルトキハ此規定ニ依リ執行裁判所ニ申請シ之カ轉付ノ命令ヲ受クルコトヲ得ルノ類ナリ而シテ此命令アルモ第三者カ任意ニ其物ノ引渡ヲ履行セサルトキハ債務者ハ直チニ其命令ヲ以テ第三者ニ對シ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス其強制執行ヲ爲サシニハ第六百十條ノ規定ニ從ヒ轉付ノ命令ニ基キテ訴ヲ起シ其裁判ヲ

經テ確定スルニ非ラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(第七百三)
(第三) 受訴裁判所ノ職務ニ屬スル執行

債務者カ爲ス可キ行爲ノ義務ニ背キタル場合ニハ債權者ハ第一審ノ受
訴裁判所ニ申立テ其義務ヲ履行ス可キ決定ヲ受ケサル可カラス而シテ
茲ニ所謂爲ス可キ行爲ノ義務中ニハ作爲ノ義務及ヒ不作爲ノ義務ヲ包
含ス換言スレハ積極的ニ出ツル義務ト消極的ニ出ツル義務ヲ包含ス又
此行爲ニハ第三者カ代テ爲シ得ヘキモノト第三者カ之ヲ爲シ得ヘカラ
サルモノトアリ尙ホ換言スレハ代換的ノ行爲ト不代換的ノ行爲トノ別
アリ抑モ作爲不作爲ノ義務ニ付キ強制執行ヲ爲スノ當否ハ羅馬法以來
法理上一個ノ問題ニシテ未タ各國法制ニ於テ一致セサルモノ、如シ然
レトモ我民法ニ於テハ作爲不作爲ノ義務ニ付テモ執行ヲ爲サシムルコ
トヲ得ヘキ規定ヲ設ケラレ殊ニ第三者カ代テ爲シ得ヘキ行爲ニ付テハ
直接履行ノ訴權ヲ行使シ其執行ヲ爲スコトヲ得セシムル規定マテモ設
ケラレタリ是ヲ以テ本法ニ於テモ右民法ノ規定ニ則リ其執行方法ヲ設
ケサルヲ得サルニ至リシモノナリ然リ而シテ此執行ノ方法ニ付キ管轄

スル裁判所ヲ第一審ノ受訴裁判所ト定メタル理由ハ民法ノ法意ニ基キ
且其執行ニ關シテモ適當ナル裁判及ヒ損害賠償ノ額ヲ定ムルカ如キハ
素ト本案ニ付キ審理ヲ爲シ且其訴訟記録ノ存スル受訴裁判所ノ判斷ニ
任スルヲ相當及ヒ便宜ト認メタルカ故ナリ
右第一審ノ受訴裁判所ノ管轄ニ屬スル執行手續モ其義務ノ代換的ノ行
爲ニ出ツルト不代換的ノ行爲ニ出ツルトニ因リ聊カ區別セサル可カラ
ス

(二) 代換的行爲ノ執行手續 債務ノ性質カ強制執行ヲ許サ、ル場合ニ
於テ其債務カ作爲ヲ目的トスルトキ即チ債務名義ノ趣旨ニ於テ債務
者カ爲ス可キ行爲ニシテ第三者カ代テ之ヲ爲シ得ヘキモノナルトキ
ハ管轄裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ之ヲ適當ト認ムルトキハ民法ノ
規定ニ從ヒ(民法第四百十四條參看)作爲ノ義務ニ付テハ債務者ノ費用ヲ以
テ第三者ニ之ヲ爲サシム可キ決定ヲ爲ス可キモノナリ又不作爲ノ義
務ニ付テハ債務者ノ費用ヲ以テ其爲シタルモノヲ除却セシメ及ヒ將
來ノ爲メ適當ナル處分ヲ命スル決定ヲ爲ス可キモノナリ殊ニ債務者

ノ申立アレハ豫メ其費用ヲ債務者ヨリ支拂フ可キコトヲ同時ニ宣言スルコトヲ得ヘシ代換的行爲中作爲ノ義務ヲ例示スレハ農事若クハ工事ヲ爲ス可キ義務又ハ植物、建造物ヲ取拂フ可キ義務ノ類其他無能力者ヲ引取ル可キ義務ノ如キモ之ニ包含ス然レトモ金錢ヲ供託スル義務ノ如キハ此限ニ在ラス何トナレハ這ハ金錢支拂ノ義務ニ屬スレハナリ又不作爲ノ義務ノ一例ヲ舉クレハ農事若クハ工事ヲ中止ス可キ義務又ハ牆壁、烟突ヲ建設ス可カラサルノ義務及ヒ井水ヲ汲取ルコトヲ差止ムル義務ノ類是ナリ

右等ノ場合ニ於テ決定ヲ受ケタル債權者ハ其決定ヲ以テ自ラ第三者ニ委任シテ其行爲ヲ爲サシメ又或物ヲ除却セシメ及ヒ將來ノ爲メ適當ナル處分例ヘハ牆壁ヲ毀壞セシメタル上通行ノ障害トナラサル處分ヲ爲スカ如キ處置ヲ爲スコトヲ得此場合ニ債務者抵抗スルトキハ債權者ハ執達吏ヲ立會ハシムルコトヲ得ヘシ(第七百三十三條民法)

(二) 不代換的行爲ノ執行手續 債務ノ性質カ強制執行ヲ許ス場合ニ於テハ即チ債務名義ノ趣旨ニ於テ債務者カ爲ス可キ行爲ニシテ債務者

ノ意思ノミニ因リ爲シ得ヘキ行爲ニ係リ第三者カ之ヲ爲シ得ヘカラスアルモノナルトキハ管轄裁判所ハ債權者ノ申立ニ因リ之ヲ適當ト認ムルトキハ債務者ニ直接履行ヲ命シ且之ヲ命スルト同時ニ其極度ノ期間ヲ定メ其遅延スル日毎又ハ月毎ニ若干ノ償金ヲ支拂フ可キ決定ヲ爲スコトヲ得蓋シ此償金ハ裁判所ノ意見ヲ以テ相當ノ額ヲ定ム可キモノナリ而シテ此場合ニ於テハ債務者ハ直接履行ヲ爲サスシテ損害賠償ノ即時ノ計算ヲ請求スルコトヲ得ヘシ茲ニ所謂債務者カ其意思ノミニ因リ爲シ得ヘキ行爲ニシテ第三者之ヲ爲シ得ヘカラスアルモノトハ例ヘハ債務カ或計算ヲ爲ス可キ義務若クハ委任ヲ與フ可キ義務又ハ特種ノ技藝ヲ傳授スヘキ義務若クハ特種ノ技藝ヲ施ス可キ場合ノ類ナリ斯ル義務ニ付テハ債權者ハ債務者ノ身體ヲ拘束シテ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得サルカ故ニ此方法ヲ設ケシモノナリ要スルニ此方法ハ先ツ其債務者ニ對シ直接履行ヲ命シ之ヲ試ムルニ止マリ結局債務者ノ自ラ其行爲ヲ履行ス可キヤ將タ賠償ヲ以テ義務ヲ盡ス可キヤハ其債務者ノ選擇ニ歸ス(第七百三十四條民法)

執行機關ノ行
爲ヲ要セサル
執行

以上ノ代換的行爲ノ執行及ヒ不代換的行爲ノ執行手續ハ共ニ口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス(第七百三十五條)而シテ此等ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第五百五十八條)

(第四) 執行機關ノ行爲ヲ要セサル執行

債務者カ法律關係ノ成立ヲ認諾ス可キ義務若クハ債務者カ意思ノ陳述ヲ爲ス可キ義務アルコトヲ判決セラレタルトキハ是レ債務者ノ意思ノミニ因リ爲シ得ヘキモノニシテ固ヨリ第三者カ之ヲ爲シ得ヘカラサル事項ニ係ルヲ以テ此場合ニ於テハ債務者ヲ強制スルコトヲ得サルハ勿論第三者ヲシテ之ヲ爲サシムルコト能ハス故ニ法律ハ其判決ノ確定ヲ以テ債務者カ其成立ヲ認諾シ又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト同一ノ效力ヲ生スルモノトセリ若シ債務者カ反對給付ノアリタル後ニ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲ス可キモノタルトキハ判決ノ確定ノミヲ以テ足レリトセス其確定後執行文ノ付與ヲ受ケタルニ非ラサレハ其效力ヲ生セサルモノトス斯ク規定スル理由ハ反對給付ノ場合ニハ其給付アリタルコトノ證明アリテ始メテ執行文ヲ付與ス可キ規定ナルカ故ニ此執行文ノ

付與アレハ給付アリタルコト確實ナルモノト認メ得ヘキモ其執行文ナケレハ給付ノ有無確カナラサルヲ以テナリ(第五百二十八條)此規定ニ依ル執行方法ハ雷ニ確定訴權ノ場合ノミナラス履行訴權ノ場合ニモ其必要ヲ生スルコトアルヘシ例ヘハ甲乙間ノ契約ヲ乙ノ承繼人タル丙ニ認諾セシムル場合又ハ或物ヲ讓與ス可キ意思ノ陳述若クハ登記ヲ爲ス可キ意思ノ陳述ヲ爲サシム可キ場合ノ如キ是ナリ而シテ此等ノ陳述中ニハ書面ヲ以テス可キ場合ヲモ包含ス即チ書入質ノ如キ是ナリ意思ノ陳述ノ外尙ホ外形上ノ行爲即チ債務者ノ署名捺印等ヲ要スルモノニ付テハ此規定ヲ適用スルコトヲ得ス例ヘハ手形ノ署名捺印振出引受裏書讓渡ノ類ニハ此規定ヲ適用スルヲ得サルナリ何トナレハ法律ニ依ル意思ノ陳述ノ推定ハ此等ノ事項ニ關スル效力ノ必要條件ヲ補充シ得ヘキモノニ非ラサレハナリ故ニ斯ル場合ニハ第七百三十四條ノ規定ニ依ラサル可カラス又此規定ハ單ニ判決ヲ受ケタル場合ノミニ適用ス可キモノニシテ他ノ債務名義ノ執行ニハ性質上之ヲ適用スルコトヲ得ス例ヘハ和解ニ於テ意思ノ陳述ヲ目的トスルモ此執行方法ニ依ルコト

ヲ得ス斯ル場合ニモ第七百三十四條ノ規定ニ依ルヲ相當トス而シテ此規定ニ依リ判決ノ確定ヲ證明スルニハ第四百九十九條ノ規定ニ依リ證明書ヲ求メ之ヲ以テ確定ヲ證明シ執行スルコトヲ得(第七百三十三條)

第四章 假差押及ヒ假處分

假差押及ヒ假處分

假差押及ヒ假處分ナルモノハ其ニ眞ノ強制執行ニ非ラス他日權利ノ確定シタル時之カ執行ヲ爲サンカ爲メノ未來ノ保全方法ナリ抑モ債權者カ其債權ニ付キ債務者ニ對シ強制的ニ其權利ヲ實行セント欲セハ必スヤ訴ヲ提起シ判決ヲ受ケ又ハ他ノ方法例ヘハ督促手續ニ依リ若クハ和解ノ方法ニ依リ權利ヲ確定シ執行シ得ヘキ債務名義ヲ得ルニ非ラサレハ之カ強制執行ヲ爲スコトヲ得ス然レトモ此等ノ手續ヲ盡サンニハ幾多ノ年月ヲ要スルコト往々之アリ其間ニ於テ債務者ノ財産若クハ係争物ニ變更ヲ來タシ遂ニ債務者ヲシテ義務ヲ履行セシムルニ困難ヲ生シ若クハ履行スルコト能ハサルニ至ル可キ虞ナキニ非ラス是ヲ以テ法律ハ其救濟ノ爲メ強制執行保全ノ方法トシテ此二種ノ手續ヲ設ケタリ今其特質ノ重要ナル點ヲ

假差押及ヒ假處分ノ特質

摘示スレハ左ノ如シ

- (一) 此手續ハ執行保全ヲ目的トス 故ニ訴提起ノ前又ハ訴訟進行中一時假ノ處分ヲ爲スモ其目的執行ノ保全ニ非ラスシテ當事者ノ身上ニ保護ヲ與フルモノ、如キハ此手續ニ屬セス故ニ人事訴訟手續法第十六條ノ規定ニ依ル假處分ノ如キハ其手續ニ假處分ノ規定ヲ準用スルモ其本質ハ茲ニ所謂假處分ニ非ラス又同法第六十條ノ規定ニ於ケル禁治産者ノ監護及ヒ財産ノ保存ニ付テノ處分ノ如キ亦同シ
- (二) 此手續ハ單ニ保全ヲ目的トス 故ニ縱令執行上利益ヲ來タスコトアルモ債務者ノ財産若クハ係争物ヲ改良シ又ハ利益ナル管理ヲ爲サシメントスルカ如キハ此手續ニ依ル可キモノニ非ラス
- (三) 此手續ハ未來ノ執行保全ヲ目的トス 故ニ既ニ執行シ得ヘキ債務名義ヲ有シ直チニ執行ヲ爲シ得ヘキ場合又ハ執行ニ着手シ居ル場合ニハ此手續ニ依ルヲ得ス
- (四) 假差押假處分ハ本訴訟ノ前提トシテ其完結ヲ待ツ能ハサルトキニ適用ス可キモノナリ 故ニ本訴訟ト相牽聯シテ其申立ヲ爲サル可カラ

ス然レトモ必スシモ既ニ本訴訟ノ提起アリタルコトヲ要セス訴ヲ提起セントスルトキハ訴ノ前ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ訴提起ノ前ニ此裁判ヲ受ケタルトキハ相手方ノ申立ニ因リ訴ノ提起ヲ強要セラル、コトアルヘシ(第四百四十六條)是レ其申立ハ本訴訟ト相牽聯ス可キモノナルカ故ナリ

(五) 此執行保全ノ方法中假差押ハ金錢ノ債權又ハ之ニ換フルコトヲ得ヘキ債權ノ執行保全ノ方法ニシテ又假處分ハ主トシテ金錢以外ノ權利實行保全ノ方法ナリ

以上假差押及ヒ假處分ノ特質ヲ摘示セリ此執行保全ノ方法ハ二者共ニ訴訟手續ト執行手續トニ分ツコトヲ得即チ裁判所カ假差押假處分ノ命令ヲ發スルマテノ手續ハ訴訟行爲ニシテ一種ノ特別訴訟手續ニ屬シ此等ノ命令ノ執行ハ執行行爲ニシテ特別ノ執行手續ニ屬ス其訴訟手續ト執行手續トハ裁判所ノ管轄ヲ異ニシ前者ハ假差押裁判所若クハ假處分裁判所ノ管轄ニ屬スルモ後者ハ執行裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノナリ而シテ前者ハ一般ノ訴訟手續ニ關スル規定ニ從フ可ク後者ハ強制執行ニ關スル規定ヲ

準用ス可キモノナリ故ニ兩者ノ間ニ於テハ全ク其分界アルモノナレハ之ヲ混同セサルコトヲ要ス

斯ノ如ク假差押假處分ノ手續中ニハ純然タル訴訟手續ニ屬スル部分アルニ之ヲ強制執行編ニ加ヘタルハ稍穩當ヲ缺クノ嫌アルカ如キモ其命令執行ノ點ニ於テハ強制執行ノ規定ヲ準用ス可ク且其目的タルヤ強制執行保全ノ爲メナルカ故ニ編纂ノ便宜上斯ク編入シタルモノナリ而シテ假差押ト假處分トハ其目的ヲ異ニスルカ故ニ之カ手續ニ關スル規定モ亦同一ナラス故ニ之ヲ二節ニ分テ講述ス可シ

第一節 假差押

假差押ノ本質ハ金錢ノ債權又ハ金錢ノ債權ニ換フルコトヲ得ヘキ債權代替物ノ如キノ強制執行保全ノ爲メ其執行ノ目的物タルコトヲ得ヘキ債權者ノ所有ニ屬スル動産又ハ不動産等ニ對シテ差押ヲ爲シ債務者ノ處分權ヲ制限シ以テ執行ヲ保全スルニ在リ此假差押ノ申請ヲ爲スノ權ハ金錢ノ債權ニ付キ訴ヲ提起スル場合ニ於テ特別ノ理由アルトキハ其訴ニ牽聯ス

ル申請トシテ假差押ヲ求ムルコトヲ得而シテ此假差押ニハ前ニ説明セシ如ク假差押裁判所ノ訴訟行為ニ屬スル訴訟手續ト執行機關ノ執行行為ニ屬スル執行手續トノ區別アルカ故ニ本節ヲ二款ニ區別シテ詳説ス可シ

第一款 假差押裁判所ニ屬スル假差押ノ訴訟手續

此訴訟手續ハ一種ノ特別訴訟手續ナルヲ以テ特別ノ規定ナキ限リハ性質上適用シ得ヘキ範圍内ニ於テ一般ノ通常訴訟手續ノ規定ヲ準用ス可キモノナリ而シテ其特別ナル規定ヲ舉クレハ左ノ如シ

假差押ノ目的

(第一) 假差押ノ目的

假差押ハ金錢ノ債權ノ爲メニ之ヲ爲スヲ本則トス然レトモ金錢以外ノ請求ニ付テモ其債權ニ換ヘテ損害賠償トシテ金錢ヲ請求シ得ヘキ債權ナルトキモ亦假差押ヲ許ス可キモノトス(第七百三十一條)金錢ノ債權ノ執行ハ債務者ノ財産ノ全部ニ對シ執行ヲ爲シ得ヘキモノナレハ其財産ノ動産ナルト不動産ナルトヲ問ハス之ニ對シ假差押ヲ求ムルコトヲ得ヘシ而シテ其有體動産ニ對スルトキハ之ヲ一括シテ差押ヲ求ムヘク不動産ニ對スルトキハ特定ノ目的ヲ指示シテ之ヲ求ム可キ

假差押ノ理由

モノナリ

(第二) 假差押ノ理由

假差押ハ左ノ理由中ノ一ノ存スルトキニ限り之ヲ求ムルコトヲ得ヘシ(第七百三十二條)

(一) 判決ノ執行ヲ爲ス能ハサルニ至ルノ恐アルトキ 例ヘハ債權者カ其財産ヲ浪費シ又ハ所有權ヲ他ニ移轉セシメ判決ノ確定スルニ至ルマテニハ最早執行ノ目的タル財産ヲ失フニ至ルカ如キ場合ノ類是ナリ

(二) 判決ノ執行ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スルノ恐アルトキ 是レ現時假ニ差押ヲ爲シ置カサレハ債務者カ遠國ニ移住セント欲シ其地ニ付テ執行ヲ爲サンニハ困難ヲ生スルニ至ル可キ場合又ハ財産ヲ隱匿セントスルノ狀況アル場合ノ類ニシテ財産ヲ全ク失フニ非ラサルモ其執行ノ困難ヲ生ス可キ場合ハ之ニ屬ス

以上ノ理由中ノ一ノ存スルトキハ債權者ハ未タ其債權ノ期限ニ至ラサル前ト雖モ之ヲ求ムルコトヲ得ヘシ斯ノ如ク假差押ハ債務者ノ處分權

ヲ制限セサレハ執行ノ危険ヲ生ス可キニ付キ之カ保全ヲ爲スコトヲ許スニ在リ敢テ債權者ノ便宜ヲ圖ルノ方法ニ非ラス又差押債權者ヲシテ他ノ債權者ニ先タチ請求ノ満足ヲ得セシムルノ方法ニモ非ラス要スルニ債務者又ハ第三者ノ行爲ニ生ス可キ執行ノ危険ヲ豫メ防クノ方法ニ外ナラス是ヲ以テ夫ノ動産質等ニ依リ充分ナル擔保ヲ有スル債權ノ如キニ至リテハ債務者カ占有スル財産ニ如何ナル變更アルモ執行上危険ナキヲ以テ假差押ノ理由ヲ生セサルモノナリ

假差押ノ申請

(第三) 假差押ノ申請

債權者ハ假差押ノ理由ノ一アルトキハ訴提起ノ前後ヲ問ハス假差押ヲ求ムルコトヲ得其之ヲ求ムルニハ敢テ通常訴訟ノ如ク訴ヲ以テスルコトヲ要セス申請ノ形式ヲ以テ之ヲ爲シ從テ訴狀ノ要件ノ如キハ之ヲ遵守スルコトヲ要セス然レトモ其申請ニハ特ニ左ノ諸件ヲ掲クサル可カラス(第七百四十七條)

(一) 請求ノ表示 此表示ニハ債權ノ種類、原因及ヒ金額ヲ開示ス可キモノナリ若シ其請求カ一定ノ金額ニ非ラサルトキハ其價額例ヘハ代替

物ノ一定ノ數量ノ引渡ヲ目的トスル請求ナルトキハ之ヲ評價セシメ其價額ヲ掲ク可キモノナリ

(二) 假差押ノ理由タル事實ノ表示 是レ即チ第七百三十八條ノ規定ニ於ケル假差押ノ理由タル必要條件ノ一タル事實ヲ掲クルノ意義ナリ

(三) 假差押ヲ爲ス目的物ノ表示 此點ニ付テハ法律ニ明文ナキモ實際其目的ハ動産ナルカ將タ不動産ナルカ之ヲ表示セサレハ假差押ノ命令ヲ發スルコトヲ得ス而シテ有體動産ナレハ執行上之ヲ包括シテ取扱フ可キモノナルカ故ニ單ニ有體動産ト表示スルヲ以テ足レリトス可ク不動産ニ付テハ其特定ノ物件ヲ表示セサル可カラス殊ニ之ヲ掲ケサレハ其物ノ性質又ハ所在ニ因リ裁判所ノ管轄ニ影響アルモ之ヲ知ルニ由ナケレハナリ(第七百三十九條)

右一號ノ請求及ヒ二號ノ假差押ノ理由タル事實ノ表示ニ付テハ之ヲ疏明セサル可カラス(第二百二十二條)而シテ其申請書ハ尙ホ準備書面ニ關スル一般ノ規定(第五百五條乃至第五百七條)ニ從ヒテ之ヲ作成シ管轄裁判所ニ提出スルヲ通例トス若シ口頭ヲ以テ此申請ヲ爲ストキハ同裁判所ノ書記ヲシテ調書ヲ作

管轄差押裁判所

(第四) 管轄差押裁判所

ラシメテ(第一百五十三條)之ヲ爲ス可キモノタリ

假差押ノ申請ニ關スル裁判所ノ管轄ハ差押ヲ可キ目的物タル動産又ハ不動産ノ現存スル地ヲ管轄スル區裁判所又ハ本案ノ管轄裁判所ノ管轄ニ專屬シ此等ノ裁判所ヲ指シ差押裁判所ト云フ(第七百四條)而シテ申請人ハ此等ノ二個ノ裁判所中其一ヲ選擇シテ之カ申請ヲ爲スコトヲ得茲ニ所謂本案ノ管轄裁判所ト稱スルハ假差押ヲ以テ執行ヲ保全セントスル請求即チ本請求ニ付キ法律上又ハ合意上事物及ヒ土地ノ管轄權ヲ有スル裁判所タルコトヲ意味シ敢テ現ニ訴訟ノ繫屬スル裁判所ヲ謂フニ非ラス故ニ訴ノ提起ノ前後ヲ問ハス右ノ管轄權アル第一審裁判所ニ申請ヲ爲スコトヲ得唯其本案カ控訴審ニ繫屬スルトキニ限り控訴裁判所ヲ以テ本案ノ裁判所トナスニ在リ其他ノ場合ハ縱令上告審ニ訴訟ノ繫屬スルトキト雖モ第一審裁判所ヲ以テ管轄假差押裁判所トナスニ在リ(第七百三十九條第七百六十二條)

假差押ノ申請ニ付テノ辯論

(第五) 假差押ノ申請ニ付テノ辯論

假差押ノ申請アレハ假差押裁判所ハ先ツ職權ヲ以テ裁判管轄ノ適否ニ付キ調査ヲ爲シ若シ管轄違ナルトキハ其申請ヲ却下セサル可カラス是レ假差押裁判所ノ管轄ハ專屬ナンハナリ(第一百五十六條)其管轄カ適法ニシテ且其形式ニ何等ノ欠缺ナキトキハ裁判所ハ假差押ノ許否ヲ決セサル可カラス其許否ヲ決スルニハ敢テ本訴訟ノ請求ノ當否ヲ判斷ス可キモノニ非ラス唯本請求及ヒ假差押ノ理由タル事實ノ疏明アリテ假差押ヲ許ス可キ場合ニ該當スルヤ否ヤヲ判定ス可キノミ而シテ其疏明ナキトキト雖モ裁判所ハ事情ニ因リ債權者ヲシテ債務者ノ爲メニ生ス可キ損害ノ擔保ノ爲メ自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立テシメ假差押ヲ命スルコトヲ得是レ假差押ノ手續ハ權利救濟ノ爲メ必要ナル方法ナレトモ其理由トス可キ事實ニ至リテハ屢疏明ノ途ナキコトアルカ爲メナリ若シ之カ爲メ其申請ヲ全ク採用セサルモノトスルトキハ救濟ノ方法モ之ヲ用キルコト能ハサルニ至ルヲ以テ斯ク裁判所ノ意見ニ任シタルナリ而シテ此保證ハ疏明充分ナルトキト雖モ裁判所ハ其意見ヲ以テ尙ホ之ヲ立テシムルコトヲ得(第七百四條)假差押ノ許否ヲ決スル辯論ハ口頭辯論

民事訴訟法正解 強制執行 假差押及ヒ假處分 假差押

ニ依ルモ又ハ之ニ依ラス書面ノミニテ審理スルモ裁判所ノ意見ニ任スルモノトス(第七百四十二條)

(二) 口頭辯論ヲ經スシテ爲ス手續 假差押裁判所カ假差押ノ申請ニ付キ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スヲ相當トスルトキハ敢テ其申請ヲ債務者ニ送達シ若クハ債務者ヲ喚問スルヲ要セス其申請ヲ却下スル場合ナルト假差押ヲ許シ其命令ヲ發スル場合ナルトヲ問ハス單ニ申請書ノミニ依リ之カ裁判ヲ爲スコトヲ得而シテ其口頭辯論ヲ經サルトキハ決定ヲ以テ裁判ヲ爲スコキモノトス

假差押ノ申請以外ノ假差押ニ關スル申立申債權者ニ對シ訴ヲ促カス申立ニ付テハ口頭辯論ヲ經ス決定ヲ以テ裁判ヲ爲スコキモノトス
(二) 口頭辯論ヲ經テ爲ス手續 假差押裁判所カ假差押ノ申請ニ付キ口頭辯論ヲ經テ裁判ヲ爲スヲ相當トスルトキハ一般口頭辯論ノ原則ニ從ヒテ其期日ヲ定メ且之カ準備トシテ申請書ヲ債務者ニ送達シ其口頭辯論ニ於ケルモ一般ノ原則ニ因リテ辯論ヲ進行スコキモノナリ然レトモ假差押ノ辯論ハ請求及ヒ假差押ノ理由タル事實ノ疏明アルヤ

假差押ノ申請ニ付テノ裁判

否ヤヲ審理スルニ過キサレハ其辯論ノ範圍ハ其以外ニ亘ルコトヲ得ス而シテ其口頭辯論ヲ經タル結果ハ申請ヲ却下スルト許容スルトヲ問ハス總テ終局判決ヲ以テ之カ裁判ヲ言渡スコキモノトス而シテ此裁判ハ判決裁判所ノ資格ニ於テ之ヲ爲スモノナレハ一般ノ判決ニ關スル規定ニ從ヒ當事者ノ一方出頭セサルトキハ關席判決ヲ爲スコトヲ得其他判決ニ對スル上訴及ヒ故障等モ總テ一般ノ規定ニ從フ可キモノトス
此假差押ノ申請ニ付テノ裁判ノ外假差押ニ關スル申立ニシテ口頭辯論ヲ經ヘキモノハ假差押命令ニ對スル異議理由消滅ニ因ル假差押命令取消ノ申立訴ノ提起ナキカ爲メ同命令ノ取消ノ申立等はナリ
(三) 事情極メテ急迫ナル場合ニシテ假差押ノ申請ヲ許容スコキモノナルトキハ口頭辯論ヲ經ス裁判長ノ命令ヲ以テ之カ裁判ヲ爲スコトヲ得

(第六) 假差押ノ申請ニ付テノ裁判

假差押ノ申請ニ付テノ裁判ハ口頭辯論ヲ經ルト否トニ依リ決定ヲ以テ

民事訴訟法正解 強制執行 假差押及ヒ假處分 假差押

スルト判決ヲ以テスルトノ差異アルコトハ前ニ述ヘタル所ナリ而シテ其裁判ニシテ申請ヲ却下スルトキハ之ヲ債務者ニ送達スルヲ要セス其申請ヲ許容ス可キトキハ裁判所ハ其決定前ニ債權者ニ保證ヲ立テシムルコトアルモ其保證ノ決定モ亦之ヲ債務者ニ送達スルコトヲ要セス(第七百四十二項)蓋シ其申請ニ付キ口頭辯論ヲ經テ判決ヲ以テ却下ノ裁判ヲ爲ストキハ之カ言渡ヲ爲ス可キモノナレハ其裁判ハ職權ヲ以テ送達ス可キモノニ非ラサレハ特ニ茲ニ明言スルヲ要セス然レトモ口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ以テ右ノ裁判ヲ爲ストキハ一般ノ規定ニ從ヘハ當事者ニ送達スルヲ本則トスレトモ(第二百五條)此申請却下ノ決定又ハ保證ノ決定ノ如キハ債務者ニ之ヲ知ラシムルノ必要ナキヲ以テ法律ハ茲ニ其例外法ヲ設ケタルモノナリ

判決ヲ以テシタルト決定ヲ以テシタルト又裁判長ノ命令ヲ以テシタルトヲ問ハス假差押命令スル裁判ヲ名クテ一名之ヲ假差押命令ト云フ

(一) 假差押命令ニ記載スヘキ事項 假差押命令ニシテ判決ヲ以テスルトキハ第二百三十六條ニ規定セル判決ノ要件ヲ具備セサル可カラサ

ルコトハ勿論ナレトモ決定ヲ以テスルトキハ別ニ法律上形式ノ要件ナシト雖モ假差押命令ハ判決ニ依ルト其他ノ裁判ニ依ルトヲ問ハス特ニ左ノ事項ヲ明示セサル可カラス

(甲) 債權者ヲシテ保證ヲ立テシメ假差押ノ命令ヲ發スルトキハ其保證ヲ立テタルコト及ヒ其方法

(乙) 執行ヲ免カル、爲メ債務者カ供託ス可キ金額 元來假差押ノ目的ハ債權者ノ爲メ執行ヲ保全シ危險ナカラシムルコトヲ期スルニ外ナラサレハ債務者ニ於テ之カ擔保タル可キ金額ヲ供託シテ其危險ナカラシムルコトヲ保證スルトキハ強テ差押ヲ爲スノ必要ナシ故ニ假差押ニ付テハ其執行ヲ免カル、爲メニ債務者ノ供託スヘキ保證金額ヲ定メテ假差押命令ヲ發スルニ當リ之ヲ其命令中ニ記載ス可キモノトセリ(第七百四十三條)

以上二事項ノ外法律ニ明示ナキモ假差押命令ニハ左ノ諸件ヲ掲クルヲ相當トス

(イ) 請求ノ金額 若シ其請求カ一定ノ金額ニ非ラサルトキハ其價額

假差押命令ニ
基ク執行力ト
他ノ債務名義
ニ基ク執行力
トノ差異

(ロ) 請求ノ金額若クハ價額ノ保全ノ爲メ假差押ヲ命スルコト

(ハ) 假差押ヲ命スヘキ動産又ハ不動産ノ表示

(二) 假差押命令ノ效力 假差押命令ハ一個ノ債務名義タルコトハ前ニ
論述シタル所ナルモ其債務名義タルニハ判決ヲ以テシタルト決定ヲ
以テシタルトヲ問ハス其確定ヲ待タス又假執行ノ宣言ヲ要セス其命
令自體ニ於テ執行力ヲ有ス其假執行ノ命令タル判決ニ對シ上訴及ヒ
故障ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトアルモ固ヨリ假執行ノ宣言アルモノ
ニ非ラサレハ第五百十二條ノ規定ニ依リ執行ヲ停止シ得ヘキモノニ
非ラス而シテ此命令ニ基ク執行力ハ他ノ債務名義ニ基クモノト相異
ナル所アルヲ以テ左ニ之ヲ摘述セシ

(甲) 假差押命令ハ其命令自身カ執行力ヲ有シ承繼アル場合ノ外ハ執
行文ヲ付スルヲ要セス直チニ執行スルコトヲ得ヘキ效力ヲ有ス又
其命令ハ之ヲ債務者ニ送達スル前ト雖モ執行スルコトヲ得(第七百
四十九條)

(乙) 假差押命令ハ其言渡又ハ申立人ニ命令ヲ送達シタルヨリ十四日

間ニ申立人カ執行ニ着手セサルトキハ其效力ヲ失フ(第七百四十
九條第二項)

(丙) 假差押命令ニ依ル執行ハ本執行ト異ナリ目的物ヲ差押ヘ之ヲ保
存スルニ止マリ換價ヲ爲スノ力ナシ(第七百五
十四條)

(丁) 假差押命令ノ執行ハ其命令ニ記載シタル金額ヲ債務者ニ於テ供
託シ其證明書ヲ提出シタルトキハ終局的ニ其執行ヲ停止セサル可
カラス(第五百五
十條第三號)故ニ假差押命令ノ執行ハ絶對無限ノモノニ非ラ
ス

(三) 假差押命令ニ對スル不服申立ノ方法 假差押命令ニシテ判決ヲ以
テシタルトキハ之ニ對シ一般ノ判決ニ對スル場合ト均シク故障若ク
ハ上訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘク又決定ヲ以テシタルトキ
ハ債務者ニ於テ不服ナレハ抗告ノ方法ニ依ラスシテ直チニ假差押裁
判所ニ向テ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得裁判長ノ命令ヲ以テシタルト
キモ亦之ニ準ス可キナリ

(甲) 假差押ノ決定ニ對スル債務者ノ異議 此異議ハ書面ヲ以テ之ヲ
爲シ就中假差押命令ノ取消ヲ求ムル理由ヲ開示シ以テ口頭辯論ノ

民事訴訟法正解 強制執行 假差押及ヒ假處分 假差押

準備ニ供ス可キモノトス而シテ此異議ノ申立ハ假差押決定ニ對シテ不服ヲ主張スルモノナレハ其決定ノ當ヲ得サルコトヲ根據トナサル可カラズ若シ決定後ニ理由消滅シタル場合ノ如キハ之ニ屬セス即チ第七百四十七條ニ從フ可キモノナリ而シテ此異議ノ申立アルモ假差押命令ノ執行ハ停止ス可キモノニ非ラス是レ假差押ノ性質上極メテ便且速ナルコトヲ要スルカ故ニ一時ノ異議ノ申立ニ因リ其執行ヲ妨ケサルモノトナスニ在リ(第七百四十四條)

(乙) 假差押決定ニ對スル異議ニ付テノ辯論及ヒ裁判 債務者ヨリ假差押命令ニ對スル異議ノ申立アリタルトキハ假差押裁判所ハ判決裁判所タル資格ヲ以テ口頭辯論ノ原則ニ從ヒ辯論期日ヲ定メ異議申立書ノ謄本ヲ相手方ニ送達シ口頭辯論ヲ經テ裁判ヲ爲ス可キモノトス其辯論ハ本請求ノ當否ニ關係セス單ニ假差押決定ノ當否ノミヲ審案シ先ニ發シタル假差押命令ノ全部若クハ一部ノ認可變更若クハ取消ヲ言渡シ又ハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立ツ可キ條件ヲ附シテ之カ言渡ヲ爲スコトヲ得而シテ此裁判

訴訟提起前ニ假差押命令ヲ發シタル場合ニ於ケル訴訟提起ノ催告ノ申立

(第七) 立

ハ口頭辯論ヲ經タル結果終局判決ヲ以テ之ヲ爲サル可カラズ(第七百四十五條)其假差押ヲ取消ス判決ヲ爲ストキハ職權ヲ以テ假差押ノ宣言ヲ爲サル可カラズ(第四百一號)

訴ノ提起前ニ假差押命令ヲ發シタル場合ニ於ケル訴訟提起催告ノ申立

假差押命令ヲ發スル際ナルト又ハ既ニ之ヲ發シタル後ナルトヲ問ハズ本請求ニ付キ未タ訴ヲ提起セサル前ニ假差押ノ申立アリタルモノナルトキハ債務者ハ其假差押命令ニ付キ債權者ニ訴ヲ促カス期間ヲ定メラレノコトヲ申立ツルヲ得此申立アレハ假差押裁判所ハ常ニ口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ以テ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ訴ヲ提起ス可キコトヲ債權者ニ命シ殊ニ其決定ハ職權ヲ以テ當事者ニ送達ス可キモノトス然ルトキハ債權者ハ其送達ヲ受ケタル時ヨリ起算シテ右ノ期間内ニ訴ヲ提起セサル可カラズ然レトモ元來假差押ナルモノハ未タ其期限ノ至ラサル債權ニ付テモ之ヲ求メ得ヘキモノナレハ斯ル場合ニハ如何ナル訴ヲ提起ス可キヤノ問題ヲ生スヘシ蓋シ其請求ニ付キ確認ノ訴ヲ起シ

民事訴訟法正解 強制執行 假差押及ヒ假處分 假差押

理由ノ消滅ニ
因ル假差押
令ノ取消

得ヘキハ勿論債務者カ擔保ヲ減少シ期限ノ利益ヲ失フ可キ場合ニ至レ
ハ(民法第百三十七條參看)直チニ訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ債權者カ右ノ期間内
ニ訴ヲ提起セサルトキハ債務者ハ同一ノ裁判所ニ向テ假差押命令ノ取
消ヲ申立ツルコトヲ得期間經過後債務者ヨリ此申立アレハ假差押裁判
所ハ判決裁判所ノ資格ヲ以テ一般ノ口頭辯論ノ原則ニ從ヒ辯論ヲ經テ
終局判決ヲ以テ假差押命令ノ取消ヲ宣言ス可キモノトス(第七百四十六條)此判
決ヲ爲ストキモ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ爲サ、ル可カラス(第五百一條第三號)

(第八) 理由ノ消滅ニ因ル假差押命令ノ取消

判決ヲ以テ命シタルト決定ヲ以テ命シタルトヲ問ハス假差押命令アリ
タル後其命令ヲ維持ス可キ理由ノ消滅シタルトキハ債務者ハ假差押命
令ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得(第七百四十七條)其申立ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ摘示
スレハ左ノ如シ

(一) 假差押ノ理由全然消滅シタルトキ 茲ニ所謂理由ノ消滅シタルト
キトハ債務者ノ財産上ノ危險ノ恐ナキニ至リシ場合ノミナラス本請
求ノ消滅シタルトキモ其必要ナキニ至ル可キモノナレハ之ニ包含ス

例ヘハ本案ノ訴訟ニ於テ債權者ノ請求ヲ排斥セラレ又ハ其請求ニ對
シ債務者カ其債務ノ履行ヲ爲シタル場合ノ如キ是ナリ

(二) 其他事情ノ變更シタルトキ 即チ假差押ヲ許ス理由タリシ事實ニ
變更ヲ來タシタル場合例ヘハ債務者カ外國ニ移轉セントスル事情ニ
因リ假差押ヲ申請シタルモ其後債務者ハ外國ニ移住スルコトヲ止メ
タル場合ノ如キ又ハ大ニ財産ヲ得執行上危險ノ恐ナキニ至リタル場
合ノ如キ是ナリ

(三) 裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ム可キ保證ヲ立テノコトノ提供ヲ
爲シタルトキ 保證ヲ立ツルハ假差押ノ理由消滅シタリト謂フ可キ
ニ非ラサレトモ假差押ハ金錢ノ債權ノ執行保全ノ方法ナレハ其執行
ニ危險ナカラシムル爲メ保證ヲ立ツルニ於テハ強テ假差押ヲ維持セ
シムルノ必要ナシ故ニ此場合ニモ假差押命令ノ取消ヲ求ムルコトヲ
得

以上三個中ノ一理由ノ存スルトキハ執行着手ノ前後ヲ問ハス假差押命
令ノ取消ヲ申立ツルコトヲ得此申立ハ本案カ未タ繫屬セサルトキハ假

差押命令ヲ發セル裁判所ニ之ヲ爲ス可ク又本案カ既ニ繫屬シタルトキハ其本案ノ繫屬スル裁判所ニ之ヲ申立ツ可キモノトス而シテ此申立アレハ其管轄裁判所ハ判決裁判所トシテ一般ノ口頭辯論ノ原則ニ基キ期日ヲ定メ其申立書ノ謄本ヲ債權者ニ送達シ當事者ヲ呼出シ口頭辯論ヲ經テ終局判決ヲ以テ之カ裁判ヲ爲ス可キモノタリ

此裁判ヲ爲スニ當テハ假差押命令ニ對スル異議ノ場合ノ如ク假差押命令ノ當否ヲ調査ス可キモノニ非ラス單ニ假差押命令ヲ發シタル後其命令ヲ存續ス可キ理由ノ消滅シタルヤ否ヤヲ審理スルニ止マルモノトス而シテ其判決ニ對シテハ上訴若クハ故障ノ申立ヲ爲シ得ヘキコトハ一般ノ判決ニ對スルト同一ナリ其判決ニシテ債務者ノ申立ヲ理由アリト認メ假差押命令ヲ取消シタルトキハ之カ假執行ノ宣言ヲ付セサル可カラス（第五百一號）

茲ニ注意ス可キハ以上論述シタル所ノ假差押命令ノ取消ト第七百五十四條ニ所謂執行裁判所ニ於ケル假差押ノ執行ノ取消ト混同ス可カラサルコト是ナリ要スルニ假差押命令ノ取消ハ判決ヲ以テ其命令ヲ取消ス

假差押命令ニ
基ク特別ノ執
行ヲ爲

以ニ在リ其執行ノ取消ハ決定ヲ以テ之ヲ取消ス可キモノナリ

第二款 執行機關ニ屬スル假差押命令ノ執行行為

前款ニ於テ講述セシ所ノ假差押命令ニ關スル特別訴訟手續ナレトモ本款ニ於テ攻究セントスル事項ハ其假差押命令ニ基ツク特別ノ執行行為ナリ其執行行為ハ一般ノ強制執行ト異ナリ特別ノ執行方法ニ從フ可キモノナルカ故ニ特別ノ規定アル所以ナリ然レトモ此執行モ亦一種ノ強制執行ナレハ特別ノ規定ナキ限りハ強制執行ノ規定ヲ適用ス可キハ勿論假差押ハ金錢債權ノ保全方法ナレハ其目的ニ反セサル限りハ金錢ノ債權ニ付テハ強制執行ニ關スル規定ヲ適用ス可キモノトス唯其執行ニ付キ特別ノ規定アル點ニ於テ特別ノ執行行為ヲ爲スナリ（第七百四十八條）其特別ノ執行行為ヲ要スル所以ノモノハ假差押ノ目的ハ執行保全ニ過キサレハ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行ノ規定ヲ準用シ目的タル財産ヲ差押フルモ直チニ之カ換價ヲ爲サス本請求カ確定シ其債務名義ヲ得ルニ至レハ本執行ニ移リ換價ヲモ實施スルコトヲ得要スルニ此手續ハ一般ノ強制執行ノ前提タル特種ノ執行ヲ爲スニ在リ

(第一) 假差押ノ執行ニ付テノ債務名義及ヒ其執行着手ノ要件
假差押命令ニ依ル執行ト雖モ固ヨリ一種ノ強制執行タル以上ハ之ヲ實
施スルニハ執行力アル正本ヲ要シ又執行着手ニ付テハ一般ノ法則ニ從
フ可キモノナレトモ其性質上此通則ノ變例ヲ定ムルモノアリ

(二) 假差押命令ニハ執行文ノ付與ヲ要セス 抑モ普通ノ強制執行ハ判
決ニ依ルト其他ノ債務名義ニ依ルトテ問ハス執行文ヲ付與シタル正
本ヲ得テ始メテ執行ヲ爲シ得ヘキ效力ヲ生スレトモ假差押命令ニ至
リテハ前ニ論述シタルカ如ク其命令自體ニ於テ直チニ執行シ得ヘキ
性質ヲ有シ別ニ執行文ノ付與ヲ要セス其正本ヲ有スレハ之ヲ以テ直
チニ執行ニ着手シ得可キヲ通例トス唯其命令ヲ發セラレタル後ニ當
事者ニ承繼アル場合ニ限リ執行文ノ付與ヲ要スルモノトスルニ在リ

(第七百四
十九條)

(二) 假差押命令ノ執行ハ執行着手前ニ其命令ヲ債務者ニ送達スルヲ要
セス 普通ノ強制執行ハ執行着手ノ前又ハ同時ニ債務名義ヲ債務者
ニ送達スルヲ必要トスレトモ(第五百二條)假差押命令ノ執行ニ至リテハ

其命令ヲ債務者ニ送達スル前ト雖モ執行ニ着手スルコトヲ得是レ假
差押ハ極メテ急速ヲ要スルノミナラス其裁判ヲ債務者ニ送達シ遅レ
テ執行ニ着手スルトキハ却テ其目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ル可
キヲ以テナリ

(三) 假差押命令ノ執行ハ其言渡又ハ送達ヲ受ケタル時ヨリ十四日ノ期
間内ニ執行ニ着手セサレハ其效ヲ失フ 普通ノ債務名義ニ至リテハ
其執行ノ時期ニ制限ナキヲ一般トス然レトモ假差押命令ニ至リテハ
急速ニ保全行爲ヲ盡ス可キヲ目的トナスモノナレハ必ス此十四日ノ
期間内ニ執行ニ着手ス可ク若シ之ヲ徒過スルトキハ其執行ヲ許サス

(第二) 管轄執行裁判所

假差押ノ執行ハ差異ノ生セサル限リハ強制執行ニ關スル規定ヲ準用ス
可キモノナルカ故ニ之ヲ執行スル機關モ金錢ノ債權ニ付テノ強制執行
ノ規定ニ從ヒ執達吏又ハ執行裁判所ニ屬シ其執行裁判所トシテハ不動
產又ハ船舶ニ付テハ其所在地又ハ船籍地其他ノ場合ニハ執行手續ヲ爲
ス可キ地又ハ之ヲ爲シタル地ノ區裁判所トシ(第五百四十三條、第六百
四十一條、第七百十八條)債

民事訴訟法正解 強制執行 假差押及ヒ假處分 假差押

權ノ假差押命令ノ執行ニ關スル執行裁判所ニ付テハ別段ノ規定ヲ以テ其假差押命令ヲ發シタル裁判所ヲ管轄執行裁判所トス(第七百五十條第一項)故ニ此場合ニハ區裁判所ノミナラス地方裁判所若クハ控訴院モ亦執行裁判所タルコトアリ
斯ノ如ク債權ノ假差押命令ノ執行ニ付キ特別ノ執行裁判所ヲ定ムル所以ハ元來此執行ハ無形ノ處分ヲ命スルニ過キサレハ始メ假差押ヲ命スルニ際シ調査シタル裁判所カ自ラ其執行ヲ爲スヲ以テ便宜且事實ニ適當ストナスカ故ナリ

(第三) 動産ニ對スル假差押命令ノ執行方法

有體動産ナルト債權ナルトヲ問ハス總テ動産ニ對スル假差押命令ノ執行ハ金錢債權ニ付テノ強制執行ノ規定(第六編第二章第一節第二)ニ從ヒ換價ノ點ニ付テハ假差押ノ性質上適用シ能ハサルモ差押ヲ爲ス點ニ付テハ此規定ニ從ヒテ實施ス可キモノトス(第七百五十條第一項)而シテ其一般ノ規定ト異ナル點ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 有體動産ニ對スル場合 有體動産ニ對スル強制執行ニ付キ執達吏

動産ニ對スル假差押命令ノ執行方法

有體動産ノ場合

カ金錢ヲ差押ヘタルトキハ直チニ之ヲ債權者ニ引渡ス可ク(第七百七十四條第七項)其他ノ有體動産若クハ有價證券ヲ押ヘタルトキハ特別ノ委任ヲ要セス直チニ競賣ヲ爲シ若クハ相場ヲ以テ之ヲ賣却スルヲ本則トナセトモ假差押命令ノ執行ハ其性質金錢ヲ債權者ニ支拂ハシムル目的ニ非ラス唯執行保全ノ方法ニ過キサレハ執達吏ハ金錢ヲ差押フルモ之ヲ債權者ニ引渡ス可キモノニ非ラス其假差押ニ係カル金錢ハ之ヲ供託ス可ク又他ノ差押物ハ一時保存シ置キ之カ競賣ヲ爲サス有價證券ニ係カルモ亦同シ然レトモ例外トシテ假差押物カ著シク價額ニ減少ヲ來タス恐アルトキ例ヘハ季節物タル桑葉蠶種若クハ飲食物等ノ如キ永日保存スレハ價額ニ減少ヲ生スルモノ又ハ貯藏保存ニ不相應ナル費用ヲ生ス可キトキ例ヘハ家畜ノ類ヲ差押ヘ之ヲ保管スルニハ其場所及ヒ飼料ニ多額ノ費用ヲ要スルカ如キ場合ニハ差押債權者又ハ債務者ハ執行裁判所ニ向テ其競賣ヲ爲シ其賣得金ヲ供託ス可キ申立ヲ爲スコトヲ得此申立アリタルトキハ執行裁判所ハ之ヲ競賣ニ付シ其賣得金ヲ供託ス可キ旨ヲ差押ヲ爲シタル執達吏ニ命スルコトヲ得

民事訴訟法正解 強制執行 假差押及ヒ假處分 假差押

(第七百五十條第四項)

斯ノ如ク假差押ノ執行ハ差押ヲ爲スニ止マリ競賣若クハ其他ノ換價ヲ爲サ、ルヲ通例トスレトモ本請求カ確定シ其債務名義ヲ得ルニ至レハ之カ本差押ノ手續ヲ盡シ即チ假差押ノ手續ヲ本差押手續ニ移シ其執行ヲ進行シ競賣又ハ其他ノ換價ノ手續ヲ爲スコトヲ得ヘシ此本差押ノ手續ニ移シ得ヘキヤ否ヤニ付テハ多少ノ議論ナキニ非ラサレトモ我大審院ハ前陳ノ如キ主義ニ解釋シ之ヲ本差押ニ移シ得ヘキモノトスル判例ナリ

債權ノ場合

(二)

債權ニ對スル場合 債權ノ假差押命令ニ付テハ其差押ノ點ニ於テハ普通ノ債權ニ對スル執行手續ニ準シ假差押債權者ハ其命令ノ正本ヲ執行裁判所ニ提出シ其執行ヲ申請ス可キモノトス(第五百九條)其執行裁判所ハ普通ノ場合ト異ナリ假差押命令ヲ發シタル裁判所ナルコトハ前ニ論述セル所ナリ而シテ執行裁判所ハ一般ノ規定ニ從ヒ(第五百七條)之カ假差押ヲ爲ス可キモノナレトモ普通ノ債權ニ對スル強制執行ハ差押命令ヲ以テ第三債務者ニ對シテハ債務者ニ支拂ヲ爲スコト

不動産ニ對スル假差押命令ノ執行方法

(第四)

不動産ニ對スル假差押命令ノ執行方法
ヲ禁シ債務者ニ對シテハ債權ノ取立又ハ處分ヲ爲スコトヲ禁スルモノナレトモ(第五百九條)此假差押命令ノ執行ニ付テハ單ニ前段ノ第三債務者ニ對スル債務者ニ支拂ヲ禁スル命令ヲ爲スニ過キスシテ敢テ債務者ノ處分禁止ノ命令ヲ爲スモノニ非ラス而シテ其執行ハ此禁止命令ニ因リ假差押ヲ爲スニ止マリ換價ノ方法タル取立命令及ヒ轉付ノ命令等ハ一切之ヲ發ス可キ限ニ在ラス(第七百五十七條)茲ニ注意ス可キハ前陳ノ第三債務者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁スル命令ハ假差押命令中ニ掲ク可キモノナリト解スル者ナキニ非ラス然レトモ是レ假差押裁判所ノ訴訟行為ト執行裁判所ノ執行行為トヲ相混同スルモノニシテ假差押裁判所ハ單ニ債務者ノ有スル債權ヲ假リニ差押フル旨ヲ宣言スルニ止マリ債權者ハ其命令ヲ受ク可キモノニシテ其之ヲ命スニ執行ノ申請ヲ爲シ始メテ其命令ヲ受ク可キモノニシテ其之ヲ命スルハ同一ノ裁判所ナリト雖モ執行裁判所トシテ執行行為ヲ爲ス可キモノナレハ兩者ノ間ニ判然タル區別アルコトヲ知ル可シ

民事訴訟法正解 強制執行 假差押及ヒ假處分 假差押

不動産ニ對スル假差押命令ノ執行ハ普通ノ強制執行ニ於ケル場合ト大ニ異ナル所アリ普通ノ不動産ニ對スル強制執行ニハ強制競賣ト強制管理トノ二種アリト雖モ假差押命令ノ執行トシテハ其性質上強制競賣ニ依リ其目的物ヲ賣却セシムルコトヲ得ス故ニ此方法ニ換ヘテ單ニ假差押ノ登記ノミニ依ル執行方法ト強制管理ニ依ル執行方法トノ二種トセリ而シテ假差押債權者ハ不動産ニ對スル假差押ノ命令ヲ受ケタルトキハ此二種ノ方法中其一ヲ選擇シテ執行ヲ求ムルコトヲ得

登記ノミニ依ル執行方法

(一) 登記ノミニ依ル執行方法 不動産ニ對スル普通ノ強制執行トシテノ強制競賣ハ債權者ノ申立ニ因リ執行裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シ其際競賣ノ申立アリタルコトヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ囑託スル手續アレトモ差押ノ效力ハ此登記ニ依リテ生スルモノニ非ラスシテ此開始決定ヲ債務者ニ送達スルニ因リテ生ス(第六百四十四條)假差押ノ執行トシテハ登記ノミニ依ル執行ヲ爲ストキハ假差押債權者ヨリ假差押命令ニ基キ之カ執行ヲ申立ツレハ執行裁判所ハ其假差押ヲ登記簿ニ記入ス可キ旨ヲ登記判事ニ囑託シ其記入ニ因リテ差押ノ效力ヲ生ス

強制管理ニ依ル執行方法

可キモノトス又其執行裁判所トシテハ第七百四十八條ニ依リ一般ノ強制執行ノ規定ヲ準用シ即チ第六百四十一條ニ基キ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ管轄ス或ハ此登記囑託ヲ以テ假差押命令ヲ發スル際ニ同時ニ爲ス可キモノ、如ク解スル者ナキニ非ラサレトモ是レ前ニ説明シタルカ如ク假差押ノ訴訟手續ト執行行爲トヲ混同スルモノニシテ法律ノ精神ニ反ス故ニ法律ノ眞意ハ假差押命令ヲ得タル後此方法ニ依ルカ又ハ次ノ強制管理ノ方法ニ依ルカヲ債權者ニ於テ撰擇シ殊ニ十四日ノ期間内ニ之カ執行ノ申出ヲ爲ス可キモノトス(第七百五十一條)強制管理ニ依ル執行方法 強制管理ハ假差押ノ執行ノ爲メニモ亦之ヲ爲シ得ヘキコトハ既ニ第六百四十條第三項ニ明定スル所ナリ故ニ假差押債權者ハ此手續ニ依ル假差押命令ノ執行ヲ求ムルコトヲ得而シテ之ヲ求ムル執行裁判所及ヒ其手續モ普通執行ノ場合ニ於ケル強制管理ト同一ナレハ其手續ヲ對照ス可シ然レトモ唯一ノ異ナル所ハ管理ノ結果管理人カ不動産ヨリ取得シタル收益ハ直チニ之ヲ債權者ニ支拂ハスシテ之ヲ供託ス可キ手續是ナリ(第七百五十二條)

民事訴訟法正解 強制執行 假差押及ヒ假處分 假差押

(第五) 船舶ニ對スル假差押命令ノ執行方法

船舶ニ對スル普通ノ強制執行ハ不動産ニ對スル強制執行ト同一ニ強制競賣開始ノ決定ヲ爲シ且其船舶ヲ一定ノ港ニ碇泊セシメ競賣ヲ爲ス可キモノナレトモ假差押命令ノ執行ニ至リテハ前ノ不動産ニ對スル場合ト同シク競賣開始ノ決定ヲ爲スヲ得ス故ニ特別ノ執行方法ヲ定メ其執行ノ申立アル當時船舶ノ碇泊スル地ノ區裁判所ヲ以テ執行裁判所トシ假差押債權者ノ申立ニ因リ其船舶ヲ同港ニ碇泊セシム可キ命令ヲ發シ其差押ヲ爲スヲ通例トス然レトモ若シ債權者ノ申立アレハ其他ノ船舶ノ監守及ヒ保存ノ爲メ必要ナル處分ヲ命スルコトアリ(第七百十七條、第七百十八條、第七百五十條)

(第六) 執行シタル假差押ノ取消

假差押命令モ亦一種ノ執行ナル以上ハ一般ノ通則ニ從ヒ第五百五十條ノ規定ニ於ケル事由アルトキハ其執行ヲ停止ス可キハ勿論ナリト雖モ其他假差押ノ性質上特ニ其執行ヲ取消ス可キ場合アリ而シテ其事由アルトキハ執達吏ノ爲シタル執行ニ關スルト執行裁判所ノ命シタル執行

ニ係ルトヲ問ハス其假差押ノ執行ヲ取消サ、ル可カラス

(一) 債務者カ假差押命令ニ掲ケラレタル金額ヲ供託シタルトキ 假差押命令ハ常ニ債務者カ一定ノ保證金ヲ供託スルトキハ其執行ヲ免カ
ル、コトヲ得ヘキ條件附ノ裁判ヲ爲ス可キモノナルコトハ前ニ論述
シタル所ナリ而シテ債務者カ其命令ノ趣旨ニ基キ保證金額ヲ供託シ
タルトキハ其執行ヲ取消ス可キモノナリ

(二) 假差押ノ執行ニ付キ特別ノ費用ヲ要スル場合ニ於テ差押債權者カ
其費用ヲ豫納セザルトキ 此場合モ執行ヲ進行スルヲ得サルカ故ニ
取消スノ外ナシ

以上二個ノ場合ニハ執行裁判所ハ假差押ノ執行ノ取消ヲ命スルコトヲ
得而シテ此裁判ハ總テ口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ以テ之ヲ爲シ其取消
決定ハ唯既ニ爲シタル執行ヲ取消スニ止マリ假差押命令ノ取消ヲ爲ス
可キモノニ非ラス命令ノ取消ハ假差押裁判所カ口頭辯論ヲ經テ終局判
決ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノニシテ茲ニ論スル所ノ取消ト全ク其性質ヲ
異ニス(第七百五
十四條)

此執行取消決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得然レトモ其決定ハ抗告ニ因リ執行ヲ停止ス可キモノニ非ラスシテ其裁判自體ニ於テ執行シ得ヘキモノナレハ別ニ執行文ノ付與ヲ要セス其決定ノ正本ヲ提出シタルトキハ執行機關タルモノハ其執行ヲ取消サル可カラス(第五百條)

第二節 假處分

假處分ノ性質

假處分モ亦假差押ト等シク執行保全ノ方法ナレトモ假差押ハ金錢ノ債權ノ保全方法ナレハ其方法ハ債務者ノ財産ヲ假リニ差押ヘ置クモノナレトモ假處分ニ至リテハ金錢以外ノ權利ノ保全方法ニシテ從テ其保全方法モ假差押ノ如ク債務者ノ總テノ財産ノ差押ヲ爲ス可キモノニ非ラス唯其權利ノ目的物ニ付キ相當ナル保存ノ方法ヲ盡クシ權利實行ヲ困難ナラシメサルコトヲ期スルニ在リ故ニ其保全ノ方法モ差押ヲ爲スカ如キ單純ナル方法ニ依ル能ハス其權利ノ性質ニ依リ千狀萬態一定ノ方法ヲ豫定シ難シ是ヲ以テ其處分方法ノ如キハ裁判所カ相當ト認ムル方法ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得而シテ假處分ニ付テモ假差押ト等シク特別訴訟手續ニ屬ス可

假處分ノ目的及ヒ理由

キ事項ト假處分命令ニ依ル特別ノ執行行為ニ屬ス可キモノトノ區別アル可キコトハ論ヲ俟タサレトモ行為ノ性質ニ依リ初メヨリ訴訟行為ニ屬スル事項ト執行行為ニ屬スル事項ト判然區別シ難キ場合アラザレトモ其命令ヲ發スルト之カ執行行為ヲ爲ストハ各事件ニ付テ觀察スレハ全ク分界アルコトハ假差押ノ場合ト異ナルコトナキカ故ニ以下二者ヲ區別シテ講述ス可シ而シテ此假處分ニ關シテ特別ノ規定ナキ限りハ即チ其性質ニ於テ許ス限リハ假差押ノ規定ヲ準用ス可キモノナレハ本節ニ於テ詳説セサル事項ハ前節ノ說明ヲ對照セラレ可シ(第七百五十六條)

第一款 假處分裁判所ニ屬スル訴訟手續

此訴訟手續モ亦假差押裁判所ノ訴訟手續ト同一ニシテ特別訴訟手續ノ一ニ屬ス

(第一) 假處分ノ目的及ヒ理由

假處分ハ金錢債權ノ保全方法ニ非ラスシテ主トシテ金錢以外ノ權利ニ付キ其權利實行ノ困難ヲ來タス可キ場合ニ之カ申立ヲ爲ス可キモノニシテ其目的ハ係争物其物ニ對シテ相當ノ處分ヲ爲スヲ本則トシ其他係

民事訴訟法正解 強制執行 假差押及ヒ假處分 假處分

争ノ權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムルヲ目的トスル場合ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得故ニ假處分ニハ二種ノ場合アリ

(一) 係争物ニ對スル假處分ヲ目的トスル場合 係争物ニ關スル假處分ハ現狀ノ變更ニ因リ當事者ノ一方カ權利實行ヲ爲ス能ハサルニ至ルトキ又ハ之ヲ爲スニ著シキ困難ヲ生スルノ恐アルトキ之ヲ爲スコキモノタリ而シテ茲ニ所謂係争物トハ既ニ訴訟ニ於テ争ニ係ルモノ、ミナラス起訴前ニ於テ當事者間ニ争トナリタル目的物ノ如キモ茲ニ包含ス(第七百五十五條)

(二) 係争ノ權利關係ニ付キ假ノ地位ヲ定ムルヲ目的トスル場合(第七百六十條)

(看參)

(甲) 繼續スル權利關係ニ付キ假ニ其關係存在スルモノトシテ假處分ヲ爲シ其損害ヲ避クルノ必要アル場合 例ヘハ其性質上一ノ行爲ヲ目的トスルモノニ非ラス數回繼續スル行爲ヲ目的トスルモノニシテ訴訟中ニ在リテモ其權利關係ハ繼續シ之ニ付テ相當ノ處分ヲ爲シ置カサレハ後日ニ之ヲ爲スモ其損害ヲ避クルコト能ハサルモ

ノヲ謂フ彼ノ養料義務ノ法律關係ノ如キ繼續シテ其債務履行ヲ受クルノ必要アリ之ヲ缺クトキハ日常ノ生計ヲモ營ム能ハスシテ避ク可カラサル損害ヲ生スルカ如キ場合ヲ謂フ此場合ニハ假ニ其法律關係アルモノトシ其支拂ヲ命スルカ如キ是ナリ

(乙) 急迫ナル暴行ヲ避クル爲メ假處分ノ必要アル場合 暴行ヲ受クルトキモ其必要ヲ見ル場合アル可シ

假處分ハ以上ノ如キ事情ノ必要アルトキハ管ニ債權者ノミナラス債務者ノ地位ニ在ル者モ亦之ヲ求ムルコトヲ得ヘシ是レ假差押ト其性質ニ於テ差異ノ生スル所ナリ

(第二) 假處分ノ申立

債權者若クハ債務者カ假處分ノ理由ノ存スルモノトシテ假處分命令ヲ求ムルニハ假差押ノ申請ト同一ノ手續ニ準シ之ヲ爲スコキモノトス故ニ其申請ニハ假差押申請ニ掲クヘキ事項ヲ掲ク其請求及ヒ假處分ノ理由ヲ疏明セサル可ラス(第七百五十四條、第七百五十六條、第七百五十七條、第七百五十八條、第七百五十九條、第八百零一條)

(第三) 管轄假處分裁判所

民事訴訟法正解 強制執行 假差押及ヒ假處分 假處分

假處分ノ申立

管轄假處分裁判所

假處分ノ申立
ニ付テノ辯論
及ヒ裁判

假處分ノ申立ハ本案ノ管轄裁判所カ之ヲ管轄スルヲ本則トス換言スレ
 ハ本案ノ裁判所ヲ以テ假處分裁判所トナスニ在リ而シテ此本案ノ管轄
 裁判所ノ意義ニ關シテハ假差押ニ付テ論述シタルカ如ク第一審裁判所
 ヲ通例トシ控訴審ニ繫屬スルトキニ限リ控訴裁判所トス
 假差押ニ付テハ本案ノ管轄裁判所ノ外物件所在地ノ區裁判所ヲモ其管
 轄裁判所トナシタレトモ假處分ニ至リテハ係争ノ目的物又ハ法律關係
 ニ付キ相當ノ處分ヲ爲ス可キモノナレハ本案ノ係争事項ト密着ノ關係
 ヲ有スルヲ以テ之ヲ本案ノ管轄裁判所ニ屬セシメタルモノナリ然レト
 モ例外トシテ急迫ナル場合ニ限リ係争物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所
 ハ本案ノ裁判所ニ於テ更ニ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ヲ經テ判決
 ヲ受ク可キコトヲ條件トシ即チ條件附ノ假處分ヲ命スルコトヲ得ヘキ
 モノトセリ(第七百六十一條)又急迫ナル場合ニ於テハ本案ノ裁判所ノ裁判長ハ
 口頭辯論ヲ經スシテ假處分ノ命令ヲ發スルコトヲ得(第七百六十三條)
 (第四) 假處分ノ申立ニ付テノ辯論及ヒ裁判
 假處分ノ申立ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ假差押ノ申請ニ付テノ手續ヲ準

用ス可キモノナレトモ假處分ニ付キ特別ナル規定ヲ設ケタルモノハ假
 差押ノ如ク口頭辯論ヲ經ルト否トヲ裁判所ノ自由ナル意見ニ任セスシ
 テ一般口頭辯論ヲ經テ判決ヲ以テ裁判スルヲ本則トシ事情ノ急迫ナル
 場合ニ限リ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲ス可キモノトス即チ物件所在地
 ノ區裁判所又ハ裁判長カ急迫ナリト認メテ此命令ヲ發スル場合ニハ口
 頭辯論ヲ經サルモノトス(第七百五十七條第七百六十二條)其口頭辯論ヲ經タル
 ト否トヲ問ハス假處分裁判所カ判決ヲ以テ爲シ又ハ決定ヲ以テ爲シ又
 ハ區裁判所若クハ裁判長カ命令ヲ以テ爲シタルヲ問ハス假處分ヲ許ス
 裁判ヲ總稱シテ假處分命令ト云フ
 此命令ハ假差押命令ノ如ク單ニ假差押ヲ爲ス可キコトヲ命スル簡單ナ
 ル裁判ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ金錢以外ノ債權ニ付キ其係争物又
 ハ係争ノ法律關係ニ付キ相當ノ保全方法ヲ命ス可キモノナレハナリ而
 シテ裁判所ハ事情ニ依リ其目的ヲ達スルニ必要ナル處分ヲ命ス可キモ
 ノナレハ其範圍ニ付テハ敢テ申立人ノ申立テサル方法ト雖モ裁判所ノ
 自由ナル意見ヲ以テ之ヲ命スルコトヲ得其方法ニ至リテハ固ヨリ場合

ニ依リ一樣ナル能ハスト雖モ今法律ノ例示スルモノヲ舉クレハ左ノ如シ(第七百五十八條)

(一) 物件ノ保管ヲ命スルトキ 係争物カ動産ナルト不動産ナルトヲ問ハス裁判所ハ相當ト認ムルトキハ保管人ヲ置キ之カ保管ヲ爲サシムルコトヲ得

(二) 申立人ノ相手方ニ行爲ヲ命シ又ハ給付ヲ命シ若クハ或行爲ヲ禁止スルコトヲ得

(三) 其行爲ヲ禁止シタル命令ニシテ不動産ノ讓渡若クハ抵當ヲ禁止シタルトキハ假處分裁判所ハ假處分行爲トシテ職權ヲ以テ其旨ヲ登記簿ニ記入ス可キ囑託ヲ爲ス

假處分ノ申立ニ付テノ裁判ニシテ口頭辯論ヲ經タルモノハ判決ヲ以テ之ヲ爲シ然ラサルモノハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス而シテ判決ヲ以テ爲シタル裁判ニ對シテハ上訴又ハ故障ヲ許シ決定命令ヲ以テ爲シタルモノハ却下ノ裁判ニ對シテハ抗告ヲ許シ假處分ヲ許ス裁判即チ假處分命令ニ對シテハ異議ヲ主張シ得ヘキコトハ假差押命令ニ對スルト同一ナリ

假處分ノ當否ニ付テノ辯論

茲ニ注意スヘキハ金錢ノ債權ノ保全方法タル假差押命令ハ其命令中ニ債務者カ執行ヲ免カル、爲メ供託ス可キ金額ヲ定メ之ヲ供託スルトキハ其執行ヲ免カレシメ又特ニ債務者ヨリ保證金ヲ供託シテ假差押命令ノ取消ヲ求ムルトキハ其命令取消ノ判決ヲ與フルコトヲ得レトモ假處分ハ金錢ノ債權ノ爲メニ非ラサレハ單ニ保證金ヲ供託シタルノミヲ以テ完全ニ其危險ヲ擔保スルヲ得ス故ニ保證ヲ立ツルノミニテ假處分命令ヲ取消シ又ハ其執行ヲ取消ス可キモノニ非ラス故ニ假處分命令中ニハ保證ヲ立テ其執行ヲ免カル可キ金額ヲ記載セス從テ保證ヲ立テ、其執行ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ス又假差押ノ如ク單ニ保證ヲ供託シ假差押命令ノ取消ヲ許スカ如キ場合ナクハ理由消滅ニ因ル假差押命令取消ノ申立ハ假處分ニモ準用スト雖モ其命令ノ取消ヲ求ムルニハ一個ノ制限ヲ付シ特別ナル事情ノ存スルトキニ限り保證ヲ立テシメ其命令ヲ取消スコトヲ得セシムルニ在リ(第七百五十九條)

(第五) 假處分ノ當否ニ付テノ辯論
事情ノ急迫ナル場合ニ於テハ本案、管轄裁判所ノ外物件所在地ノ區裁

民事訴訟法正解 強制執行 假差押及ヒ假處分 假處分

判所モ假處分ノ命令ヲ發シ得ヘキコトハ前述シタルカ如シ而シテ此場合ニハ假處分ノ當否ニ付テノ辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ相手方ヲ呼出スヘキ期間ヲ定メ條件附ノ假處分ヲ命スルニ在リ其期間内ニ假處分申立人カ條件ノ如ク當否ノ辯論ノ申立ヲ爲サ、ルトキハ其命令ヲ發シタル區裁判所ハ相手方ノ申立ニ因リ其假處分ノ命令ヲ取消ス可キモノトス尤モ其裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

右ノ期間ニ本案ノ管轄裁判所ニ假處分當否ノ辯論ノ申立アリタルトキハ同裁判所ハ口頭辯論ノ原則ニ從ヒ期日ヲ定メ當事者ヲ呼出シ其辯論ヲ經テ嘗テ區裁判所ノ發シタル假處分命令ハ當テ得タルモノナリヤ否ヤヲ審理シ判決裁判所ノ資格ニ於テ終局判決ヲ以テ其當テ得タルモノト認ムルトキハ之ヲ認可シ然ラサルトキハ之カ取消ノ裁判ヲ爲ス可キモノナリ(第七百六十一條)

第二款 假處分命令ノ執行行爲

嘗テ論述セシ如ク假處分命令ハ假差押命令ノ如ク單ニ差押ヲ爲ス一事ヲ以テ其目的ヲ達シ得ヘキモノニ非ラス故ニ其假處分ノ方法如何ニ依リテ

ハ之カ執行ヲ爲シ得ヘキ爲メニ其命令中ニ詳細ナル方法ヲモ定メサルヲ得サルコトアリ是ヲ以テ假處分命令ノ執行方法ハ常ニ如何ナル執行方法ヲ準用スト明言スルコトヲ得ス然レトモ一般強制執行ノ規定ヲ準用ス可キコト疑ヲ容レス而シテ其目的ハ金錢債權以外ノ權利保全ノ方法ナレハ金錢以外ノ債權ニ關スル執行方法ヲ準用ス可キモノ多シ然レトモ其處分方法ニシテ金錢ノ交付ヲ命スルコトアルトキハ金錢債權ニ付テノ執行方法ヲ準用ス可キ場合アリ又其命令ニシテ禁止命令ニ止マルトキハ相手方ニ其命令ヲ送達スルノミヲ以テ足レリトシ現實執行ヲ要セサルナリ其執行ヲ要ス可キ假處分命令ニ付テハ其命令ノ趣旨ニ從ヒ如何ナル執行方法ヲ準用ス可キヤヲ觀察シ其準用セラル、執行方法ハ如何ナル執行機關ノ執行ニ屬スヘキヤヲ定メ其執行ヲ爲ス可キ執達吏若クハ執行裁判所ニ向テ假處分命令ノ正本ヲ提出シテ之ヲ求ム可キモノナリ此命令ニハ執行文ノ付與ヲ要セス又執行着手前ニ之ヲ相手方ニ送達スルヲ要セサルコトハ假差押ノ執行ノ場合ト同一ナリ

故ニ動産又ハ不動産ノ保管ヲ命シタル命令ノ執行ハ第七百三十條及ヒ第

七百三十一條等ノ規定ヲ準用シテ執達吏ニ之ヲ求ムヘク又行爲ヲ命スル假處分命令ノ如キハ第七百三十三條第七百三十四條ノ規定ヲ準用シテ裁判所ニ之ヲ求メ其執行ヲ受ク可キモノナリ又一時養料ノ支拂ヲ命スル假處分命令ノ如キハ金錢ノ債權ニ付テノ執行方法ヲ準用ス可キモノナリ

第二編 公示催告手續

公示催告手續

公示催告手續ハ一種ノ特別訴訟手續ニ屬スルモノニシテ不知ノ相手方又ハ關係人ニ對シ權利主張ノ催告ヲ爲シ其催告ニ應セサレハ失權ノ宣告ヲ爲スヲ以テ目的トナスモノナリ
一般ノ原則ニ依レハ訴訟ニハ特定ノ相手方アルヲ常トス相手方不明ナルニ訴訟ヲ起スハ極メテ變例ニ屬ス然レトモ相手方ノ知レサルカ爲メ法律關係ヲ永遠ニ不確定ナラシムルハ公益上利益アルモノニ非ラス場合ニ依リテハ速ニ其法律關係ヲ確定シ之カ處分ヲ爲ス必要アリ斯ル場合ニ當リテハ不知ノ相手方ニ對シテモ公示ノ方法ニ依リ其權利ノ主張ヲ催告シ之ニ應シテ其主張ヲ爲サレハ失權ノ宣告ヲ爲スノ必要ヲ見ルコトアリ是

レ本編ノ規定ヲ設ケシ所以ナリ而シテ如何ナル場合ニ斯ル手續ニ依ルノ必要アリヤト云フニ其失權宣告ノ效力ハ如何ナル程度ニ及フ可キヤハ實體法ノ定ム可キ所ニシテ其規定ナクハ此手續ヲ適用シ得ヘキモノニ非ラス蓋シ會社解散ノ場合ニ於ケル債權申出ノ催告、限定相續ノ場合ニ於ケル債權申出ノ催告、相續人曠缺ノ財產處分ニ付テノ債權申出催告等ハ公示催告手續ニ依ルコト最モ適切ナル可シ然レトモ現行民法ニ於テハ此等ノ場合ニハ特別ノ公示方法ヲ用キテ（民法第七十九條、第九百二十九條參看）公示催告手續ニ依ルモノトナサレカ故ニ此手續ヲ適用スルモノニ非ラス夫ノ遺失物所有者申出ノ催告ノ如キモ此手續ニ依レハ甚タ便利ナリト雖モ特別法ノ規定アリテ公示催告手續ニ依ル可キ實體法ナクハ之ヲ適用スルコトヲ得ス唯不動産登記法上ノ登記抹消ヲ爲ス可キ場合ニ登記義務者ノ行衛知レサルトキハ公示催告手續ニ依ル可キモノト定メラレタリ（不動産登記法第百四十二條參看）此場合ニハ此手續ヲ適用ス
又債權證書ノ如キモ其證書自體ハ權利ニ非ラサルモ之ニ依リテ權利ヲ主張シ得可キモノナレハ其紛失若クハ盜難等ノ場合ニ無効宣告ヲ爲ス爲メ

民事訴訟法正解 公示催告手續

公ニ所有者ノ届出ヲ催告セシムルハ公示催告手續ヲ爲スニ適ス民法施行法第五十七條ノ規定ニ指圖證券無記名證券及ヒ民法第四百七十一條ニ掲ケタル證券ハ公示催告ノ手續ニ依リテ之ヲ無効トナスコトヲ得ヘキ旨ヲ定メラレタリ故ニ此等ノ場合ニハ本編ノ規定ヲ適用ス可キモノトス而シテ證書ノ無効ヲ目的トスル公示催告手續ハ一般ノ失權宣告ヲ目的トスル公示催告手續トハ其目的ヲ異ニスルヲ以テ其手續ニ至テモ同一ナル能ハス是ヲ以テ本編ニ於テハ一般ノ失權宣告ヲ目的トスル公示催告手續ト證書ノ無効宣言ヲ目的トスル公示催告手續トハ其規定ヲ異ニセリ故ニ以下之ヲ區別シテ攻究スヘシ

第一章 一般ノ失權ヲ目的トスル公示催告手續

公示催告手續ハ實體法ニ於テ之ニ依ルコトヲ得ヘキ規定ヲ定メサレハ此手續ヲ適用スルヲ得ス而シテ實體法上一般ノ失權宣告ノ爲メニ公示催告ヲ許ス可キ規定ハ登記抹消ヲ爲スヘキ場合ニ登記義務者ノ行衛知レサル

管轄裁判所

トキノミニ適用スルニ過キス然レトモ此手續ハ證書ノ無効宣告ヲ公示スル場合ニモ適用シ又人事訴訟手續中失踪宣言ノ手續ニモ準用スルモノナレハ^(人事訴訟手續法第七十條參看)之ヲ攻究スルノ必要アリ

(第一) 管轄裁判所

公示催告手續ノ事物ノ管轄ハ區裁判所ナリトス^(第七百六十條第二項)其土地ノ管轄ニ付テハ此法律ノ規定ナシ蓋シ此點ニ付テハ公示催告手續ヲ許ス事物ニ付キテ同一ナルコト能ハサルカ故ニ之ヲ許ス實體法ニ於テ之ヲ特定ス可キモノナリ

證書ノ無効宣言ヲ目的トスル公示催告手續ニハ第七百七十九條ニ於テ土地ノ管轄ヲモ定メラレタリ

公示催告ノ申立

(第二) 公示催告ノ申立

公示催告ハ固ヨリ職權ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノニ非ラス申立ニ因リテ之ヲ實施ス可キモノナリ其申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得口頭ヲ以テ之ヲ爲シタルトキハ第三百三十五條ノ規定ニ從ヒ其證書ヲ作ラシムルコトヲ得

如何ナル者カ公示催告ノ申立ヲ爲シ得ヘキカ又其申立ニ具備ス可キ要件ノ如何ニ付キテハ此法律ニ規定スル所ナシ是レ公示催告ヲ許ス事物ニ依リテ同一ナル能ハサルヲ以テ之ヲ許ス可キ各法律ニ於テ規定ス可キモノトナスニ在リ然レトモ此申立ハ失權宣言ヲ目的トスルニアレハ其如何ナル失權宣言ヲ求ム可キヤヲ開示シ申立人ノ表示ヲ爲スカ如キハ裁判所ニ於テ申立ノ許否ヲ決スルニ必要ナレハ之ヲ缺ク能ハサルハ勿論ナリ又此申立ヲ爲ス行爲ハ一個ノ訴訟行爲ナレハ其申立人ハ訴訟能力ヲ有スルコトヲ要ス可キハ勿論ナリ

而シテ此申立アリタルトキハ裁判所ハ之カ許否ヲ調査シ法律上公示催告ニ依ルコトヲ得ヘキ事項ニ該當シ許ス可キモノト認ム可キトキハ催告ノ手續ヲ爲スヘク若シ然ラサルトキハ其申立却下ノ決定ヲ爲ス可キモノナリ此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得
裁判所ハ數個ノ公示催告ノ申立ニ付テハ一般ノ訴訟併合ノ條件存セザルトキト雖モ(第百二條)之ヲ併合シ同時ニ其裁判ヲ爲シ且同時ニ其催告ノ手續ヲ爲スコトヲ得(第百七條)

催告

(第三) 催告

公示催告ノ申立ニシテ許ス可キモノナルトキハ公示ノ方法ヲ以テ權利ノ届出ヲ催告ス可キモノナリ

(一) 催告ノ方法 催告ノ方法ハ其催告書ヲ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ且官報又ハ公報ニ公告シテ之ヲ爲シ又他ノ法律ニ別段ノ規定ナキトキハ裁判所ノ意見ヲ以テ新聞紙ニモ公告スルコトヲ得(第百六條)

(二) 公告催告書ニ記載スヘキ事項 之ニ記載スヘキ事項左ノ如シ(第百六條)
(第十五項)

(イ) 申立人ノ表示

(ロ) 請求又ハ權利ヲ公示催告期日マテニ届出ツ可キコトノ催告

(ハ) 届出ヲ爲サルニ因リテ生スル失權ノ表示

(ニ) 公示催告期日ノ指定但此期日ハ公告ヨリ二个月ノ後ナルコトヲ要ス

(三) 公示催告期間 此期間ハ權利届出ノ猶豫期間ニシテ公示催告ノ公告ヨリ公示催告期日マテノ時間ヲ謂フ而シテ此期間ハ廣ク催告ヲ知

ラシメテ權利届出ノ機會ヲ與フルヲ目的トスルカ故ニ其公示ヨリ公示催告期日マテニハ少クモ二个月ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス(第七百六十七條)然レトモ公示催告手續ヲ許ス事物ニ付キ其期間ノ伸長ヲ必要トスルモノナキニ非ラサレハ此等ハ固ヨリ其特別ナル規定ニ從フ可キモノタリ

以上公示ノ方法、催告書ノ記載事項及ヒ催告期間ノ規定ニ背反シタルトキハ除權判決ヲ與フルモ不服ノ原因タルコトヲ免カレス(第七百七十四條)

權利ノ届出

(第四) 權利ノ届出

公示催告ニ明示スル所ノ權利ヲ爭ハントスル者ハ公示催告期間内ニ之カ届出ヲ爲ス可キモノナリ然レトモ此期間ハ不變期間ニ非ラサルヲ以テ公示催告期日ノ後ニ於テモ除權判決言渡前ニ其届出ヲ爲セハ適法ノ期間内ニ届出ヲ爲シタルモノト看做シ此期間經過ノ一事ヲ以テ本法第百七十三條ノ規定ニ於ケル失權ノ效果ヲ生セシムルコトナキモノトス(第七百六十八條)而シテ公示催告ノ手續ハ當事者間ノ爭ヲ判定スルノ目的ニ出ツルモノ

公示催告期日

(第五) 公示催告期日

公示催告期日ハ權利ヲ爭ハントスル者ノ陳述ヲ聽キ公示催告申立人ノ除權判決ノ申立ニ付テノ辯論ヲ爲シ除權判決ノ許否ヲ決スヘキ期日ナリ故ニ權利ヲ爭ハントスル者ハ其期日マテニ權利ヲ届出テタル者ハ勿論未タ届出テサリシ者モ出頭シテ届出ヲ爲シ且陳述ヲ爲スコトヲ得此期日ニ於テ申立人モ届出人モ出頭セサルトキハ其手續ハ休止ス可キモノタリ又届出人ノミ出頭シ申立人カ出頭セサルトキハ未タ除權判決ノ申立アラサル場合ナルヲ以テ闕席判決ヲ爲シ得ヘキ事項ナシ

民事訴訟法正解

公示催告手續

一般ノ失權ヲ目的トスル公示催告手續

以上二個ノ場合ニハ新期日指定ノ申立ニ因リ裁判所ハ更ニ新期日ヲ定ム可キモノナリ(第七百七十一條)而シテ此新期日ハ更ニ之ヲ公告スルヲ要セス(第七百七十二條)然レトモ本法第六十一條ノ一般ノ規定ニ從ヒ當事者ヲ呼出ス手續ヲ爲サ、ル可カラス

右新期日指定ノ申立ハ公示催告期日ヨリ六個月ノ期間内ニ限リ之ヲ許ス可シ(第七百七十一條)故ニ此期間ヲ徒過シタル後ハ既ニ新期日指定ノ申立ヲ爲シテ其手續ヲ進行スルコトヲ得ス即チ公示催告手續ハ是ニ於テ終了ス可キモノタリ

期日ニ於テ申立人出頭シタルトキハ權利届出人ノ出頭シタルト否トヲ問ハス其申立人ノ除權判決ノ申立ヲ聽キ之カ許否ヲ決ス可キモノナリ而シテ届出人出頭セサルトキト雖モ闕席判決ヲ爲ス可キモノニ非ラス其審理ノ結果公示催告手續ニ依ルコトヲ得ヘキモノニ非ラサルトキハ決定ヲ以テ除權判決ノ申立ヲ却下ス可ク而シテ其裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ尙ホ搜索ヲ爲スコトヲ要スルモノト認ムルトキハ其許否ノ裁

除權判決

判ヲ與フル前ニ申立人ヲシテ更ニ探知ヲ爲スコキコトヲ命スルヲ得(第七百六十條)

(第六) 除權判決

除權判決ハ公示催告期日ニ於ケル申立人ノ申立ニ因リ之ヲ爲スコキモノニシテ其判決ハ敢テ實體上ノ爭ヲ判定スコキモノニ非ラス公示催告手續ヲ許スコキ事項ニ該當シ其手續ニ依リ催告ヲ爲シタルモ權利ノ届出ナキ故ヲ以テ之カ失權ヲ宣言スルニ在リ若シ其權利ヲ爭フ届出アリタルトキハ其爭ハ他ノ訴訟ニ於テ決スヘク即チ普通訴訟ニ於テ其權利ノ確定スルマテハ除權判決ヲ爲サスシテ手續ヲ中止スコキヲ通例トス其届出アルモ全ク無原因ノ主張ト認ム可キ事情アル場合ノ如キハ其届出ニ拘ハラス除權判決ヲ爲シ得ヘシト雖モ其場合ニハ其除權判決ニ届出アリタル權利ノ留保ヲ掲クルコトヲ要ス(第七百七十條)而シテ除權判決ニハ如何ナル失權ヲ宣言スコキヤハ公示催告ヲ許スコキ事物ニ付キ異ナルヲ以テ各事物ニ付キ攻究スコキモノナリ

除權判決ハ辯論ヲ經テ爲ス判決ナレハ其言渡ヲ爲スコトヲ要シ加之裁

民事訴訟法正解 公示催告手續 一般ノ失權ヲ目的トスル公示催告手續

判所ハ必要ト認ムルトキハ其判決ノ要旨ヲ官報又ハ公報ニ公告スルコトヲ得(第七百七十三條)

此除權判決ニ對シテハ上訴ヲ許サス(第七百七十四條)又闕席判決ナルモノナケレハ故障ノ申立ヲ許ス可キ場合ナシ故ニ此判決ハ言渡ト同時ニ確定力ヲ有スルモノナリ唯除權判決ニ付シタル制限及ヒ留保ニ對シテノミ即時抗告ヲ爲スコトヲ許シ(第七百六十九條)又特別ノ原因アルトキハ之ニ對スル不服ノ訴ヲ起スコトヲ得ルノミ

除權判決ニ對スル不服ノ訴

(第七) 除權判決ニ對スル不服ノ訴

除權判決ニ對シテハ上訴ヲ許サスト雖モ特別ナル原因存スルトキハ不服ノ訴ヲ起スコトヲ得而シテ其管轄裁判所ハ訴訟物ノ價格ニ拘ハラズ公示催告裁判所所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄ニ屬ス(第七百七十四條)

- (一) 除權判決ニ對スル不服ノ原因ハ左ノ如シ
- (イ) 法律ニ於テ公示催告ヲ許ス場合ニ非ラサルトキ
- (ロ) 公示催告ニ付テノ公告ヲ爲サス又ハ法律ニ定メタル方法ヲ以テ公告ヲ爲サ、ルトキ 即チ本法第七百七十六條第七百八十二條ニ

違背シタルトキ是ナリ

(ハ) 公示催告ノ期間ヲ遵守セサルトキ 即チ本法第七百六十七條第七百八十三條ノ規定ニ背反シタルトキ是ナリ

(ニ) 判決ヲ爲ス判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルトキ 即チ本法第三十二條以下ノ規定ニ違反シタルトキ是ナリ

(ホ) 請求又ハ權利ノ届出アリタルニ拘ハラズ判決ニ於テ之ヲ顧ミサルトキ 即チ届出アルニ權利ノ留保ヲ付セスシテ除權判決ヲ爲シタルトキ是ナリ

(ヘ) 再審ノ場合ニ於ケル本法第四百六十四條第一號乃至第五號ノ原狀回復ノ訴ヲ許ス原因ノ存スルトキ

不服ノ原因ハ以上ノ如シ

(二) 不服ノ訴ヲ爲シ得ヘキ期間 原告カ除權判決ヲ知りタル日ヨリ一ヶ月ノ不變期間内ニ訴ヲ起スコトヲ要ス前項(ニ)號乃至(ヘ)號ノ場合ニ於テハ其原因アリタルコトヲ知りタル日ヨリ一ヶ月トス而シテ除權判決言渡ヨリ五ヶ年ヲ經過シタルトキハ此訴ヲ絶對ニ起スコトヲ得

民事訴訟法正解 公示催告手續 一般ノ失權ヲ目的トスル公示催告手續 三六九

第二章 證書ノ無効宣言ヲ目的トスル特別ノ公示催告手續

公示催告手續ノ本旨ハ失權ノ宣言ヲ目的トスルモノナリ而シテ證書自體ハ權利ニ非ラス唯權利證明ノ具タルニ過キサレハ之カ無効ノ宣言ハ直チニ失權ノ宣言ト云フヲ得ス然レトモ證書ニ基ク債權ノ如キハ其證書ニ依リ之ヲ主張シ得ヘキモノナレハ其重要ナル證書ヲ紛失シタル場合ノ如キハ現ニ之ヲ所持スル者ニ對シテ其届出ヲ催告シ之カ届出ヲ爲サ、ルトキハ證書ノ效力ヲ失ハシムルハ關係人ノ爲メニ不確定ナル關係ヲ確定スルノ利益アリ故ニ法律ハ證書ノ無効宣言ヲ目的トスル公示催告ヲ特ニ許シタリ

此公示催告ハ其目的ハ失權ノ宣言ヲ爲スモノト異ナルモノナレハ之カ手續モ亦特別ノ規定ヲ要ス是レ本法第七百七十七條以下ニ之カ特別ノ規定ヲ設ケラレタル所以ナリ

而シテ公示催告手續ハ法條ニ於テ此手續ヲ許ス可キ規定アル場合ニノミ適用ス可キモノナルコトハ證書ノ無効宣言ヲ目的トスルモノニ付テモ亦同一ナリ而シテ實體法上證書ノ無効宣言ヲ目的トスル場合ハ本編ノ冒頭ニ述ヘタルカ如ク民法施行法第五十七條ノ規定ニ依リ民事上ノ指圖證券、無記名證券ハ公示催告手續ニ依リ無効トナスコトヲ許スヲ以テ此等ノ場合ニノミ適用ス可キモノナリ

此特別公示催告手續ハ前ニ論述シタル一般ノ公示催告手續ニ對スル特別法ナレハ其特ニ定メナキモノハ一般ノ公示催告手續ニ從フ可キハ勿論ナリ故ニ特ニ規定シタル事項ニ付テノミ攻究ス可シ

(第一) 管轄裁判所

證書ノ無効宣言ヲ目的トスル公示催告手續モ其事物ノ管轄ハ本法第七百四十六條ノ規定ニ從ヒ區裁判所ノ管轄トナシ其土地ノ管轄ハ證書上ニ記載シタル履行地若シ履行地ノ記載ナキモノハ其發行人カ普通裁判籍ヲ有スル地又ハ現ニ發行人ノ普通裁判籍ナキトキハ同人カ發行ノ當時普通裁判籍ヲ有セシ地ノ裁判所ノ管轄トス若シ證書上ノ債權カ先取

特權、不動産質權及ヒ抵當權等ノ設定アルカ爲メ登記簿ニ記入シタルモノナルトキハ其物ノ所在地ノ裁判所ノ管轄ニ專屬ス(第七百七十九條)

(第二) 公示催告ノ申立ヲ爲ス者

一般ノ公示催告ニ付テハ之カ申立ヲ爲ス可キ者ハ公示催告ヲ許ス可キ各事物ニ付キ異ナル可キモノナレハ之ヲ許ス可キ實體法ニ於テ攻究ス可キモノタルコトハ前ニ論述シタル所ナレトモ此證書ノ無効宣言ヲ目的トスル者ハ其證書ニ依リ權利ヲ主張シ得ヘキ者カ無効ノ宣言ヲ求ムルノ必要アルヲ常トス故ニ此公示催告ハ無記名證券、裏書ヲ以テ移轉シ得ヘキ證券ニ付テハ最終ノ所持人タリシ者其他ノ證券ニ在リテハ證書ニ依リ權利ヲ主張シ得ヘキ者カ此申立ヲ爲スノ權利アリトス(第七百七十八條)

(第三) 公示催告ノ申立

公示催告ノ申立ニ付テハ一般ノ公示催告ノ手續ニ從フノ外尙ホ左ノ開示及ヒ疏明ヲ爲スコトヲ要ス(第七百八十一條)

(一) 證書ノ謄本ヲ差出シ又ハ證書ノ要旨及ヒ證書ヲ充分ニ認知スルニ必要ナル諸件ヲ開示スルコト 尤モ本證書カ現存セサルモノナレハ

公示催告ノ申立

其詳細ナルコトヲ開示シ能ハサルハ勿論ナレトモ可及的之カ開示ヲ爲サ、ル可カラス

(二) 證書ノ盜難、紛失滅失及ヒ公示催告ヲ申立ツル理由タル事實ヲ疏明スルコト

(第四) 催告

裁判所カ申立ヲ許シ催告ヲ爲スニモ一般ノ手續ニ從フノ外尙ホ左ノ特別ナル手續ヲ行フコトヲ要ス

(一) 公示催告ノ方法 此方法ハ一般ノ公示催告ノ如ク裁判所ノ揭示板ニ揭示シ官報等ニ公告スルノ外必ス新聞紙ニ三回以上公示シ取引所アル地ニ於テハ同所ニモ此公告ヲ爲スコトヲ要ス即チ此場合ニ於テ新聞紙ノ公告ハ本法第七百七十六條末段ノ如ク裁判所ノ任意ニ之ヲ爲シ得ルニ非ラスシテ必ス之ヲ爲サ、ル可カラス(第七百八十二條)

(二) 公示催告書ニ記載スヘキ事項 此事項ハ本法第七百七十五條第三號ノ規定ニ從フ外證書ノ所持人ハ公示催告期日マテニ權利ノ届出ト共ニ其證書ヲ提出スヘキ旨ノ催告及ヒ其提出並ニ届出ヲタレハ失權

民事訴訟法正解 公示催告手續 證書ノ無効宣告ヲ目的トスル特別ノ公示催告手續 三七三

トシテ證書ノ無効宣言ヲ爲スヘキ旨ノ戒示ヲ掲ク可キモノトス(第七百八十一條)

(三) 公示催告期間 即チ公示催告期日マテノ期間ハ一般ノ規定ト異ナリ必ス六個月ノ時間ヲ存スルコトヲ要ス(第七百八十三條) 此等ノ規定ニ違反スレハ其除權判決ニ對スル不服ノ原因トナル可シ(第七百七十四條)

除權判決

(第五) 除權判決

公示催告期日ニ於テ除權判決ヲ爲シ其判決ニ對シテハ上訴ヲ許サズ特定ノ原因アルトキニ限り不服ノ訴ヲ許スカ如キハ凡テ一般ノ公示催告手續ニ從フ可キモノナリ唯異ナル所ハ此公示催告ハ證書ノ無効宣言ヲ目的トスルニ在レハ除權判決ニハ證書ノ無効ヲ宣言ス可キコト是ナリ而シテ此判決ノ要旨ハ官報又ハ公報ヲ以テ公告ス可キモノナリ(第七百八十四條) 是レ亦第七百二十三條ノ如ク裁判所ノ意見ヲ以テ公告ヲ爲シ得ルニ止マラス必ス之カ公告ヲ爲サル可カラズ 此證書ノ無効宣言ヲ目的トスル除權判決ハ單ニ證書ノ無効ヲ宣言シタ

ルノミニテ之カ爲メ證書上ノ權利ヲ確定シタルモノト云フヲ得ス唯其證書ニ依リ權利ヲ主張スルニ證書ヲ有スルト同シク其判決ヲ以テ權利ヲ主張スルコトヲ得セシムルノミ(第七百八十五條) 故ニ之カ爲メニ相手方ハ權利ノ主張ニ對シ抗辯ヲ爲スノ權利ヲ妨ケス

第三編 仲裁手續

仲裁手續

仲裁手續ハ私權上ノ争ニ付キ國家機關ニ依頼セズ一私人タル第三者ニ委託シ其判定ヲ受クル手續ノ謂ナリ即チ仲裁ハ當事者ニ於テ私權上ノ争ニ付キ國家以外ノ第三者ノ判定ヲ受クルコトヲ約スル法律行為ニ依リテ成立スルモノニシテ當事者ハ此法律行為ニ羈束セラル、モノトス此法律行為ヲ仲裁契約ト云ヒ其判定ヲ爲ス第三者ヲ仲裁人ト云ヒ仲裁人ノ判定ヲ爲シ仲裁判斷ト稱ス固ヨリ仲裁判斷ハ國權ノ行動ニ非ラサレハ強制力ヲ有セサルモノナレトモ任意ノ熟議ニ出テタル判定ナレハ其判定ニ對シテ國家ハ一定ノ形式ニ依リ其實行ヲ保護ス可キモノトセリ 抑モ私權ハ任意ニ之ヲ處分スルコトヲ得ヘキヲ原則トス故ニ之ニ付キ争

アルモ必スシモ國家ノ保護ニ依頼シ裁判所ノ裁判ヲ受クルヲ要セス權利ヲ有スル者ハ自ラ之ヲ拋棄スルモ若クハ當事者相互ニ權利ノ一部ヲ拋棄シ以テ和解契約ヲ爲スモ可ナリ又其曲直ノ判定ヲ一私人タル第三者ニ委託スルモ尙ホ可ナリトスルニ在リ是レ本編ノ規定ヲ設ケラレタル所以ナリ

本編ノ規定ハ仲裁契約仲裁人ノ選定仲裁判斷ノ手續等ヲ定メタルモノナリ蓋シ仲裁契約ハ一個ノ法律行爲ナレハ之ニ關スル規定ハ實體法ニ依ル可ク仲裁手續モ國家ノ裁判所ニ於ケル手續ニ非ラサレハ縱令其形式ニ係ルモ民事訴訟法ノ範圍ニ屬セサルモノ、如シト雖モ之ヲ本法ニ編入シタ宜ノ爲メ本法ニ編入セラレタルモノナラン

第一章 仲裁契約

仲裁契約ノ本質ハ前陳ノ如ク一個ノ契約ナルカ故ニ其成立要素無効取消及ヒ消滅原因等ハ總テ法律行爲ノ原則ニ從フ可キモ其契約ニ關スル特別

ノ成立要素特別ノ消滅原因アルヲ以テ之ヲ攻究セン

(第一) 仲裁契約ノ成立要件

仲裁契約ノ成立ニハ其目的及ヒ當事者ノ能力ニ付キ特別ノ要件アリ

(一) 仲裁契約ノ目的ハ争ニ係ル私權關係ニシテ和解スルコトヲ得ヘキモノタルコトヲ要ス

(イ) 私權關係タラサル可カラス 權利ノ問題ニ非ラスシテ事實上ノ争ニ付キ第三者ノ判定ヲ受ケントスルカ如キハ仲裁ニ非ラス又公權ニ關スルモノハ茲ニ所謂仲裁ニ非ラス

(ロ) 争ニ係ルモノタルコトヲ要ス 争ナクハ固ヨリ仲裁ナシ其争ハ現在タルヲ一般トスレトモ將來ノ争ニ付テモ一定ノ法律關係又ハ其關係ヨリ生スル争ニ付テモ仲裁契約ヲ爲スコトヲ得(第七百八

條) 和解シ得ヘキ法律關係ナラサル可カラス 和解ハ相互ニ一部ノ拋棄ヲ爲ス可キモノナレハ(民法第六百九十五條) 拋棄シ得ヘキ權利ナルコトヲ要ス故ニ事身分上ニ關シ拋棄ヲ許サ、ルモノ、如キハ仲裁契約ノ目的トナスコトヲ得ス

(三) 係争ノ法律關係ニ付キ一私人タル第三者ノ判定ヲ受クルコトヲ目的トセサル可カラス 單ニ雙方間ノ調停ヲ受クルニ止マルカ如キハ仲裁ニ非ラス而シテ其第三者ハ特定ノ人ヲ指示スルコトヲ要セス故ニ第三者ノ判定ヲ受クルコトヲ約セハ仲裁人ヲ指示セサルモ仲裁契約ノ成立ニ妨ケナキナリ

(二) 仲裁契約ヲ爲ス當事者ノ能力 當事者ハ一般法律行為ノ能力ヲ有スルノ外其目的物ニ付キ和解ヲ爲ス權能アルコトヲ要ス(第七百八)是レ仲裁ノ結果ハ權利主張ノ一部ヲ甘諾セサル可カラサルニ至レハナリ

仲裁契約ノ要件ハ右ノ如シ右ノ外尙ホ當事者ハ仲裁契約ニ於テ任意ニ仲裁人ヲ指定シ又ハ其選定方法、仲裁判斷ヲ爲ス手續、仲裁人ノ評議法等ヲ定メ或ハ仲裁事件ニ付キ強力ヲ與フル管轄裁判所ノ合意ヲ爲スヲ妨クス此場合ニ於テハ其約款ハ仲裁契約ノ要旨ナレハ其仲裁手續ハ之ニ從フコトヲ要ス(第七百八十四條、第七百九十三條、第七百九十八條等)就中仲裁契約ニ於テ選定シタル仲裁人ハ其人ノ決定ヲ信シ之ヲ目的トシテ契約ヲ爲シタル

モノト認ム可キカ故ニ其仲裁人カ仲裁判斷ヲ爲スヲ得サルニ於テハ此契約ハ實行ノ不能ニ因リ消滅ス(第七百九)

(第二) 仲裁契約ノ效力

仲裁契約ハ一個ノ契約ナレハ當事者ヲ羈束スル效力アルヤ勿論ナリ而シテ其羈束ノ範圍ハ左ノ如シ

(一) 當事者ハ仲裁判斷ヲ受クルノ義務アリ

(二) 當事者ハ取消ノ原因ナキ以上ハ仲裁判斷ニ從ハサル可カラス(第八) 契約ハ第三者ニ對シテ其效力ヲ及ホサ、ルヲ以テ原則トス仲裁契約ト雖モ亦然リ故ニ仲裁契約ニ於テ仲裁人ヲ指定シタリトスルモ第三者ト當事者トノ間ニハ別ニ一個ノ法律行為アルニ非ラサレハ第三者ヲ羈束スルコトヲ得ス是ヲ以テ仲裁契約ニ於テ指定シタル仲裁人ナルト當事者各自ノ選定シタル仲裁人ナルトヲ問ハス仲裁人ヲシテ仲裁判斷ヲ爲スノ責ヲ負ハシメンニハ其職務引受ノ承諾アルヲ要ス此承諾ハ仲裁人ト當事者トノ間ニ於ケル法律行為ニシテ仲裁契約トハ別個ノ關係タリ而シテ仲裁人ノ職務ノ引受承諾ハ他人ノ爲メニ法律行為ヲ爲スニ非ラ

サレハ純然タル委任關係(民法第六百四)ニ非ラスト雖モ他人ノ爲メニ事務ノ委託ヲ受ケタルモノナレハ事務委任ノ關係ヲ生ス(民法第六百五)

減 仲裁契約ノ消滅

(第三) 仲裁契約ノ消滅

仲裁契約ハ一般契約消滅ノ原因ニ因リ消滅ス故ニ混同ニ因リテ消滅スルコトアリ當事者ノ合意ヲ以テ解除スルコトアリ此等ノ普通消滅原因ノ外本法ノ特定スル所ニ依リ仲裁契約ニ別段ノ處分方法ヲ定メサルトキハ左ノ場合ニ於テ消滅ス(第七百九)

(一) 仲裁契約ニ於テ選定シタル仲裁人ニ付キ左ノ原因アルトキ

(イ) 仲裁契約ニテ選定シタル仲裁人ノ死亡

(ロ) 同上ノ仲裁人ノ死亡以外ノ原因ニ因ル欠缺

(ハ) 同上ノ仲裁人ノ職務引受拒絕 仲裁契約ニ於テ仲裁人ヲ指定スルモ第三者ハ仲裁ノ職務引受ノ承諾ヲ爲サ、ルトキハ之カ實行ノ責ナキコト前ニ述ヘタルカ如シ故ニ引受ノ拒絕ヲ爲スコトアル可シ

(ニ) 同上ノ仲裁人ト當事者間ノ仲裁委託契約ノ解除 仲裁人カ仲裁

ノ契約ヲ爲シタルトキハ一種ノ委託契約ナルコトハ前ニ述ヘタル所ニシテ契約ナル以上ハ一般原則ニ從ヒテ解除スルコトアル可キハ勿論ナリ此解除ハ直チニ仲裁契約ノ解除タルニ非ラサレトモ仲裁人カ其職務ヲ行ハサルニ至ルハ引受拒絕ノ場合ト同一ナリ

(ホ) 同上仲裁人カ職務履行ヲ不當ニ遅延シタルトキ 仲裁契約ニ於テ指定シタル仲裁人ハ當事者カ其人ノ判定ヲ目的トシテ契約ヲ爲シタルモノト云フ可シ故ニ其仲裁人カ職務ヲ行フ能ハサル以上ハ契約ノ本旨ニ從ヒ實行スルヲ得サル筋合ナルヲ以テ仲裁契約ノ消滅原因トナスニ在リ尤モ職務ノ履行遅延ハ全然履行ノ不能ニ非ラサルモ之ヲ督促スルモ尙ホ遅延セハ到底其目的ヲ達スルコト難シ契約ニ於テ指定セサル仲裁人ニ付テハ之ヲ忌避ノ原因トナセトモ(第七百九)忌避ノ結果ハ仲裁人ノ欠缺ニ歸シ到底消滅原因ナルヲ以テ遅延ノ一事ヲ以テ直チニ消滅原因トナセシモノナリ

(二) 仲裁人ノ意見カ可否同數ナル場合ニ於テ仲裁人ヨリ之ヲ當事者ニ通知シタルトキ

以上仲裁契約ノ成立要件、效力及ヒ其消滅原因ヲ攻究シタルカ故ニ其成立若シハ消滅ニ付キ争アルトキハ訴ヲ提起シ之ヲ確定スルコトヲ得其訴ハ本法第八百五條ニ定ムル所ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス此點ニ付テハ後ニ詳説ス可シ

第二章 仲裁機關ノ編成

仲裁機關ノ編成ニ關シテハ左ノ順序ニ依ラサル可カラス

仲裁人ノ選定

(第一) 仲裁人ノ選定

仲裁人ノ選定ニ付テハ仲裁契約ノ趣旨ニ依リ種々ノ區別アリ

(二) 仲裁契約ニ於テ仲裁人ヲ指定スルコトアリ斯ル場合ニ在リテハ別段ノ選定手續ヲ要セス其契約ノ趣旨ニ從フノミ

(三) 仲裁契約ニ於テ仲裁人選定ノ手續ヲ定ムルコトアリ例ヘハ其選定ヲ第三者ノ指名ニ委ヌルカ如キ是ナリ此場合ニ於テモ其契約ニ定メタル手續ニ從フ可キモノナリ

(四) 仲裁契約ニ於テ仲裁人ノ指名モナク其選定手續ヲモ定メサルトキ

ハ本法ノ規定ニ從ヒ當事者ハ各一名ヲ選定スルノ權ヲ有ス此選定手續ハ仲裁手續ヲ開始セントスル當事者ノ一方ハ先ツ仲裁人一名ヲ選定シ之ヲ相手方ニ通知シ相手方モ亦七日内ニ仲裁人ヲ選定シ通知ヲ爲スコキコトヲ催告ス可ク相手方ハ此催告ニ從ヒ仲裁人ノ選定及ヒ其通知ヲ爲スコキモノナリ(第七百八)一度選定ヲ通知シタルトキハ其選定ニ羈束セラレ相手方ノ承諾アルニ非ラサレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス(第七百九)

此手續ニ依リ選定シタル仲裁人カ死亡シ若クハ欠缺シ又ハ職務ノ引受ヲ拒ミタルトキハ其選定ヲ爲シタル當事者ハ相手方ノ催告ニ依リ七日内ニ更ニ仲裁人ヲ選定シ之カ通知ヲ爲サ、ル可カラス(第七百九)仲裁契約ニ定メタル仲裁人ニ付キ此原因アルトキハ仲裁契約ハ消滅スト雖モ當事者ノ選定シタル場合ニハ其人ヲ以テ仲裁契約ノ目的トナサ、ルカ故ニ其適用ヲ異ニス
以上相手方ノ催告ニ因リ仲裁人ヲ選定ス可キ二個ノ場合ニ於テ七日内ニ之カ選定ヲ怠リタルトキハ一方ノ申立ニ因リ本法第八百五條ノ

仲裁人ノ忌避

(第二) 仲裁人ノ忌避

管轄裁判所之ニ代リテ之ヲ選定ス可キモノナリ(第七百八十九條)

仲裁人タル資格ニ付テハ法律上別段ノ規定ナシ故ニ當事者ハ相當ト信スル者ヲ選定スルコトヲ得ヘシト雖モ仲裁人ニ顯然タル不適當ノ原因アルトキハ之ヲ忌避スルコトヲ許ス而シテ仲裁人ノ忌避ハ自ラ選定シタル仲裁人ニ付テモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ仲裁契約ニ於テ指定シタル者ニ付テハ當事者雙方之ニ羈束セラル可キヲ以テ之ヲ忌避スルコトヲ得ス唯忌避ノ原因アルコトヲ知ラスシテ契約シタル場合ニノミ之ヲ忌避スルコトヲ得

(一) 忌避ノ原因ハ左ノ如シ(第七百九)

(イ) 判事ヲ忌避スルト同一ノ原因アルトキ(第三十二條乃)

(ロ) 仲裁人カ無能力者、聾者、啞者、剝奪公權又ハ停止公權ヲ受クル者ナルトキ

(ハ) 各當事者ノ選定シタル仲裁人カ職務ノ履行ヲ遲延シタルトキ
仲裁契約ニ於テ指定シタル仲裁人ニ此原因アルトキハ契約消滅ノ

原因トナルモノトス

(二) 忌避ノ手續

忌避ノ原因アル場合ニ於テ當事者ノ合意ヲ以テ他ノ仲裁人ヲ選定スルトキハ忌避ノ手續ヲ要セス若シ之ヲ爭フトキハ第八百五條ノ管轄裁判所ニ訴ヲ提起シテ判決ヲ受クルコトヲ要ス此訴ヲ提起スルモ仲裁手續ノ進行ヲ妨ケス(第七百九)其訴ニ於テ忌避ヲ正當トシタルトキハ之ヲ選定シタル者ハ相手方ノ催告ニ因リ更ニ仲裁人ヲ選定セサル可カラス

(第三) 仲裁ニ關スル裁判上ノ共助

仲裁ハ固ヨリ一私人ノ判斷ヲ爲スモノナレハ國家機關ノ干與ス可キ所ニ非ラスト雖モ其仲裁契約ノ實行ノ爲メ仲裁人ノ選定、仲裁人ノ爲シ得サル手續上ノ助力及ヒ其判斷ノ結果ニ付キ實行ノ保護ヲ與フルカ爲メ裁判所カ之ニ共力ヲ與フル場合ハ本編中各所ニ規定スル所ナリ而シテ此共力ヲ與フル裁判所ハ仲裁契約中ニ於テ其管轄ノ合意ヲ爲シアレハ之ニ從フ可ク然ラサレハ爭ニ係ル請求ヲ裁判上主張スル場合ニ於テ管

仲裁ニ關スル
裁判上ノ共助

轉ス可キ裁判所ノ管轄ニ屬ス而シテ其裁判所數個アルトキハ最初其事
件ニ關係シタル裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトス(第八百五條)

第三章 仲裁判斷

仲裁判斷ニ付テハ左ノ區別ニ依ラサル可カラス

仲裁判斷ヲ爲
ス手續

(第一) 仲裁判斷ヲ爲ス手續

此手續ハ法律行為ノ原則ニ從ヒ法律ニ違背セサル限りハ仲裁契約ニ於
テ之ヲ定ムルコトヲ得之カ定メアルトキハ之ニ從ハサル可カラス其定
メナキトキハ仲裁人ノ意見ヲ以テ相當ニ其手續ヲ定ム可キモノナリ(第七
百九十條)然レトモ仲裁人ノ意見ニ依ル場合ニ於テモ必ス遵守セサル可カ
ラサルモノト到底仲裁人ノ爲スコトヲ得サルモノトアリ

(二) 仲裁人ハ仲裁判斷ヲ爲ス前ニ必ス當事者ヲ審訊シ且爭ノ原因タル
事實ヲ探知スルコトヲ要ス其探知ノ爲メニハ證據ヲ調ヘ任意ニ出頭
シタル證人鑑定人ヲ訊問スルコトヲ得(第七百九
十五條)

(三) 仲裁人ハ仲裁契約ニ定メアルト否トヲ問ハス威力ヲ用キルノ權ヲ

シ故ニ證人鑑定人ニ出頭ヲ命シ又ハ之ニ宣誓ヲ爲サシムルコトヲ得

ス(第七百九十五條)然レトモ仲裁人カ判斷ヲ爲スニ當リ或證人ノ供述ヲ聞ク

ニ非ラサレハ到底其爭ヲ決スル能ハサル場合アル可シ斯ル場合ニ於

テ證人カ任意ニ出頭セサルトキハ裁判所ノ共力ヲ求ム可キモノトス

仲裁判斷ノ手續ニ關シ前陳ノ如ク仲裁人ノ爲スコトヲ得サル行為ヲ必

要トスルトキハ當事者ハ本法第八百五條ノ管轄裁判所ニ之カ共力ヲ求

ムルコトヲ得而シテ此場合ニ於テハ裁判所ハ其申立ニ付キ仲裁判斷上

ニ必要ニシテ之ヲ許ス可キモノナリヤ否ヤヲ調査シ果シテ相當ト認ム

ルトキハ其中立ニ因リ共力ヲ與フ可キモノナリ此場合ニ於テ爲ス證人

鑑定人ノ訊問ノ如キハ一般ノ規定ニ從テ爲スモノトス(第七百九
十六條)

仲裁手續ノ進行中當事者カ仲裁契約ノ成立ヲ爭ヒ仲裁契約ヲ許ス可カ

ラサルモノナルコトヲ主張シ或ハ仲裁人カ其職務施行ノ權ナキコトヲ

主張シ之カ爲メニ訴ヲ提起スルコトアルモ仲裁手續ノ續行ヲ妨ケス(第七
百九十條)

(第二) 仲裁人ノ評議法

仲裁人ノ評議
法

民事訴訟法正解 仲裁手續 仲裁判斷